

No. 57 >>> Contents

●トピックス

山梨にて養蚕 150 年	山梨県富士川町	芦澤洋平	1
養蚕農家の後継者としての思い	福島県二本松市	本多明彦	3
JA なす南の繭とオリジナルブランド振袖の地元への広報活動について	JA なす南	営農部畜産課 養蚕担当 河又裕子	5
経済変動と蚕糸業への影響	前大日本蚕糸会会頭	高木 賢	7
甲斐絹と山梨ハタオリ産地の“今”	甲斐絹グループ代表 (株) 甲斐絹座 代表取締役	前田市郎	12
新しい市場の創造する原動力 ～伝統工芸の若い担い手たちに期待すること～	木下着物研究所 代表	木下勝博	14

●蚕糸・絹業史のひとコマ

各地の蚕の呼び方・戦後から平成時代の絹織物業	シルク博物館 元部長	小泉勝夫	16
------------------------	------------	------	----

●シルク豆辞典

蚕の発育と温度	東京農工大学農学部蚕学研究室 准教授	横山 岳	20
---------	--------------------	------	----

●研究・技術情報

桑栽培のポイントと年間の桑園管理作業の流れ	一般財団法人大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 嘱託研究員	市橋隆壽	26
消毒の作法 — その1 春蚕期が始まる前に施設と蚕具を消毒しよう —	一般財団法人大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 主任研究員	野澤瑞佳	29
遺伝子組換えカイコの現状と今後の展望	農業・食品産業技術総合研究機構 (農研機構) 顧問	町井博明	35

●蚕糸・絹業団体情報

(一財)シルクセンター国際貿易観光会館の紹介	シルク博物館 館長	坂本英介	40
------------------------	-----------	------	----

●イベント情報

●一般財団法人大日本蚕糸会から

平成 29 年度第 4 次分の純国産絹マーク使用許諾状況	45
純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 (H29- 第 4 次)	48
一般財団法人大日本蚕糸会活動日誌	55
「シルクレポートの誌面の見直し」について	56

●蚕糸絹関係博物館一覧

●蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

●統計資料 (統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。)

山梨にて養蚕 150 年

山梨県富士川町

芦澤洋平

はじめに

芦澤家が暮らしている山梨県富士川町は、赤石山脈と富士川に挟まれる場所に位置し、甲府盆地よりもやや標高が高いということもあり、風がよく通る養蚕に適した場所です。この地で芦澤家は明治2年（1870年）から代々養蚕業を続けており、私の代で6代目になる養蚕農家です。この約150年の間、臼彫りや石垣積み、米麦や乳牛、造園やしいたけなど様々な生業を副業部門としながらも養蚕を軸に継がれてきました。

特に1960年代初頭の祖父の代、当時、繭値の暴落から桑園を水田や果樹畑に転換する動きが活発に進められていた時期にもかかわらず、大切に育てていた乳牛2頭を売り、代わりに桑畑を購入し広げたそうです。父も1994年に大型蚕舎の中に多段循環式飼育装置や桑条切断機等の設備を取り入れ規模拡大をはかり、現在使用している桑園が約340aまで拡大しました。また、山梨県内の人工稚蚕飼育の受け入れも行っており、地域養蚕の存続の一翼を担ってきたと思います。昨年は父が黄綬褒章を受賞したということもあり、その偉大さと家業150年という重みを感じています。私は、幼少

のころから何かと手伝わされていた家業を当時は毛嫌いしており、次男ということもあって、高校卒業後は都内の動物飼育の専門学校を卒業したのち、目指していた動物園に就職をしました。その後、生き物の飼育管理という共通点から、仕事の延長で養蚕業の現状を改めて見直したことをきっかけに、家業に従事する決断を致しました。

昨年の養蚕成績と考察

平成29年度は年間6回の掃立を行い2,423kg（内白麗328kg）の成績でした。

普通蚕種の夏（6月21日掃立）と初秋（7月19日掃立）の収量が、春（5月5日掃立）、晩秋（8月30日掃立）に比べて半分程の箱収という結果でした。原因は夏の猛暑と消毒不足によるものと考えています。

毎年異常気象が続くなか、外的環境に左右される養蚕飼育をいかにカイコに影響を与えないようにするかが課題ですが、そのための設備や道具を導入し補ってもなかなか難しい状況です。機械だけに頼るのではなく緑や風、水など様々なエネルギーを利用し施設内の熱を逃がすような工夫を今まで以上にしていく必要があると思います。また桑園の除草作業にも苦労しました。夏

の猛暑の時期や五齢の繁忙期の桑取作業の負担をできるだけ減らすという為にも、冬の閑散期から効率よく雑草を抑制するような改善が必要だと痛感しました。他にも病原菌や隣園からの農薬被害等の配慮といった、見えづらい敵からの対処を要所で目視化するなどの対策を取ることで、影響をできるだけ避けたいところです。さらに経営面から考えると経費の削減や機械や蚕具のメンテナンスなど諸々の課題はつきないですが、こういった課題の解決を喜びに変えて、より良い成績を出すために挑戦していきたいと思っています。

養蚕を絶やさないために

平成 26 年度から老朽化した桑園の改植を行っており、助成を頂きながら計

10,000 本の桑苗を将来のために植え替えました。改植した畑は、この先、約 20 年は緑々と桑の葉を広げてくれると思います。この 20 年をみただけでも世の中は急激な変化が続き、養蚕農家も高齢化し、減少してきていますが、山梨県では私以外に 2 名の新規養蚕就農者が現れました。時代が変わっても、まだまだお蚕さんが吐く糸は変わらず魅力的だと思いますし、天然素材の絹を必要とされている方も変わらず多くいると思います。今はまだ生産技術の習得に勤しむ身ですが、150 年続いた家業の養蚕を絶やさないためにも、消費者や川下からの要望にしっかり答えていけるような、また養蚕農家から蚕糸の魅力を発信できるような養蚕農家になれるよう励んでいきたいと思っています。



稚蚕飼育



多段循環式飼育装置



上簇室

養蚕農家の後継者としての思い

福島県二本松市

本多明彦

私が養蚕を本格的に始めて、3年目になります。私の家は、私が産まれる前から、長く養蚕、水稻、季節野菜を生産してきた農家で、小学校高学年の頃には、夏休み等に給桑等の手伝いをしていました。家業を継ぐ前は、運送業の仕事をしていたのですが、4年前に父が病気で1年間、入院することになり、丁度、運送の仕事を辞めるか悩んでいた時に、一緒に養蚕をしようと説得され、会社を辞めて、養蚕の勉強をスタートしました。養蚕に従事してみると、春蚕から初冬蚕まで休みが無く仕事が続き、

野菜の方にも手を掛けなくてはならなくて、体力的に続けて行けるか不安になりました。病気から復帰した父と母が、平然と仕事をしているのを見て、1番若い自分が、負けていられないと、闘志を燃やし、1年目と2年目を乗り切って来ました。両親、祖母は何十年とこの仕事を続けてきたということに、本当に凄い人達だと思いました。

昨年までを振り返って

私が、家業を継ぐ為の勉強をスタートさせたのは2年前。その前年、父が1月から10月まで入院してしまい、この1年は、養蚕、水稻、野菜が何も出来ない状態だったので、桑畑は荒れてしまいました。イノシシが畑の中を歩き回り、桑の木の根を掘り起こして食べ、桑は枯れ、地表は軽トラックも乗り入れ出来ない程、ボコボコになってしまいました。

また、1年間除草剤を撒かず、草刈りをしなかったため、雑草の蔓が桑に絡みついてしまい、ジャングルの様でした。そのため、1年目は出荷の回数を減らして、桑畑の整備に力を入れました。幸い、二本松市がイノシシ対策を進めてくれたので、イノシシの被害は少しずつ減ってきましたが、



堆肥の散布



堆肥を散布した桑畑

雑草の駆除には手を焼きました。アレチウリ等の除草剤が効かない外来種が増えてしまい、翌年も苦勞させられました。

平成 28 年は、天候が全く味方をしてくれない 1 年でした。養蚕だけでなく、水稻、野菜にも大きく影響しました。冬は雪が殆ど降らず、春は真夏の様な暑い日が続き、桑畑や野菜の畑が乾燥し、水不足になりました。ところが、平成 29 年は夏に雨が多く降り、結果的に日照不足になり、桑も伸びず、葉の色も薄く良い桑とは言えない状態で給桑することになりました。野菜も収穫量が大きく減ってしまいました。秋は例年以上に気温が下がり、飼育室、上簇室の温度管理で練炭、石油を多く使いました。晩秋蚕、晩々秋蚕、初冬蚕のシーズン終盤に、ごろつき蚕、薄皮繭等が多く出てしまい、選繭の際、本当にショックでした。温度管理、消毒をしっかりと行ったのですが、まだまだ見直す必要があったのだと思います。

対策と目標

天候に恵まれなかったこともあります。が、昨年の失敗を経て、少しずつですが今

シーズンに向けて準備を始めています。桑の剪定と同時に軽トラック 40 台分の豚の糞を土壌改善のための堆肥として撒いています。さらに、剪定をしながら大量に増えてしまったアレチウリ等の雑草を見つけて 1 本 1 本、根ごと駆除をしています。地元の道の駅で桑茶の生産・販売をしている方がいるので、桑の管理等のアドバイスを頂けたらと思います。また、飼育室の消毒は勿論ですが、雪が降って外での作業が出来ない時に、回転簇と回転ボールに絡み付いている繭糸をブラシで清掃しています。回転ボールは 1 枚 1 枚を 1 マス 1 マス丁寧に清掃するので、1 日に 150 枚程しか出来ませんが、1 つ 1 つの作業を丁寧に行い、今年は昨年以上に優良な繭を提供したいと思っています。

まだまだ、農業初心者なので、父を始め、周りの方々から指導をうけて一人前の家業を継ぐ者になろうと決意しております。



回転簇の清掃具

JA なす南の繭とオリジナルブランド振袖の地元への 広報活動について

JA なす南 営農部畜産課

養蚕担当 河又裕子

平成 29 年 11 月 4 日～5 日、第 19 回 JA まつりにおいて、(株)高島屋オリジナル振袖「誰が袖好み」の試着体験会を行いました。

成人式を控えた女子に振袖を無料で体験していただくコーナーで、平成 24 年から始まり、今では地元女子中学生に静かな人気を集めているコーナーです。

初めての振袖購入者は、平成 28 年の体験会に参加された方です。

JA なす南の養蚕のとりくみ

JA なす南は栃木県の東に位置する那須烏山市と那珂川町を管轄としています。茨城県境は八溝山系が連なり、中山間地域と呼ばれる、畜産や畑作の行われてきた地域です。以前は農業の副業として養蚕を行う者もたくさんおりましたが、だんだん減少し、現在は 4 軒の農家さんがこだわりの養蚕を続けています。

輸入絹製品の増加による繭価格の低迷に対抗するため、価値のある繭、特に日本のキモノに適する生糸がとれる繭の生産に力をいれてきました。節のない細くしなやかな生糸を作るために、繭をあえて大きくせずに、収量よりも品質を重視しています。選繭も丁寧に行います。



そのような努力の甲斐あってか、16 年ほど前、純国産オリジナルブランド振袖の企画が持ち上がっていた高島屋さんと出会うことができました。提携グループの働きもあり、JA なす南の繭のみを使用した高島屋オリジナルブランド振袖「誰が袖好み」ができあがりました。

JA まつりへの出店

「地産地消」という言葉があたりまえに使われるようになった頃、JA から、JA まつりに「誰が袖好み」を展示したらどうかという話がありました。正直なところ最初は、地産地消と云っても、加工の大部分は県外ですし、土臭い野菜や米と並べて高級着物を展示してよいものかと疑問を持ちながらのスタートでした。案の定、始めの 2 年間は、お客様も場違いな展示物に高価な

ものを買わされる恐怖を感じたのか、なかなか見に来てくれませんでした。

転機があったのは3年目です。JAからもっと客を集めるよう促され、試着体験だけでなく、まゆ細工コーナーを設けてはどうかと提案しました。繭玉や生きた蚕を展示して養蚕そのものをPRしてみてもどうか、キモノができる工程を紹介してこそ「地産地消」につながるのではないか、と思ったからです。まゆ細工といっても簡単な動物やアクセサリを自由につくってもらいました。子供たちがたくさん集まり、付添いの大人たちも、「あら、まだ養蚕やっているのね？ なつかしいわ。」と気楽に話をしてくれるようになりました。中学生には試着体験を進めました。最初は恥ずかしそうに遠慮しますが、なんとか説得して着てもらおうと、“あら不思議”ととても嬉しそうにスマホで写真を取り、数分後には友達をさそって来てくれました。美しいキモノには人を惹きつける不思議な力があるようです。



購入第1号のAさんは、那珂川町に住む祖父母とJAまつり（平成28年）に訪れた



際、試着体験をしました。「初めて振袖を着て、すごく気持ちがよかった。買ってくれた祖父母に感謝しています。」と感想を述べられ、今年、宇都宮市の成人式に出席されました。

JA 他部署との連携

平成29年からJAなす南金融共済部では「振袖定期積金」という金融商品を扱っており、成人式をひかえたお子さんを持つご両親や祖父母に積立貯金を薦めています。積立を申込まれた方には、金利上乗せサービスをさせていただいた上に、「誰が袖好み^{たそでごの}」をご紹介します。

まゆ細工を作った子供たちは、いずれ、成人式を迎えるでしょう。大きくなって養蚕を始めてみたいなんて思うかもしれません。これからも地元の方々との交流を深めながら、JAの幅広い事業を大いに利用して、地元産絹製品を紹介していこうと思います。

経済変動と蚕糸業への影響

前大日本蚕糸会会頭

高木 賢

はじめに

日本の蚕糸業がかくまでに縮小したのは何故なのか。

この問題に取り組んで、先ごろ、「日本の蚕糸業の縮小過程とその要因」と題した論文をまとめた。この論文は、高崎経済大学地域科学研究所の「日本蚕糸業の縮小過程と蚕糸業文化の継承」という論文集の中に収録され、過日、日本評論社から出版された。論文そのものはかなり長く、要約は困難なので、興味のある方はそちらを読んでいただきたいが、さわりの点を一口に言えば、大きく2点、すなわち、生糸・絹織物の内外価格差が拡大し、外国のものが大量に流入し、国産生糸などの市場を侵食したことと、きものをはじめとする絹の需要が大幅に減退したこと、が蚕糸業縮小の要因であったことを述べたものである。

論文を書きつつ考えたことは、経済変動の影響の恐ろしさということであった。蚕糸業のように、その最終製品が生活必需品とは言えない物品は、景気変動などの経済情勢の変動や経済そのものの枠組みの変化に大きな影響を受けざるを得ない。そのことに敏感でないとやっていけないのであ

る。この点は、生活必需品である食料を生産している農業とは、かなり感覚が異なる。

戦前の生糸の栄光の時代にも、経済情勢の変動という事態はあった。顕著なものとしては、第一次世界大戦後の大不況のとき、昭和初期の世界の大恐慌のとき、主要輸出国であったアメリカで燃えない人絹が発明され、日本からの輸出生糸の使用先が靴下に限られていったとき、があげられる。

戦後は、ナイロンの発明により、靴下市場からも生糸は排除され、生糸の輸出は伸び悩んだ。しかし、高度経済成長により、きもの需要など国内市場が拡大し、昭和30年代から昭和40年代の終わり近くまでは、戦前の半分の生産規模ながら、それなりに良き時代が続いた。しかし、影は忍び寄っていた。高度経済成長に伴い労賃水準が上昇し、中国などとの内外価格差が生じ始めていたことである。そのことを端的に表していたのが、生糸輸出の激減・消滅と生糸輸入の開始・増加であった。

高度経済成長以後の経済変動と蚕糸業に対する影響

それでは、主な経済変動とそれが蚕糸業

にいかなる影響を及ぼしたのか、歴史的に見てみよう。

高度経済成長以後の日本経済の最初の大ショックは、昭和 46 年のニクソンショックと円高の開始であった。

それまで 1 ドル 360 円という固定された為替レートの下で、日本の輸出は増加し、貿易黒字が累積していたが、これが経済摩擦の要因となり、時のアメリカ大統領ニクソンは、ドルの金への交換を停止するとともに、貿易収支黒字国に対し、為替レートの切り上げを要求したのであった。紆余曲折はあったが、日本も変動相場制に移行し、12 月には、1 ドル 308 円（約 15% の切り上げ）になった。このことは、外国産のものが 15% 安く国内に入ることを意味していた。一方で、高度経済成長に伴い、労賃水準は高くなり、生産コストは上昇していたから、生糸の内外価格差は拡大することになった。為替レートの変動が影響し、昭和 47 年には、生糸の輸入単価の平均は、前年の 6,315 円から 5,796 円となり、輸入量は前年の 98,510 俵から 168,641 俵へと 2 倍近くに急増した(表 1)。その勢いは、48 年になってもやまず、ついに 49 年、ニクソンショックを受けて、46 年に議員立法で成立していた生糸の一元輸入制度が具体的に発動されるに至った。

第 2 の大きな経済変動は、昭和 40 年代末尾の物価高騰である。

昭和 47 年に成立した田中内閣による日本列島改造論に基づく積極的な財政金融政策により、地価の高騰をはじめ諸物価が高

表 1 外国産生糸の輸入量と価格の推移

暦 年	数量 (俵)	金額 (千円)	単価 (円 /kg)
S46 (1971)	98,510	37,322,914	6,315
S47 (1972)	168,641	58,641,979	5,796
S48 (1973)	143,341	77,785,192	9,044
S49 (1974)	98,677	54,342,093	9,178
S50 (1975)	41,078	19,409,155	7,875
S51 (1976)	35,819	17,750,124	8,259
S52 (1977)	55,918	28,698,223	8,554
S53 (1978)	83,833	39,230,943	7,799
S54 (1979)	60,467	31,955,639	8,808
S55 (1980)	49,598	28,707,182	9,647
S56 (1981)	15,254	6,332,341	6,919
S57 (1982)	38,252	19,532,983	8,511
S58 (1983)	40,489	19,054,097	7,843
S59 (1984)	25,389	9,754,661	6,404
S60 (1985)	34,979	12,922,442	6,157
S61 (1986)	32,616	9,364,761	4,785
S62 (1987)	24,280	5,755,298	3,951
S63 (1988)	32,612	8,307,880	4,246

注 1) 出展：蚕糸業要覧。

注 2) 生糸と玉糸の合計である。

騰していた。また、48 年、石油産出国であるアラブ諸国は、第 4 次中東戦争を契機として、石油の輸出量の削減、石油価格の引き上げの方針を打ち出し、これが物価高に追い打ちをかけた（49 年には、48 年比約 30% も消費者物価は高騰した）。これらのことは、労賃コストのさらなる上昇を通じて国内産の生糸や絹織物の価格の引き上げ要因となり、内外価格差が拡大するとともに、価格上昇により、国内の絹織物は敬遠され、需要の減退につながった。さらに、

物価抑制のため、今度は総需要抑制策がとられ、金融引き締めなどが実施された結果、物価の上昇はストップしたが、経済全体は、大不況となった。高度経済成長は完全に終焉を迎えた。消費マインドは冷却してしまった。

絹の世界では、従来と比べ、きものの価格は高くなる一方、消費者の購買力は低下するというダブルパンチを浴びたのであった。昭和48年に44万7千俵あった絹織物業者への生糸引渡量は、54年には28万4千俵と大幅に減り(48年対比36%減)、30万俵を割ってしまった(表2)。高度経

表2 絹の国内需要の推移

(単位:千俵)

年次	生糸引渡 純内需	輸 入			計
		絹糸	織物	二次製品	
S46 (1971)	397	1	18	-	416
S47 (1972)	493	1	29	-	524
S48 (1973)	447	2	43	-	491
S49 (1974)	355	4	29	-	389
S50 (1975)	382	55	48	6	491
S51 (1976)	346	57	49	9	461
S52 (1977)	280	28	43	12	362
S53 (1978)	338	40	52	15	445
S54 (1979)	284	34	53	18	390
S55 (1980)	247	31	44	21	342
S56 (1981)	231	21	42	24	317
S57 (1982)	244	14	42	26	326
S58 (1983)	196	15	30	29	269
S59 (1984)	177	20	28	30	255
S60 (1985)	191	16	39	32	279
S61 (1986)	152	24	40	48	264
S62 (1987)	156	21	42	63	283
S63 (1988)	206	20	44	79	348

出典：蚕糸業要覧、シルク情報、シルクレポート

済成長の終焉は、生活のスタイルの変化をも加速したものとみられる。家計収入の伸び悩みは、合理的生活様式の浸透に寄与し、いわゆるきもの離れが生活様式の面からも進行した。

しかし、きものの需要など本格的に絹の需要増進対策の検討を始めたのは、ようやく昭和54年ころになってからであり、その結果は、55年2月、蚕糸業振興審議会の中間報告として取りまとめられた。また、価格の面からは、それまで引上げ一方であった基準糸価について、ようやく56年3月になって、1,000円の引下げが提示された。それも、団体や政治の反対を受けて、40日間の論議の末、700円下げで決着した。

率直に言って、昭和54～55年ころまでは、経済全般の大変動にもかかわらず、惰性が支配していたといえよう。歴史にifはないが、もう少し早く路線転換ができなかったものかと思う。経済の大きな枠組みの変化や経済の変動状況の影響について、反射神経が鈍かったのではないかなんとも言わざるを得ない。これは筆者においても例外ではない。その後の期間を含めて経済動向に鈍感であったことについて大いなる反省をしている。

大きな経済変動の3番目は、昭和60年のいわゆるプラザ合意である。

昭和59年11月、いわゆる期中改定によって、基準糸価は2,000円引き下げられた。これによって糸価は安定し、国産生糸の流通も円滑化された。当時筆者は繭糸課長の職にあったが、やれやれと一安心した

ものだった。しかし、それも長くは続かなかった。蚕糸関係者にとって予想外の出来事が起きたからである。当時、円は1ドル240円程度で推移していたが、日本の輸出は増加し、大幅な経常収支の黒字を続けていた。60年9月、ニューヨークのプラザホテルで5カ国蔵相・中央銀行総裁会議が開かれ、交易条件を改めるため、ドル以外の通貨のドルに対する切り上げが決定された。これによって、翌61年には、1ドル150円程度になるなど急速に円高が進んだ（表3）。輸入生糸の価格の平均が60年に6,157円であったものが、61年には4,785円になった。安くなった外国産生糸は、内

外価格差のさらなる拡大をもたらし、国産生糸の引下げをしないと国内で流通しないという事態を招いた。かくして、62年3月、3回目の基準糸価の引下げ（2,200円の引下げ）が行われた。この措置は、プラザ合意による打撃の結果そのものであり、国産生糸の販売にとってはやむを得ないことであったが、これによって、養蚕・製糸とも大幅に採算が悪化した。片倉工業（株）の富岡製糸場が操業を停止したのはこの時期であった。以後、製糸工場の操業停止が加速する。

円高対策のための大型補正予算、超低金利政策などの結果、円高不況は克服されたが、後にバブルといわれた実体に乏しい景気上昇が実現された。

しかし、バブルは長続きせず、大きな4番目の経済変動として、バブルの崩壊が生じた。平成元年末に3万8,915円という高値をつけた株価は、平成2年になって下がり始め、平成4年8月には約3分の1の1万4,309円にまで下落した。各種のものに対する消費需要は沈滞した。上昇が続くと信じられていた地価も3年から下がり始めた。それに続く日本の経済状態は、今なおバブル崩壊の後遺症を脱却しきれていないといっていよいであろう。

株価や地価の下落は、消費や投資を冷え込ませる。また、将来不安を惹起^{じゃっき}させる。生活必需品以外の物の購入は後回しになり、生糸の需要は、外国産生糸を含め減退する一方となった。それとともに、基準糸価引下げに伴い養蚕・製糸の採算は大幅に

表3 為替の推移

暦 年	円/米ドル
S46 (1971)	346.51
S47 (1972)	303.28
S48 (1973)	271.67
S49 (1974)	292.08
S50 (1975)	296.79
S51 (1976)	296.55
S52 (1977)	268.50
S53 (1978)	210.44
S54 (1979)	219.15
S55 (1980)	226.69
S56 (1981)	220.55
S57 (1982)	249.06
S58 (1983)	237.48
S59 (1984)	237.53
S60 (1985)	238.53
S61 (1986)	168.52
S62 (1987)	144.61
S63 (1988)	128.13

出典：S46,47 は、ブルームバーグ。
S48以降は、日本銀行（東京市場）。

悪化した。所得対策などの対策が講じられたが、蚕糸業の縮小はとどまることを知らなくなった。

こうして、生糸の生産規模は、昭和 60 年のプラザ合意のころと比べると、その後の 20 年間で約 80 分の 1 に、現在ではな

んと約 400 分の 1 にまで縮小してしまっている（表 4）。

おわりに

以上述べてきたように、労働集約型産業である蚕糸業にとって、労賃水準の上昇がまずもって大きな影響を及ぼして内外価格差を発生させたのであるが、一方で世界経済などをはじめとする急激で大きな経済変動が内外価格差の拡大や絹の需要減退に大きな悪影響を及ぼしたことはいくら声を大にしてもしすぎることはないであろう。

絹という商品特性からして、これからも様々な経済変動の影響を受けざるを得ないであろうが、その影響を最小限にするためには、経済変動に関する情報に敏感でなければならないし、それに対して機敏に対応しなければならない。当面する事態について触れるならば、昨年秋以降中国産生糸の急速な価格上昇が続いていることに注意を要する。内外価格差の縮小ということに寄与する面はあるが、あまりに急激に進行すると国内の絹関係者が価格上昇を飲み込むことができず、他の繊維への振り替わりという事態が生ずることや安い労働力の他の国の急速な産地化ということも起こり得ることになる。いずれにしても、中国産生糸の価格の急上昇は、いかなる意味を持っており、また、我が国の蚕糸業にいかなる影響を及ぼすのであろうか。

経済変動や絹の世界的動向に対する絶え間ないフォローの必要性をあらためて痛感する次第である。

表 4 生糸生産量の推移

暦 年	生糸生産量 (俵)
S60 (1985)	159,859
S61 (1986)	139,013
S62 (1987)	131,073
S63 (1988)	114,362
H1 (1989)	101,301
H2 (1990)	95,347
H3 (1991)	92,110
H4 (1992)	84,748
H5 (1993)	70,899
H6 (1994)	65,017
H7 (1995)	53,810
H8 (1996)	42,976
H9 (1997)	31,698
H10 (1998)	18,459
H11 (1999)	10,829
H12 (2000)	9,312
H13 (2001)	7,191
H14 (2002)	6,521
H15 (2003)	4,791
H16 (2004)	4,387
H17 (2005)	2,508
H18 (2006)	1,956
H19 (2007)	1,747
H20 (2008)	1,588
H21 (2009)	1,152
H22 (2010)	882
H23 (2011)	731
H24 (2012)	506
H25 (2013)	409
H26 (2014)	446
H27 (2015)	378

出典：蚕糸業要覧、シルクレポート

甲斐絹と山梨ハタオリ産地の“今”

甲斐絹グループ代表

(株) 甲斐絹座 代表取締役 前田市郎

平成 29 年度から(一財)大日本蚕糸会が、「シルクのまちづくりに積極的に取り組む市町村（シルクのまちづくり市区町村協議会会員に限る。以下「シルク振興市町村」という。）の知名度を高めるため、純国産絹マークの告知や純国産絹製品及び国産絹製品（製造が国内の場合に限る。以下、同じ）の展示・販売に併せシルク振興市町村の物産展示・販売等のイベントを開催することにより、純国産絹製品の認知度の向上とジャパンシルクセンターへの来店者数の増加を図るものとします。」という趣旨のもとにジャパンシルクセンター活用事業が開始されたので、この事業を利用して平成 29 年 12 月 14 日（木）から 17 日（日）まで

の 4 日間、山梨県富士吉田市と甲斐絹グループとの共催で展示販売イベント「甲斐絹と山梨ハタオリ産地の“今”」を開催しました。

1) 展示・販売の概要

展示・販売内容としては、富士吉田市の観光資源である「富士山」、「吉田うどん」の PR 資料の展示、甲斐絹グループの代表でもある(株) 甲斐絹座のストール・ネクタイ等の純国産絹製品をはじめ、甲斐絹座構成企業の(株)前田源商店、(有)田辺織物、(株)榎田商店、山崎織物(株)で作られた地域の織物製品を販売しました。



今回は、特別に土・日も開館させていただきました。店舗は、丸の内仲通りに面しているので、人通りは多いのですが、ビジネスパーソン中心の平日（14～15日）と買い物、観劇等を楽しむ週末（16～17日）では客層が異なるので、展示・販売に当たっての考慮すべき事項ではないかと思えます。

2) 広報（集客）について

この事業については、集客は主催者が中心に行うこととなっていますので、今回初めてのケースとして、DM 発送配布(300部)と同時に SNS 広告（Facebook：掲載期間19日）を実施しました。

今回、SNS 広告対象者を千代田区在住の40～55歳の女性としましたが、効率的、効果的な広報手段として今後も利用できると思いました。

Facebook の閲覧者数は 2,991 人。「いいね！」等のアクションを起こした人数は 166 人で Facebook を見て来場された方が 15～20 人でした。



来場者数は平日と比べて、土・日は2倍あり、イベント等連動させ、土・日を開けることによって相対的な集客層を図ることも必要ではないかと思えます。

また、蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会の『絹女子プロジェクト』と同一時期であったことから、配布広告に掲載して頂きました。

結論

今回の展示イベントでの広報活動については、DM やチラシ等での集客よりも Facebook 等の SNS による集客が効果が有りました。

もちろん、SNS 広告は、配信する情報やターゲットの絞り込みの条件等により結果も様々になるかとは思いますが、確実に各ターゲットの携帯、及びタブレット端末に届くので集客効果は十分に期待できると思います。

特にジャパンシルクセンターにおいては、イベントのコンテンツを魅力的なものに充実させ、SNS でピンポイントに情報を送ることにより、来ていただける可能性が上がるのでは無いかと思えます。



新しい市場の創造する原動力 ～伝統工芸の若い担い手たちに期待すること～

木下着物研究所

まさひろ
代表 木下勝博

仕事として着物に関わるようになり十六年、ほぼ毎日着物の生活になり十三年が経過しました。

もともとIT業界でベンチャー企業の立ち上げに関わっていた私が、この世界に足を踏み入れるようになったのは、博多織の織元の5代目で学生時代からの友人から誘われたことがきっかけでした。

現在の仕事は着物を中心とした事業のプロデュースです。大手百貨店様の呉服商品部門や呉服メーカー様などが主なクライアント様です。百貨店様と産地をつなぎ新しい素材開発や商品開発を行ったり、メーカー様が提供される新商品やサービスを、既存の流通に頼らず、自ら新しいブランド作りをすることをお手伝いしています。

現在の仕事は、博多織元で新規事業の経験がその基盤となっています。同世代の団塊ジュニア世代をターゲットにした新しい着物ブランドを立ち上げ、ショップを出店。当初は福岡県に出店し、三年後に東京・六本木に出店、定期的に百貨店にも催事出店しました。その後、二年半前に後進に道を譲り、十三年勤務した同社を卒業し、現在に至ります。現在、そのショップは六本木ヒルズへ移転し、当時の部下たちが新しい

世代のお客様に日々着物の魅力を伝えています。

高度経済成長期は、作れば売れた時代ですが、残念ながら私たち世代はその時代は経験していません。今の時代は、物だけでなく情報の流通も高度に発達しています。本当に欲しいと思うものに対しては、消費者が貪欲に探しにくる時代だと言えます。見方を変えると、昔よりもチャンスは大きな時代だと言えるのかも知れません。

前職で私自身が経験したことは、作る側（製造者）と使う側（消費者）の間に立って、新しいコミュニケーションを創造してゆく作業だったと言えます。お客様の声に耳を傾け、今の時代にあった商品開発をし、その過程も含め、お客様と共有してゆくことで、景気に左右されにくい深い信頼関係を作ることができます。

去る2月9日（金）に東京・有楽町の蚕糸会館にて、雑誌『美しいキモノ・アカデミー』冬の出張講座が開催されました。「純国産宝絹の魅力と未来につなぐための次世代の挑戦」と名付けられたトークショーでは、若手の二人のゲストをお招きしました。銀座の呉服店「銀座もとじ」二代目の泉二



アカデミー会場

啓太さん（30代）と、江戸組紐「龍工房」三代目の福田隆太さん（20代）です。

お二人からは、現在の日々の活動と共に、これからの将来の展望について伺いました。泉二さんは、純国産絹のプラチナボーイの取り組みなどを通じて、養蚕農家さんや作り手との方々との交流について。そして、あとを継ぐ決心をしたお父様との素敵なエピソードをお話くださいました。また、福田さんは、メガヒットした映画「君の名は。」（主人公は組紐をする女子高生）に関わるエピソードや海外の展示会などの反応などについてお話くださいました。

お二人から感じたことは、まずは物作りや着物や絹を伝えていく強い使命感をお持ちだということ。次に感じたのは、プライベートでは一般の消費者と変わらないとてもお洒落な「最近の若者」であることです。お洒落やファッションに関しては、仕事を離れて一エンドユーザーでもあるわけ^{いち}です。

会場には平日にも関わらず、多くの着物姿の女性が来場してくださいました。今回は若い世代のお二人をこれから応援して頂



ジャパンシルクセンターにて
（左より福田氏、木下氏、泉二氏）

くための、ファンの決起集会のようなイベントになりました。“伝えるべき、残すべき”だからではなく、“伝えたい、残したい”という想いを共感して頂けるイベントになったように思います。

これから伝統工芸を担う若い担い手の方々には、ぜひ意識して頂きたいことがあります。まずは、先輩方から多くの専門的な知識や経験を学び継承して頂きたいということ。次に自らが一人の消費者として、その感性や感度を高めて頂きたいということです。作り手や商品を提供する側としての役割であると同時に、お客様とその想いを本音で共有できる存在であることがとても大切な時代になってゆきます。

想いを発信し共有されてゆくことが、これからの新しい市場を創造してゆくことに他なりません。時代の変化は早まるばかり、使われるツールや手段はどんどん変わってゆくことでしょう。しかし、その根底にある想いが本物であれば、新しい市場をお客様と共に創造してゆくことができるのです。

シルク博物館

元部長 小泉勝夫

その5 各地の蚕の呼び方

カイコは各地で「お蚕様^{かいこさま}」「お蚕さん^{かいこ}」「お蚕^{かいこ}」「おこさま」「おこさん」「おこ」など敬語をつけて呼ばれてきた。

全国各地のカイコの呼び方を調べてみると、敬語を使ったカイコの呼称ばかりではない。その数は非常に多いことに驚かされる。

旅先で地元の高齢者から、その地のカイコの呼び方を教えてもらったこともある。その呼び方は、その地域の人でなければ、カイコとは分からない方言も非常に多い。つまり特定の地域や地帯のみで使用されてきた用語で、その地域の人でなければ理解できないカイコを意味する言葉がたくさんある。それではこの一例を次に紹介しよう。

青森県旧五戸郡では「オヒメサマ」

青森県、秋田県、岩手県では「トドコ」

秋田県鹿角郡^{かつの}では「トトコサマ」、秋田県雄勝郡^{おがち}、岩手県気仙郡^{けせん}では「トトッコ」

秋田県旧平鹿郡では「ヒル」（蚕の幼虫の呼び方）

岩手県気仙郡では「トドッコ」「トドッコサマ」

岩手県下閉伊郡^{しもへい}では「トードコ」

岩手県岩手郡では「ドドコ」

山形県旧西田川郡・庄内、新潟県岩船郡では「シロサマ」

山形県庄内では「シロハン」

山形県西置賜郡では「ヒメ」

福島県南会津郡では「ノンノー」

福島県会津地方では「アトト」

埼玉県秩父地方や山梨県北都留郡^{きたつる}では「オシラ」

東京都大島、千葉県房総、静岡県では「ヒメッコ」

東京都八丈島では「コナ」

東京都三宅島・御蔵島・八丈島では「コナサマ」

神奈川県では「ヒメゴ」

山梨県や埼玉県秩父地方、神奈川県旧津久井郡では「オシラサマ」

山梨県や静岡県東部では「オシラサン」

山梨県南巨摩郡^{みなみこま}では「オボコサマ」「オボコ」

山梨県甲府市近在、新潟県では「ボコ」

山梨県では「オボコサン」

長野県上田市地域では「オムシ」

長野県では「ヒメコサマ」「ボボーサマ」

長野県東筑摩郡^{ひがしちくま}では「ボボ」

長野県旧更級郡、下水内郡^{さらしな}では「ボボー」

長野県下伊那郡では「メンメ」「メンメサマ」

長野県北安曇郡や新潟県刈羽郡^{かりわ}、

旧西頸城郡^{にしくびき}は「ボボサマ」

新潟県では「ボコ」「ボコサマ」「ヒメッコ」

新潟県佐渡、同県刈羽郡^{かりわ}では「ボコサン」

新潟県旧西頸城郡では「ボボサン」

静岡県旧富士郡では「オボコ」
静岡県田方郡^{たがた}では「オヒメサン」
静岡県旧庵原郡では「オンボク」「オンボコサン」「オンボクサン」「オンバクサン」
静岡県旧小笠郡では「コモデサマ」
静岡県旧阿部郡では「ボコンサン」
富山県では「オシナモンサマ」「コゴジョ」「コゴジョサマ」「コンギヤハン」
富山市近在では「オジョロサマ」
富山県砺波市^{となみ}では「コーガイサマ」
富山県砺波市、石川県河北郡^{かほく}、
岐阜県飛騨市は「コガイサマ」
富山県、京都府旧中郡では「コゴゼ」
富山県下新川郡^{しもにいかわ}では「コモジョ」
岐阜県飛騨市・旧郡上郡^{ぐじょう}では「コガイ」
三重県伊賀市では「ジョロー」
滋賀県では「イチトイ」
京都府では「コボセ」
京都府与謝郡^{よさ}では「コモゼ」
奈良県南大和では「ヒメガイコ」
鳥取県岩美郡の子供たちは「ボーシ」
島根県旧大原郡、静岡県榛原郡^{はいばら}では
「ヒメコサン」
島根県石見では「ヨメジョー」「ヨメジョーサー」
香川県では「コバエ」
長崎県壱岐島では「ケーゴジョー」
長崎県旧南高来郡、熊本県天草郡・同県球磨郡^{くま}では「キヤーゴジョ」
熊本県天草郡では「キャゴジョ」
大分県では「クワゴ」
熊本県八代郡^{やつしろ}、群馬県多野郡、愛知県知多郡では「ムシ」
宮崎県、鹿児島県では「ケゴジョ」
鹿児島県始良郡^{あいら}・旧揖宿郡^{いぶすき}では「ケコゾ」

「ケゴゾ」

鹿児島県鹿児島郡では「ケコゾサン」
鹿児島県では「ケコジョ」「ケゴジョー」
鹿児島県喜界島では「ムシガー」「ムスワー」
鹿児島県種子島では「カーゴ」「カーゴジョー」
鹿児島県徳之島では「ムシグア」
鹿児島県沖江良島では「ムシグアー」
鹿児島県奄美大島では「ムシグア」
沖縄県首里では「イトウムシ」
沖縄県八重山では「マンムシ」



カイコ 5 齢幼虫

このように「カイコ」の呼び方だけでも、都府県の各地域によって異なっており、その数は非常に多い。これもすべての都府県の各地域を調べきっているのではないので、更にこの数は増加するものと思われる。読者の故郷の言葉もこの中にあったらどうか。

これらの言葉の語源は、ほとんどが不明であるが、中には養蚕信仰から派生したと思われる用語などもみられる。

蚕糸用語には、ここに掲げた「カイコ」ばかりでなく、蚕具をはじめ飼育取り扱い等に至る地域用語がたくさんある。しかし紙面の関係からこれ以上の用語は省略した。

その6 戦後から平成時代の絹織物業

太平洋戦争後の経済は、深刻な不況状態が続いていた。ところが朝鮮戦争（昭和25年6月～昭和26年7月）が勃発すると、占領下に置かれていたわが国は、国連軍の補給基地となり、同軍による膨大な特殊需要（特需）が起こった。国連軍からの大量の軍事物資や織物の注文を受け、国際的な軍事景気も伴って輸出も増加し、繊維・金属を中心に特需景気となった。国内は「金へん景気」「糸へん景気」に沸き、産業はこの特需によって活況を呈し、戦後の厳しい経済不況から漸く脱出することができるようになった。「ガチャマン」（織り機でガチャンと一織りすれば1万円になるという意味）という言葉が生まれた時期でもあった。

織物業界は、その後も神武景気（昭和29年12月～昭和32年6月）、岩戸景気（昭和33年7月～昭和36年12月）、いざなぎ景気（昭和40年11月～昭和45年7月）などに支えられた面もあったが、経済不況等にも度々見舞われながら運営してきた。業界はこうした経済状況の中で、昭和50年代前半まで内需や輸出に支えられてきた。

国内の絹織物業界は戦後も和装が中心になって動いていた。特に昭和40年代のシルクブームによって内需が高められた。

戦後の絹業は絹織物の輸出によって再開

第1表

絹織物及び絹紡織物生産量

（単位：1,000 m、カッコ内は昭和30年を100とした指数）

年次	絹織物	絹紡織物
昭和30	154,124 (100)	20,479 (100)
" 35	209,310 (136)	10,783 (53)
" 40	167,651 (109)	7,921 (39)
" 45	192,362 (125)	8,450 (41)
" 50	159,772 (104)	8,700 (42)
" 55	145,284 (94)	6,605 (32)
" 60	108,314 (70)	6,050 (30)
平成2	79,346 (51)	4,318 (21)
" 7	54,508 (35)	5,069 (25)
" 9	52,031 (34)	3,350 (16)
" 14	26,824 (17)	1,054 (5)
" 17	19,816 (13)	579 (3)
" 22	11,612 (7)	
" 25	10,062 (6)	

出典：昭和30～平成7年は「蚕糸業要覧 1998」、平成14～17年は「シルクレポート」2008年7月号No.1、平成22年以降は「シルクレポート」2014年9月号No.38から抜粋。

注：カッコ内の指数は筆者が算出。平成22年以降の指数は昭和30年の絹織物と絹紡織物の合計から算出。

されたが、絹織物の輸出が減少しはじめた時期に絹のきものブームが起こった。

ところがこのブームが去ると、きもの離れが激しくなり、和装業界の運営は厳しい

第2表

主要絹織物産地の平成14～20年までの絹織生産量

年次	絹織物 生産数量 (単位:千㎡)	丹後 (白生地) 生産数量 (単位:反)	長浜 (白生地) 生産数量 (単位:反)	西陣(帯) 推定出荷 数量 (単位:本)
平成14	26,715 (100)	1,179,219 (100)	229,272 (100)	998,239 (100)
" 16	21,859 (82)	1,119,897 (95)	189,426 (83)	780,082 (78)
" 18	18,153 (68)	912,027 (77)	132,448 (58)	598,040 (60)
" 20	14,041 (53)	656,919 (56)	88,401 (39)	867,490 (87)

出典：平成14～18年は「シルクレポート」2008年7月号No.1、平成20年は「シルクレポート」2017年4月号No.53から抜粋

注：カッコ内の指数は筆者が算出

状態に置かれるようになった。特に昭和末期になると、海外から安い絹製品が大量に輸入されるようになり、更にこの時期に起こったバブル経済の波にさらされ、織物業界の経営は圧迫されだし、だんだんに転業や廃業に追い込まれていくようになった。特に平成初期には大きな織物関係業者が倒産する事態となった。

昭和60年代から平成時代に入ると、第1表にみられるように急激に右肩下がりの生産量となり、平成20年代には1955（昭和30）年の10%にも満たない生産量になってしまった。

第2表には主要織物地帯である丹後、長浜の平成14～20年までの白生地生産量

第3表

主要絹織物産地の平成21年以後の絹織物生産量

年次	絹織物 生産数量 (単位:千㎡)	丹後 (白生地) 生産数量 (単位:反)	長浜 (白生地) 生産数量 (単位:反)	西陣(帯) 推定出荷 数量 (単位:本)
平成21	9,955 (100)	503,365 (100)	73,681 (100)	746,538 (100)
" 22	3,611 (36)	515,721 (102)	84,023 (114)	859,244 (115)
" 24	2,912 (29)	451,503 (90)	62,910 (85)	645,679 (86)
" 26	2,734 (27)	400,192 (80)	53,174 (72)	600,917 (80)
" 28	2,243 (23)	310,271 (62)	38,063 (52)	488,144 (65)

出典：「シルクレポート」2017年4月号No.53

注：カッコ内の指数は筆者が算出。平成21年から調査対象が変更されたので第2表とは切り離して第3表に示した。

と西陣の帯推定出荷数量を示した。

この表から分かるように、わずか7年近くの間、主要産地の絹織物の生産量は大きく落ち込んでしまった。

平成21年からは主要産地の絹織物の生産量調査対象が変更になったため、第3表には、これ以後の生産量を示した。この表からも分かるように生産量は大きく減少してしまっている。

織物業界は非常に厳しい冷風にさらされているが、業界あげて現存一生懸命に取り組んでいる新しい諸事業を大きく開花させ、伝統ある日本の絹文化を守り続けたいものである。

蚕の発育と温度

東京農工大学農学部蚕学研究室

准教授 横山 岳

タイの養蚕

昨年（2017）、タイの東部のU県の養蚕農家を訪れる機会があった。そこでは江戸時代の日本の農家のように、自分の家で採卵、孵化、飼育して繭を得、そして自分の家で繰糸、染色、機織りと蚕糸に関することを一貫して行っていた。タイらしく高床式住居の床下のスペースで作業を行っていた（図1、2）。

飼育場には寄生蠅除けに網が張られており、飼育は竹の棚を組み、ザルで飼育していた。棚の足元には蟻除けのお皿が敷いていた。鼠害があるというので猫の飼育を勧めたが、皆さん猫は嫌いで犬が好きとか。多くの家で犬を放し飼いしていたが、猫はほとんど見かけず。

各農家で蚕を持っており、昔からずーっとそれを使っているとのこと。農家に尋ねても「お爺さん、お婆さんのその前から家で飼っているののでいつから飼っているのか分からない」とのこと。タイに中国から養蚕が伝わったのは2世紀位というから2千年近く前から各農家で飼い続けてきたのだろう。蚕に名前がありますか？と尋ねたところ「蛇の卵。繭の形が蛇の卵に似ているからでしょう」とのこと。熱帯の蚕の繭はどちらかという両端が尖っている。日本の蚕や中国の蚕の繭に比べて細長い。筆者は蚕の卵が専門で、蛇の卵はろくに見たことがない。タイの蛇の卵は細長いのだろうか？タイやインドの地域蚕品種はだいたい黄色の繭を作る。図3は「蛇の卵」の繭で、



図1 繰糸作業風景 2人一組で作業。
糸枠は使わず、籠に繰った糸を貯める。



図2 高床式住居の下での蚕飼育場



図3 タイの地域蚕品種「蛇の卵」の繭

黄色く細長い。典型的な熱帯の蚕の繭である。

日本の地域品種は卵で越冬し、かつては年に1回か2回しか孵化してこなかった。年に何回世代があるかその性質を化性という。年に1世代のものを1化性、2世代のものを2化性という。日本の地域品種は1化性か2化性である（もっとも大正期以降、人工的に何度も孵化させることができるようになっていく）。これに対してタイの地域品種は冬が無いので卵は休眠せず、産卵されてから10日程で孵化してくる。このように年に何度も世代を繰り返すので多化性品種と呼ばれる。中国からタイに蚕が伝わった頃は日本や中国の蚕のように卵で休眠していた筈だが、タイに伝わった蚕はいつしか冬の無いタイの環境に適応して休眠しない蚕になった。残念ながら記録が無いので何年（百年？千年？）前から多化性になったのか分からない。訪れた農家では年に7回孵化してくるので7回養蚕しているそうである。

だいたいどの農家もお母さんが蚕の世話をし、お父さんが米作りをしている。米作は違作があるので収入が安定しないそうだ。蚕の方が現金が手に入り、儲かるらしい。「では、お父さんよりお母さんの方がお金持ちだね。」とお母さん達に言うと「そうよ、私のお金は私のお金。お父さんのお金も私のお金」と笑っていた。お母さん達は元気であった。訪ねた時期（雨季の終わり）は米作の作業が少ない時期なのかお父さん達は暇そうで、お父さん達がゴロゴロ昼寝している中、お母さん達は機織りしていた。年に7回も蚕を飼っていたら、お母さん達に暇な時期は無い。

訪れた時期は丁度蚕の飼育が終わっていた。残念ながら実際の飼い方を見ることができなかったが、飼育室を見せてもらったり、飼い方を尋ねたりした。飼い方は蚕が孵化したら、飼う。蚕が繭を作ったら糸を繰る。蚕の都合にお任せであった。一寸、びっくりしたのはタイでは雨季と乾季があるが、どちらも飼い方が同じとのこと。日本の養蚕農家は春蚕と夏秋蚕では飼う品種を変えているし、飼い方も温度（飼育環境）に気を付けて飼っている。訪れたところでは、乾季は桑葉が足りないのか飼う量を減らしている位であった。お母さん達の飼っている「蛇の卵」品種は気の遠くなるような長い期間かかって雨季でも乾季でも育つ蚕に選抜されたのだろう。だから、雨季でも乾季でも、温度が高くても、湿度が高くても、どの時期でも育つ。ただし、繭は大きくない。

タイでは地域の農家の生活を向上させるべく、国、県が養蚕の普及を始めている。インドで成功した多化性と2化性の交雑種の卵を農家に配布して繭生産量を増やそうとしている。ところがなかなか上手くいかないとか。交雑種の繭はお母さん達の飼っている「蛇の卵」の繭よりも歴然と大きい。しかし、上手く農家では飼えていないようだ。交雑種では幼虫の経過も伸びるし、食べる量も多くなるが、お母さん達はそれまで蚕にお任せの飼い方を変えていないので生産量が安定しない。これまで雨季も乾季も同じ飼い方で養蚕していたので、変えるのは難しいだろう。先ずはお母さん達が計画的に飼育していることを自覚していかないと難しいだろうと思った。それには飼育の記録をコマメに記録していくのが良いと思う。

蚕と温度

四季のある日本の養蚕農家では季節、気温に敏感である。次表は農家で飼育されている蚕の飼育温度と発育の目安である。飼育室には必ず温度計が置いてあり、飼育を開始すると飼育室のカレンダーに飼育記録をつけていく(図4)。何月何日●℃、眠、何月何日○℃4齢桑付け、等々。変な話、温度を記録しても発育記録をメモしてもその蚕が大きくなることはない。ただ、温度が高かったり、低かった時に次の眠や上簇時期の見当がつく。また、以降の飼育の参考になる。

シルクレポート No.43 にも書いたことだ

表 蚕の飼育温湿度の目安

発育時期	温度℃	湿度%	経過日数
卵期	25	75~80	10
1 齢	28.5~29.5	85~90	3
2 齢	28	85~90	3
3 齢	27~28	85~90	3
4 齢	23~26		4
5 齢	21~25		6~8
上簇~吐糸	22~23	~70	2~3
吐糸~化蛹	23~24	~70	2~3



図4 温度計

左：明治期の温度計 華氏(°F)表示になっている。
右：昭和期の大きな温度計
残念ながら倒して本体を割ってしまった。

が、蚕の発育と気温(飼育温度)は強い関係がある。蚕は変温動物なので温度が低ければゆっくり発育するし、温度が高ければ早く発育する。蚕幼虫は10℃より寒いと発育しない。10℃が発育ゼロ点である。それより温度が高ければ動くことができ、発育する。気温から10を引いた分が「蚕にとっての温度」である。(気温-10℃)でどれ位蚕が過ごしているかでどれ位育つかが決まる。

例えば、気温15℃は蚕にとっては「5℃」、気温20℃は「10℃」、気温25℃は「15℃」となる。

・気温15℃(蚕にとっては「5℃」)で6日発育にかかるなら、(5℃×6日)。

- ・気温 20℃（蚕にとっては「10℃」）では 2 倍あるので、1/2 の 3 日かかる（10℃× 3 日）。
- ・気温 25℃（蚕にとっては「15℃」）では 3 倍あるので、1/3 の 2 日かかる（15℃× 2 日）。

それぞれ(5℃× 6 日) = (10℃× 3 日) = (15℃× 2 日) = 30℃・日と同じになる。このように気温が高ければ蚕の発育は早くなるし、気温が低くなれば発育は遅くなる。これは養蚕農家なら充分実感されている筈である（図 5）。

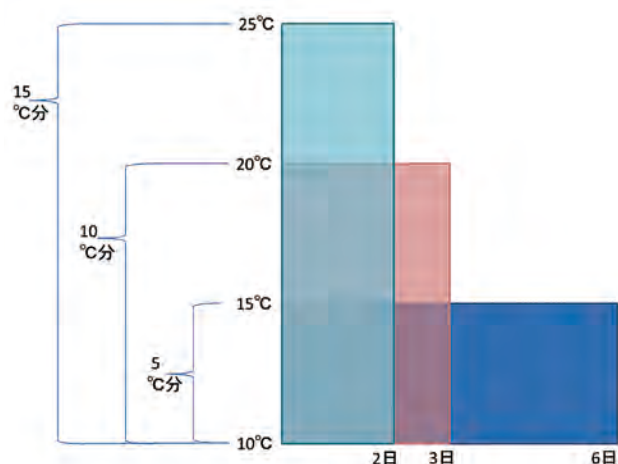


図 5 温度と発育経過の関係

稚蚕の時は若干温湿度を高め、発育が進むに従って温度を下げていく。表の温湿度を目安に日本の農家は飼育していく。この細やかさは今に始まったことではない。昔から温度が発育に影響することを養蚕農家は充分実感しており、温度を指標にすべきと思った江戸時代の篤農家がいる。福島県
やながわ
梁川の蚕種業者中村善右衛門は、独力で温度計の作り方を学び、温度計を自作しただけでなく、嘉永 2 年（1849）から作った温度計を「蚕当計」として売ったそうである。

最近の温湿度計

湿度は計るのは意外に難しい。空気中の水蒸気（湿り気）の割合である。昔からよく見る湿度計は隣に温度計が付いており、湿度計と温度計の差によって湿度を知るようになっている（図 6）。湿度計の玉の部分濡れたガーゼで覆われるようになっており、乾燥していると濡れた部分の水が気化して、温度が下がる。カラカラの状態では水の気化する量が多く、冷える。逆に湿気た状態では水が気化する量が少なく、あまり冷えない。気温からどれ位冷えているかで空気の乾燥か湿潤が分かる。隣の温度計の目盛と湿度計の差をみれば湿度が分かるようになっている。筆者も学生のころからこのような温湿度計を使っていたが、だいたい湿度計に水を補充するのを忘れてガーゼをガチガチにしてしまい、挙句の果てに水入れの容器を壊してしまって温湿度計なのに単なる 2 本の温度計になってしまうことが多々。



図 6 温湿度計 矢印が水を入れる容器
温度計と湿度計の差から湿度が分かるように表がついている。



図7 デジタル式の温湿度計

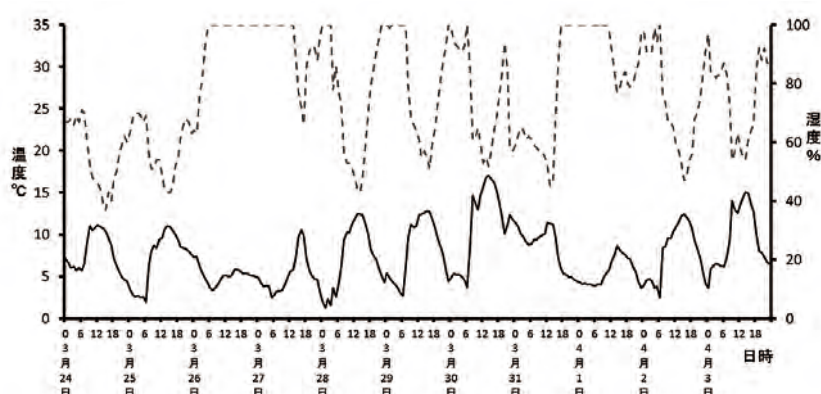


図8 2017年春の蚕室屋外の温湿度（点線：湿度、実線：温度）

最近ではデジタル温湿度計を使っている。ホームセンターや通販で千円前後で手に入る。デジタルなので水を足すこともなく、またガラスを割ることもなく便利である。さらに最高温度、最低温度も記録してくれるものもある（図7左）。

研究室では温湿度を計るだけでなく、継続的に記録してくれるものも使っている（図7右）。これは1万円以上するが、パソコンにデータを取り込むことができ、一日の温度と湿度の変動をグラフにしてみることができる。図8は、昨年（2017）の春先の農工大（府中市）でデジタル温湿度計で記録したものをグラフにしたものである。記録を見てもやはり春先は寒い日が多い。一時間おきに記録するように設定したもののだが、もっと細かく分単位でも記録できる。

気象庁のHP (<http://www.jma.go.jp/jma/>)には気温、湿度も載っている。現在のものだけでなく、過去のデータもあり、各都道府県に何か所も測定所がある。ありがたいことに筆者のいる府中にも観測所があり、それも近くにあるので気象状況を調べる時に重宝している。

図8を見てみると3月26日に湿度（点線）が上っているのが雨降った事が分かる。また、温度（実線）が上がると湿度は下がる傾向がある。

温度は水が氷る時の温度を0℃、水が沸騰する温度を100℃としてその間を100等分したものなので割と分かりやすいが、湿度は一寸難しい。湿り気（水蒸気）が最大な時が湿度100%である。ところが温度が高い時は湿り気を多く含む事ができる

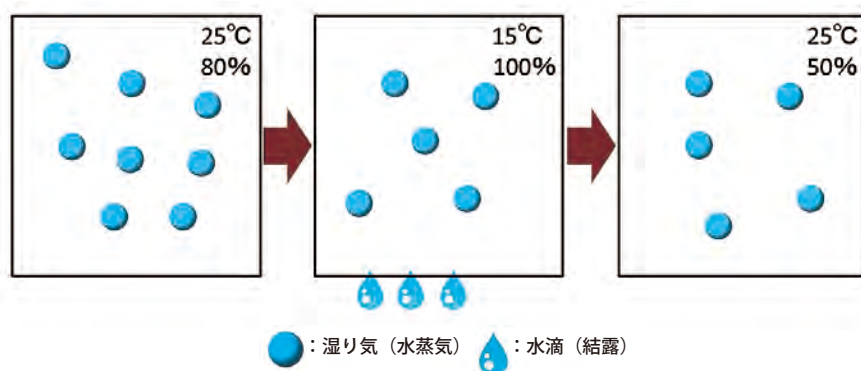


図9 25℃ 80%の部屋を15℃、25℃にした場合の湿度の変化

し、低い時は少なくなる。

25℃の時、湿り気が最大で10で湿度100%とすると、15℃の時は湿り気の最大は25℃の半分の5で湿度100%となる。温度が下がると空気中に含む事ができる量が減ってしまう。例えば図9のように25℃の時、湿度80%というとき湿り気は8あることになる。この空気（部屋）が15℃まで下がると、15℃では湿り気が5までしか含めないで、残りの3つの湿り気は空気中に漂えず、水滴になる。これが結露である。湿り気が8から5に減少したのに湿度が100%になるのは不思議な感じではある。さらに15℃から25℃に温度を上げると湿り気の量は5で変わらないが、25℃では湿り気10で100%なので、その半分の湿り気なので湿度50%になる。蚕室の中を一定の温度にしているとしても外気温が上下するたびに湿度が変動するので、完全に密閉された蚕室でないと湿度を一定にするのは大変難しい。湿度によって蚕の発育は大きく影響されないが、湿度が低いと折角与えた桑が萎れやすいし、湿度が高すぎると蚕座が蒸れてカビや雑菌が繁殖しやす

くなる。コマメに湿度計をチェックして対応していく他ない。

さて、シルク豆辞典の連載もこの号が最後となりました。約4年20題を読んでいたが、ありがとうございました。最初の頃は2ヶ月ごとに書いていくのが大変でしたが、そのうち意外に楽しく書いていくことができました。次はこれを書こう、来年の春はあれを書こうとこの連載のことが日々頭にありました。一応、蚕を専門にしているので蚕の事ばかり考えております。しかし、学生でも専門家でない方々に伝えることを考えていなかったものですから、この連載は大変ためになりました。読んでいただいた方々に少しでも楽しく蚕のことが伝わったならば幸いです。

■問い合わせ先：

東京農工大学農学部生物生産学科蚕学研究室
〒183-8509
東京都府中市幸町 3-5-8
TEL：042-367-5681
E-mail：ty.kaiko@cc.tuat.ac.jp
HP：http://www.tuat.ac.jp/~kaiko

桑栽培のポイントと年間の桑園管理作業の流れ

一般財団法人大日本蚕糸会
蚕業技術研究所

嘱託研究員 市橋隆壽

はじめに

一口で桑の栽培と言っても、その内容は極めて広範囲で多岐にわたる項目が関係しています。一方、桑栽培の最終目標はカイコをはじめとする昆虫や家畜の飼料となる桑を「必要な時により多く、しかも良質な桑を安定して持続的に生産する」ということにあります。また、桑の栽培には品種の特性を最大限に発揮できる環境を整えることと同時に、桑園の肥培管理や収穫作業などを省力的に、かつ低コストで行う技術も伴うことが重要です。

1. 桑栽培の流れ

桑の栽培に関する項目として、第1図に示すとおり、桑園を造成することからはじまり、桑の植付けには多くの事項が関係し、その後は仕立て・収穫方法が関与してきます。また、桑園管理の中には施肥、病虫害防除、雑草防除など持続的な桑葉生産をするための重要な事項が関係しています。(第1図)。

そして、それぞれの項目に対して付随する要素がたくさんありますが、出来るだけ良い方向へ進めることが重要になってきま

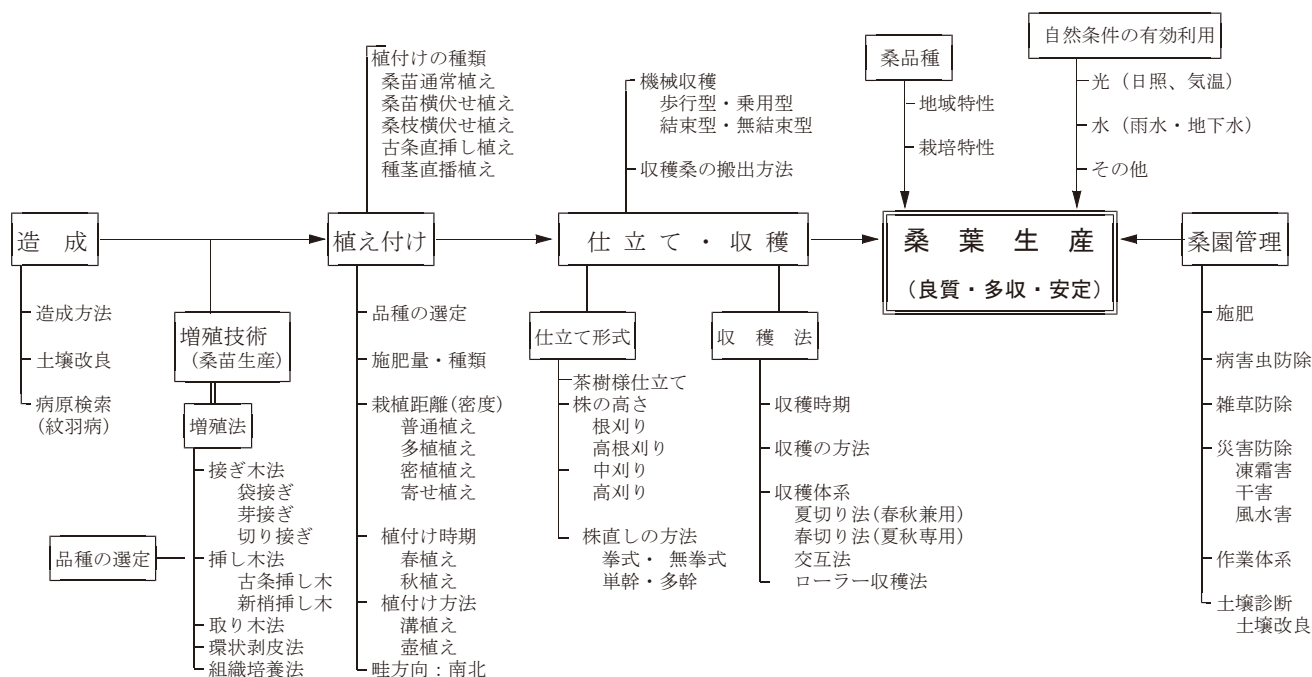
す。また、それぞれの地域や立地条件に合った方法を取り入れながら、桑の生産性を高めて行くことが桑栽培の根幹です。

ちなみに、これから桑を植付けてみようとか、既存の桑園を改植（新しく桑を植え直すこと）しようという方には、造成から植付けという項目が関係することになりますが、造成に関する要点については既刊の「シルクレポート No.50」に掲載しましたので参考にして頂ければと思います。

次に、桑の植付けに関しては、一度桑を植付けるとその後20年～30年位は桑葉の生産が可能なことから、植付けに関わるいろいろな要素を十分に検討して実施する必要があります。

植付けた後は、冒頭に述べたような最終目標に向けて樹勢の維持・管理を行うことになっていきますが、そのためには、桑の仕立てと収穫方法をどのようにするのが重要になってきます。すなわち、どのような方法で収穫するかや、桑園管理をどのような方法で実施するかによって株の高さなど仕立て形式が異なって来るからです。

収穫法は春、夏、秋などのカイコの飼育時期に、何頭位のカイコを飼育するかによ



第1図 桑栽培に関する流れ

はるぎ
って春切り（春の発芽する前に枝の基部から切ること）と夏切り（春蚕期の収穫時や
なつぎ
その直後に枝の基部から切ること）処理する桑園面積の割合が異なることから、収穫
体系が重要になってきます。

また、春から秋の間に枝葉を収奪するという過酷な条件に置かれる桑にとっての収穫方法は、重要なポイントとなります。特に、晩秋蚕期の収穫を枝のどの位置で伐採するかは、翌年の春蚕期の収穫量に大きく影響することから重要なポイントとなります。

桑園管理は、桑栽培の目標に掲げた桑葉生産を行う上で最も重要な項目で、施肥、病虫害防除、雑草防除などは適期に作業をすることが重要となります。しかし、これらの管理作業は蚕飼育時期と重なるため、

ややもすると遅れ気味になり、雑草の繁茂や病虫害の発生を招くことになりますので注意が必要です。

参考までに、主な桑の病気や害虫の防除については、既刊の「シルクレポート No.54 及び 55」に掲載しましたので参考にしてください。

2. 年間の旬別作業内容

桑を植付けて、仕立て形式や収穫法が決まれば、その後は特段の事がない限り第2図に示すような年間の作業内容を毎年繰り返すことになります。

ここでは年間3回の蚕飼育を実施する場合の作業内容を示します（第2図）。

まず、カイコを飼う時期に合わせての桑収穫作業は当然ですが、施肥の時期、病害

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下
枯株整理	春切り		殺虫剤散布	夏切り	桑収穫 残桑処理	桑収穫 残桑処理	殺虫剤散布	桑収穫		殺虫剤散布	
	施肥・中耕	除草剤散布		施肥・中耕	除草剤散布					堆肥・石灰施用	農機具整備
							株元除草				

第2図 年間の旬別作業内容

虫対策、そして雑草防除などは適期に作業を実施することが重要です。また、秋冬期には、桑葉の良質・多収を図るための有機資材の施用による地力増進や病虫害防除及び生産性向上のための故障株（枯れ株や病株のこと）の整理も重要な作業となることから実施することを勧めます。

以上のように、桑の栽培には多くの事柄が関与しておりますが、よりの確な対応で、桑栽培の目標に向かって推進されることを願っています。

また、桑の栽培に関する問い合わせは下記で対応します。

■問い合わせ先：

一般財団法人大日本蚕糸会
蚕業技術研究所 栽桑チーム
〒300-0324

茨城県稲敷郡阿見町飯倉 1053

TEL: 029-889-1771 FAX: 029-889-2356

E-mail : matsukawa@silk.or.jp

E-mail : ichihashi@silk.or.jp

消毒の作法

— その1 春蚕期が始まる前に施設と蚕具を消毒しよう —

一般財団法人大日本蚕糸会
蚕業技術研究所

主任研究員 野澤瑞佳

はじめに

蚕病防除に携わる仕事に就いてから 19 年目を迎えました。この間、仕事を通して、ウイルス病が発生しやすい養蚕農家で繭の作柄を診てきましたが、大抵の場合、春の作柄が良くないと、その年の作柄は全般的に不調で終わることがほとんどです。長年、養蚕を続けてこられた農家の皆さんや、製糸に携わる方々も、長年の経験からこのように感じている方がいらっしゃると思います。年間を通して作柄が不安定な農家の方々に、「春蚕期の開始前に消毒を行っていますか？」と尋ねると、「しっかりやっている」と答えてくれます。しかし、よくよく尋ねると、消毒すべき場所を消毒していなかったり、消毒剤の散布量が少なかったりするなど、消毒の基本を忘れて慢性的な不作に陥っている方がいます。しかし、基本を押さえてしっかり消毒を行えば、その努力にカイコが応えてくれて、良い繭が沢山とれるようになります。

消毒は、養蚕における重要な作業の一つですが、その重要性が意外に軽視されやす

いと感じることがあります。そこで、本題のタイトルを「消毒の作法」として、消毒に対する意識向上を狙うことにしました。養蚕は「消毒に始まり、消毒に終わる」。昔、誰かがすでに発言しているかもしれませんが、養蚕における私の持論の一つです。今回、第 1 回目となる「消毒の作法」は、「消毒に始まる」部分、すなわち春蚕期が始まる前の消毒作業について、取り組み方をお話しします。

蚕病防除の基本は「感染予防」

私たち人類は免疫系が発達しているため、病原体に由来する病気のうちワクチンが利用できる病気については、予防接種で病気の重症化を防ぎ、治癒を期待することができます。しかし、カイコの場合は、病原体由来の病気に罹患してしまうと、大抵の場合は発病して死んでしまいます。カイコに病原体が感染しても発病しなければ良いので、養蚕現場ではカイコの強健性を保つこと（例えば起蚕の絶食時間を長くしないように注意するとか、極度の低温に置か

ない等）が重視されますが、これでカイコの病気を全て防げるわけではありません。蚕病防除の基本は、病原体がカイコに感染することを未然に防ぐことであり、この感染を予防するための作業が「消毒」「洗浄」「乾燥」です。私はこれに「隔離」を加えて4つの作業を提唱しています。畜産業や食品製造業、医療分野のように衛生管理の徹底が必要なところでは、これらの作業が実践レベルで高度に理論化されているのですが、養蚕の分野、特に繭を生産している農家の現場では、多回育による繭の量産が優先されており、飼育環境の防疫管理に必要な取り組みが「後付け」になっている場合が多くみられます。本来であれば、防疫管理の在り方が先にあり、そこから繭の生産に必要な飼育環境や作業手順、年間配蚕体系を整えていくべきなのですが、そのようになっていることが養蚕現場における蚕病防除を困難にしています。そのため、既存の養蚕現場に「消毒」「洗浄」「乾燥」および「隔離」の作業をうまく取り入れて、感染の予防を徹底することが必要です。

春から始める蚕病防除、 ターゲットは核多角体病ウイルス

稚蚕人工飼料育が普及した現在でも、常に警戒が必要な蚕病があります。それは内部汚染繭の原因となる核多角体病（膿病）です。最近の養蚕現場で発生する蚕病問題のほとんどがこのウイルス病によるものです。消毒が不十分な飼育環境下では、この病気によって常習違作がよく発生します。

この原因ウイルスは、“多角体”とよばれるタンパク質の結晶によってウイルス粒子が保護されているため、このウイルスを不活化することができる適切な消毒手段を選択しなければ、養蚕現場において十分な消毒効果を得ることができません。この核多角体病が春蚕期から発生していると、年間を通して内部汚染繭が多発するため、春蚕期の開始前に、このウイルスを標的とした消毒作業を徹底することが大切です。

消毒に必要な資器材と水の確保の重要性

これまで、養蚕農家の研修会や情報誌の場で、養蚕における消毒作業の重要性と消毒剤の効果的な使い方を紹介してきましたが、違作を繰り返す養蚕現場を訪れると、消毒作業に必要な資材や器具が揃っていないため、不十分な消毒作業によって再び違作を繰り返すことがあります。年間を通して良い繭を生産するためには、消毒作業に必要な資材と器具を揃えることが必要です。そして消毒作業において何よりも重要なものは「水」です。以前遭遇した養蚕農家では、雨水を貯めて消毒液を作る方がいて、その年は雨が少なくて消毒液を十分散布できなかった事例もあります。これは極端な例ですが、養蚕では消毒と洗浄作業に大量の水を使用するため、これから養蚕を始める方は、水の確保についても十分留意してほしいと思います。

ホルマリンを使わない消毒液の作り方

養蚕の分野では、これまでホルマリンに

消毒作業に必要な物品一覧表（必ず必要なもの◎、あると便利なもの○）

— 作業用器材 —

- ◎ 動力噴霧器（消石灰対応機種など）、◎ 消毒槽（丸形容器やローリータンクなど）
- ◎ 上皿自動秤、◎ 計量カップ、◎ ミニスコップ（薬品の採取に使用）、◎ 棒（消毒液攪拌用）
- ホース（給水用）、○ ジョウロ（作業動線上の消毒作業に使用）、○ 物干し台

— 防護対策用品 —

- ◎ 防毒マスク・ガス吸収缶（塩素ガス用）、◎ ゴーグル（浸漬消毒時に着用）
- ◎ 耐水性防護服 上・下（耐薬品性のカッパなど）、◎ 長靴（耐アルカリ性）、
- ◎ 長手袋（耐アルカリ性）

— 消毒液調製用の資材・薬品 —

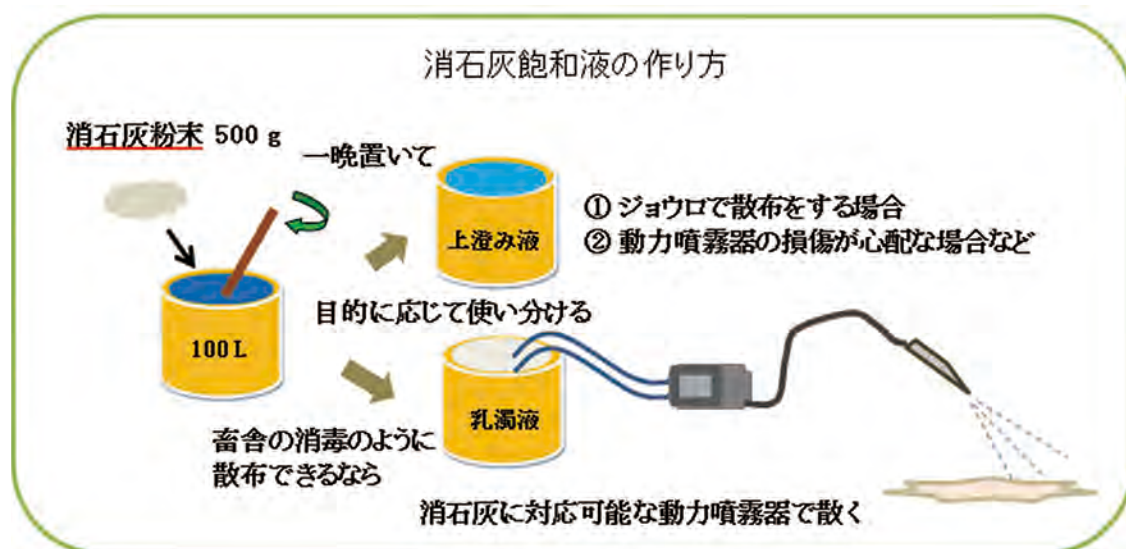
- ◎ 消石灰（アルカリ度 70%以上）、◎ 高度さらし粉（次亜塩素酸カルシウムの錠剤など）
- 次亜塩素酸ナトリウム（食品添加物グレード、有効塩素濃度 12%又は 6%タイプ）
- 無水炭酸ナトリウム（食品添加物グレード、例：高杉製薬社製など）
- テトラポリリン酸ナトリウム（食品添加物グレード、例：燐化学工業社製など）

依存した消毒が行われてきましたが、平成 20 年 3 月 1 日から施行された特定化学物質障害予防規則等の改正によって、ホルマリン（ホルムアルデヒド）の取り扱いが大変厳しくなりました。詳細は厚生労働省の公表資料に譲りますが、この規則の改正によって、糸繭生産を行う従来型の養蚕現場に対して、ホルマリンを使用する消毒の助言が難しい状況となっています。このため、これまで当たり前に行われてきた“ホルマリン依存型”の養蚕体系を早急に見直して、“ホルマリン非依存型”の養蚕体系に切り替える必要があります。それでは、ホルマリンを使わずにどのように消毒をすればよいのでしょうか？ポイントは、防除対象とする病原体に消毒効果が得られる消毒手段を

選択し、消毒効果が得られる条件をしっかりと設定して使用するということです。養蚕分野で消毒作業を行う施設としては、稚蚕共同飼育所と養蚕農家の飼育関連施設がありますが、今回は、繭の生産を行っている養蚕現場を対象にお話しを進めていきます。

1) 消石灰（水酸化カルシウム）

これまで行ってきた養蚕現場の調査から、消石灰で調製した飽和水溶液（以後、消石灰飽和液）は、核多角体病ウイルスに対して実用的な消毒効果を発揮します。消石灰飽和液は、畜産分野でウイルス病を予防するために使われている消毒手段であり、消石灰の値段も安価なため、養蚕分野でも積極的に使用していきたい消毒手段の



一つです。特に、核多角体病で違作をしやすい養蚕現場では、主力の消毒手段になります。ただし、欠点として、カイコに病原性のある糸状菌や細菌等に対しては消毒効果が低いため、消石灰に頼りすぎないように注意が必要です。

2) 養蚕用除菌洗浄剤（次亜塩素酸ナトリウム＋炭酸ナトリウム＋ポリリン酸ナトリウム）

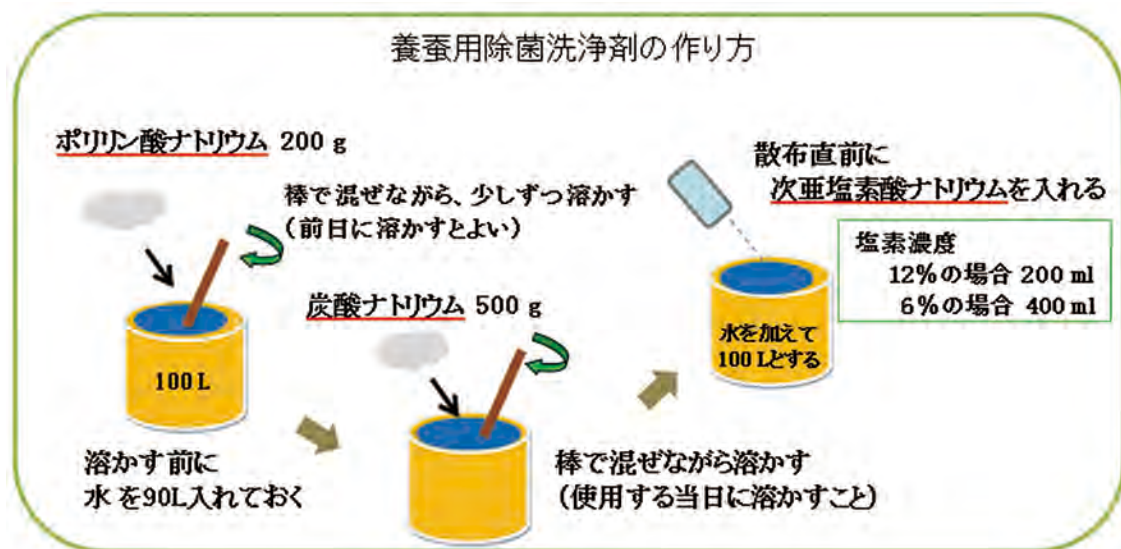
食品添加物から構成される飼育関連施設の洗浄剤で、カイコに病原性を示すウイルス、糸状菌、細菌および原虫類に対して実用レベルでの除菌効果を発揮します。この洗浄剤は、消石灰飽和液で飼育関連施設を消毒後、洗浄作業に用いると効果的です。

3) 高度さらし粉（次亜塩素酸カルシウム）

水 100L に対して高度さらし粉 200g を加えて調製する水溶液で、飼育用ネットや上簇網・除沙網などの蚕具類を浸漬消毒する際に使用します。欠点は塩素による漂白作用が強いため、蚕具の材質によっては浸漬に向かない場合があります。

春蚕期が始まる前に「消毒」「洗浄」「乾燥」「隔離」を徹底する

核多角体病が発生しやすい養蚕現場を想定して、春蚕期が始まる前の消毒作業から飼育準備までの流れを書きます。養蚕現場によって、飼育施設の配置や構造に違いがあるため、このとおりにはいかない可能性もありますが、その場合には現場に応じた調整をして対処して下さい。まず、先に示した調製手順で、消石灰の飽和液を作ります。消毒作業を行う前日に必要な量を準備しておくといよいでしょう。前日に液を用意しても効果に影響はありません。上簇室が倉庫の代わりになっている場合には、不要なものを撤去して、消毒と洗浄ができるようにしておきます。回転簇は、置き場所（物置等）を用意して、消毒と洗浄作業の邪魔にならないようにします。次に、用意しておいた消石灰飽和液を蚕室面積 1 m²あたり 1L の割合で散布します。液の散布は、上簇室内全体（天井・壁・床）を洗い流すように行います。上簇室内の散布が終了した



ら、蚕室と貯桑場も洗い流すように散布します。核多角体病ウイルスは、養蚕従事者の移動に伴って母屋の玄関先まで広く拡散しているため、作業動線上にも消石灰飽和液を散布しておきます。消石灰飽和液の散布を終えたら、次は施設全体の洗浄作業を行います。養蚕用除菌洗浄剤が使用できる場合にはその除菌洗浄剤で、入手が困難な場合には水でもよいので施設全体を徹底的に洗い流します。洗浄液の散布量は、消石

灰飽和液の場合と同様に、1 m²あたり 1 Lを目安に少し多めに準備をしておけばよいと思います。養蚕関連施設の乾燥を待つ間に、飼育ネットや、網などの蚕具を浸漬消毒し、水で洗浄して日乾します。飼育装置にネットを張ったまま消毒液を散布して済ませてしまう方もありますが、核多角体病で違作をしやすい場合にはネットを外してしっかり浸漬消毒を行う方が確実です。上簇室内が乾燥したら、室内専用の履物を用

意して、春蚕期に使う回転簇を全て組み立てます。簇を組み立てると埃が落ちるので、上簇室内に、浸漬消毒可能なシート（例えばブルーシート等）を数枚敷いて、その上で回転簇を作るなどの工夫ができると良いと思います。回転簇の組み立てを全て終わったら、春蚕の飼育中は一切上簇室に入らずに上簇室を隔離しておきます。春の蚕期が終了したら、再び、一連の消毒と洗浄作業を行います。

私が勤める蚕業技術研究所の蚕室でもホルマリン消毒を一切行わず、「消毒」「洗浄」「乾燥」「隔離」の徹底により、繭の生産を行っています。ホルマリンを使用しても核多角体病（膿病）を防げない場合には、今回紹介した方法をぜひお試しください。

間もなく、平成 30 年の春蚕期が始まります。しっかり防疫管理を行って、昨年以上に良い繭をたくさん作りましょう。今年の豊作を期待しています。



蚕室の洗浄作業に用いる「養蚕用除菌洗浄剤」

■問い合わせ先：

一般財団法人大日本蚕糸会
蚕業技術研究所

〒 300-0324

茨城県稲敷郡阿見町飯倉 1053 番地

TEL: 029-889-1771

FAX: 029-889-2356

E-mail: nozawa@silk.or.jp

遺伝子組換えカイコの現状と今後の展望

農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）

顧問（非常勤） 町井博明

はじめに

平成 29 年 9 月 22 日、農研機構が申請した遺伝子組換えカイコ（以下、組換えカイコという）の農家飼育の申請が承認されました。これを受け、初冬蚕期において群馬県の養蚕農家による組換えカイコの飼育が実現しました。組換えカイコが農家で飼育されたのは国内はもとより世界でもはじめてのことであり、今までにないシルク素材への期待が高まっています。一方、組換えカイコを用いた医薬品等有用物質生産についても精力的な研究開発が行われ、すでに一部製品が企業により事業化され、新たな需要への期待が高まっています。本稿では、組換えカイコを用いた研究開発の現状と産業化に向けた取り組みを紹介します。

1. タンパク質生産系としての組換えカイコ

繭糸は主に繊維状タンパク質フィブロインとその周りを覆っている糊状のタンパク質セリシンで構成されています。フィブロインはカイコ体内の後部絹糸腺で、セリシンは中部絹糸腺でそれぞれ作られています。2000 年に、旧生物研の田村らは世界で初めて組換えカイコを作出し、その数年後には外来遺伝子を組織特異的に発現させ

る技術を開発しました。これにより、外来遺伝子を後部絹糸腺に発現させることも中部絹糸腺に発現させることも可能になりました。一般にフィブロインは難溶性ですが、セリシンは水に溶解しやすい性質があり、また夾雑物^{きょうざつぶつ}が少ないことから、セリシン層に目的のタンパク質を発現させた場合、タンパク質の抽出・精製が比較的容易に行えます。このことから、組換えカイコの実用化に際しては、中部絹糸腺発現系は医薬品等有用タンパク質の生産系として、後部絹糸腺発現系はフィブロインの改変による高機能シルクの生産系としてそれぞれ利用されています。

2. 医薬品等タンパク質生産技術の開発と事業化に向けた取り組み

中部絹糸腺発現系は、抗体や検査試薬などの医薬品関連の有用タンパク質を生産し、新たな生物産業の創出に繋げようという方向であり、すでに複数の企業が事業化に取り組んでいます。

1) ヒトの体外診断薬や動物用検査薬等の開発と事業化

ヒトの病気の検査用試薬や動物用試薬、化粧品素材などの分野で、既に民間企業に

より製造・販売された製品が出始めています。その一例として、ニッポーメディカル（株）は組換えカイコを用いて、ヒト用の骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ測定キットを開発しました。同社担当者は、「組換えカイコは標準品として性能の高い組換えタンパク質を大量に精製することができ、安価で安定的な診断薬の商品化を実現した」と述べています。平成 24 年度から国内外の臨床検査機関で骨粗鬆症の体外診断薬として使用されています。また、組換えカイコによるイヌの炎症マーカータンパク質（5 量体 CRP）の製造にも成功し、このタンパク質を標準品原料としたイヌの炎症診断用血中 CRP 濃度測定キットを商品化しています。

（株）免疫生物研究所は組換えカイコによるアルツハイマー病検査薬や研究用試薬「ラミニン」、ヒトコラーゲン含有化粧品等を製造・販売しています。平成 28 年には遺伝子組換えカイコ事業部の施設を拡充・整備し、事業の強化を進めています。大関（株）では、組換えカイコを用いて微生物等では製造困難な有用タンパク質の受注生産事業を行っています。

このように、カイコを用いた有用物質生産による事業化は着実に進行しており、また新たにこの分野に参入している企業もあり、今後の発展が注目されます。

2) ヒト・動物用医薬品の開発に向けた取り組み

酪農業においてはウシ乳房炎による被害総額が年 800 億円にものぼり、深刻な問

題になっています。治療薬としては一般に抗生物質が用いられますが、薬剤耐性菌の出現等の問題もあり、抗生物質に代わる治療薬の開発が求められています。そこで、免疫を活性化する、顆粒球マクロファージ-コロニー刺激因子（GM-CSF）を組換えカイコに作らせ、抽出した GM-CSF を乳房炎発症牛に投与したところ、高い治療効果が認められました。GM-CSF の早期実用化が待たれます。

バイオ医薬品の分野でも、組換えカイコを用いて抗体医薬品等の研究開発が進められています。2014 年の世界の医薬品売上高トップ 10 をみると、7 つがバイオ医薬品です。売上高 5 位のリツキシマブ（抗体医薬品）は B 細胞性悪性リンパ腫などの治療に使われる抗がん剤ですが、組換えカイコに作らせたリツキシマブの特性評価を行ったところ、現在治療に使用されている CHO 細胞（ほ乳動物細胞）由来のものより、抗体依存性細胞障害活性（ADCC 活性）

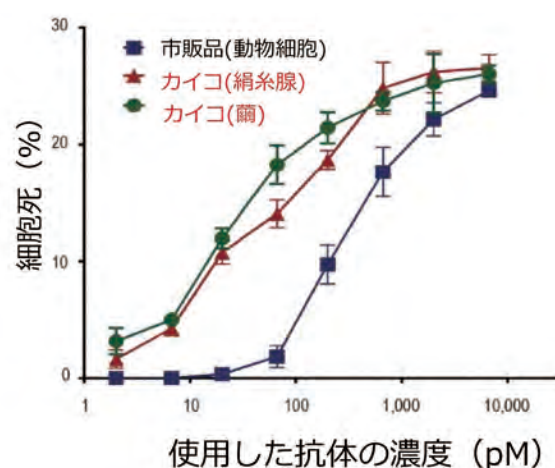


図1 組換えカイコに作らせたリツキシマブの細胞障害活性の従来品との比較
国立医薬品食品衛生研究所との共同
(Tada et al., mAbs 2015 改)

が高いことが分かりました（図1）。このことから、カイコに作らせたリツキシマブは高いADC活性を有し、抗がん剤としての利用価値が高いと考えられます。

そのほか、ヒト糖尿病カイコ・癌モデルカイコ等の病態モデルカイコを作製し、治療効果の高い薬剤の探索が進められています。

3. 組換えシルクの開発と生産体制の構築に向けて

後部絹糸腺発現系では、繭の糸質を改変することにより今までにない新たな高機能シルクを開発し、養蚕業の枠を超えて新たな繊維産業の創出を目指しています。

1) 様々な色の蛍光タンパク質を発現する組換えカイコの開発

緑色や赤色及び橙色など7色の蛍光タンパク質の遺伝子を導入した組換えカイコが作出されています。蛍光色以外の形質は既存の実用品種と比べて遜色ありません。

蛍光繭からの繰糸については、蛍光タンパク質が壊れない新たな繰糸方法が開発されており、蛍光の性質を維持したまま生糸を生産することができます。

これらの生糸を用いて、ウェディングドレス（写真1）、きものや舞台衣装などが試作され、注目されています。これらの試作品はいずれも自然光下でも発色しているのが分かりますが、一定の波長の光を当て、フィルターを通して見ると、各蛍光色が一層際立ちます。

2) 超極細繊維の繭糸を吐糸する組換えカイコの開発



写真1 デザイナー桂由美さんとの共同製作による
蛍光シルクを用いたウェディングドレス

室内を暗くして、青色LEDを照射し、黄色のフィルターを通して撮影

シルクタンパク質のアミノ酸組成が変わるように設計した遺伝子を細繊維蚕品種「はくぎん」に導入し、「はくぎん」よりもさらに繊維の細い絹糸の開発に成功しました。4眠蚕のカイコでは世界で最も細い絹糸（繊維度1.5デニール以下）の誕生です。この超極細絹糸を用いてきものやショール等の試作品が作られています。

3) クモ糸シルクの開発

クモの糸は「強く」て「伸びる」性質を併せ持つ繊維として古くから知られていますが、クモは肉食で共食いをするので、大量飼育によって糸をつくることができません。このため、カイコに作らせれば容易に繊維化できることから、カイコでクモ糸タンパク質を作らせる試みがなされてきました。

2014 年、農研機構（当時、生物研）は既存の実用蚕品種にクモの縦糸遺伝子を導入し、強くて切れにくいクモ糸の性質と、カイコ本来の光沢や柔らかさを合わせもつ新しいシルク（クモ糸シルク）を生産することに成功しました。

カイコの作るクモ糸シルクは、通常のカイコのシルクの 1.5 倍切れにくい性質を持っており、鋼鉄の約 20 倍の切れにくさを持つといわれるアメリカジョロウグモの縦糸に匹敵するほどでした（図 2）。このクモ糸シルクを用いてベストやスカーフが試作されています。今後の利用については、手術用縫合糸などの医療素材や防災ロープ・防護服などの特殊素材の開発が期待されています。

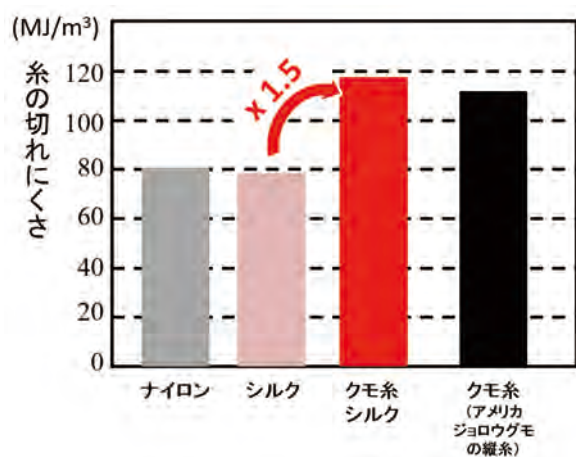


図 2 クモ糸シルクの切れにくさの比較

4) 養蚕農家による組換えカイコ飼育の実現と今後の取り組み

これら高機能シルクについては、洋装・和装のアパレル業界のみならず工業用、医療用資材等の業界からも事業化に向け熱い視線が注がれています。これらの需要を満

たすためには大量の生糸が必要になることから、一般農家での飼育を目指して、農研機構および群馬県蚕糸技術センターの隔離蚕室においてカルタヘナ法第一種使用による組換えカイコの飼育試験が進められてきました。そして上述したとおり、平成 29 年初冬蚕期において一般養蚕農家での組換えカイコの飼育が実現しました（写真 2、3）。飼育されたのは、オワンクラゲ由来の緑色蛍光タンパク質（GFP）を発現する絹糸を産生する組換えカイコで、農研機構（当時、生物研）が中心となって開発したものです。今後さらに他の色の蛍光シルクや超極細シルク、クモ糸シルク等を産生する組換えカイコの農家飼育申請が進められる予定です。これら組換えカイコによる高機能シルクの需要に応えるためには、量産化に向けた体制作りを急ぐ必要があります。



写真 2 養蚕農家における GFP 産生組換えカイコ（5 齢）の飼育状況

4. 成形加工技術との併用による工業製品分野への展開

シルクによる素材化技術の開発については、フィブロインとセリシンがともにパウ

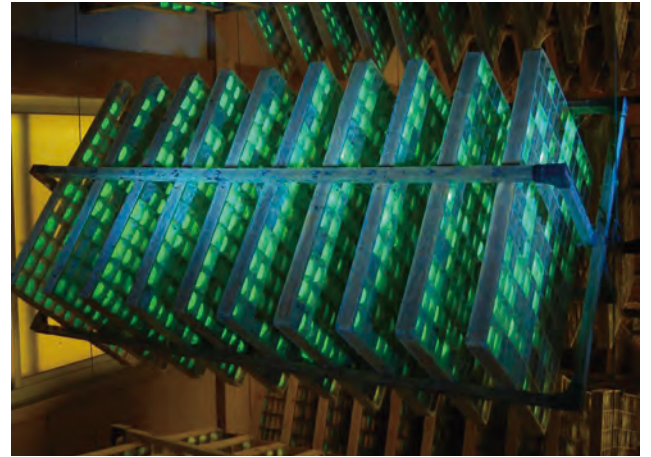


写真3 GFP 産生組換えカイコの営繭状況

左：対照（照射なし、フィルターなし）

右：室内を少し暗くし、青色LEDを照射し、黄色のフィルターを通して撮影

ダー、フィルム、ゲル、スポンジなど様々な形態に加工できることから、これらの加工技術を活用して軟骨再生や創傷保護材等の医療用素材、電子部品等の工業用素材、化粧品素材など各種素材の開発と実用化に向けた共同研究が進められています。化粧品については、すでにシルク化粧品を専門に製造・販売し、業績を伸ばしている企業もあります。

また、組換えカイコ技術とシルクによる素材化加工技術を組み合わせることにより、シルクの利用の幅を繊維素材としてのみならず工業用・医療用素材にまで大きく広げるための研究開発が進められています。

おわりに

以上の通り、カイコおよびシルクの機能を最大限に活用した新たなカイコ産業の創出を目指して、民間企業、大学、国公立研究機関等の協力・連携のもと精力的に研究開発が進められています。

イノベーションはいつの時代も異分野か

ら起こると言われます。すでに異分野の企業がカイコやシルクに関心を持ち、事業として参入しています。そういう方々の力が大きなうねりとなって、新たな産業を切り開いていくものと思います。カイコは、絹タンパク質生産能力が極めて高い生物種です。この性質を利用したカイコの遺伝子組換え技術は日本オリジナルの技術であり、我が国にはカイコ・シルクに関する優れた技術が豊富に蓄積されています。日本のオリジナリティーを発揮できるカイコ・シルクの研究開発を通して新たな産業が創出され、発展することを願っています。

■問い合わせ先：

農研機構 生物機能利用研究部門

遺伝子組換え研究推進室

〒305-8602

茨城県つくば市観音台 2-1-1

TEL：029-838-7138

FAX：029-838-8463

E-mail：kenkyu-suishin@naro.affrc.go.jp

HP：http://www.naro.affrc.go.jp/

(一財) シルクセンター国際貿易観光会館の紹介

シルク博物館

館長 坂本英介

はじめに

生糸は、安政6（1859）年の横浜開港以来、昭和の初期まで、我が国の輸出額第一位の品目であり、生糸輸出で得られた外貨は日本の近代化に大きく貢献しました。また、80年以上にわたり横浜港の輸出額トップの座を維持し、シルクと横浜は、経済だけでなく歴史、文化の面でも深いかわりを持っています。

財団法人シルクセンター国際貿易観光会館（平成26年4月から一般財団法人に移行。以下「シルクセンター」という。）は、こうした横浜の開港100年記念事業を推進するため、国、神奈川県、横浜市及び関係業界の協力のもと、昭和31年10月に設立されました。

財団法人としての目的は、貿易・観光の振興、とりわけ生糸及び絹製品貿易の振興発展であり、昭和34（1959）年3月12日、開港当時から、英国系総合商社ジャーディン・マセソン商会が拠点としていた通称「英一番館」の跡地に、シルクセンタービル（以下「ビル」という。）を開館しました。

シルクセンターは、生糸・絹製品等に関する企業、団体はもとより、貿易及び観光等に関連する企業、団体の事務室、観光客



シルクセンタービル全景

向けの店舗等を提供するとともに、公益事業の大きな柱として、絹知識の普及・啓発や服飾の工芸美を鑑賞する場の提供等を行う博物館事業などに取り組んでいます。

開館当初のビルの利用状況

地下2階から4階には、横浜生糸取引所、日本生糸輸出組合など生糸関係の団体や商社、外国商社、道府県の貿易観光あっせん所や展示即売室、外国公館などの他、貸事務室、貸店舗、貸倉庫等がありました。

また、5階から8階では、株式会社シルクホテルが営業を開始し、当時は横浜市内にホテルが少なかったため、結婚式など、多くの人々に利用されました。

利用状況の変化

昭和 30 年代後半には、多くの生糸関係商社等が活動していましたが、昭和 40 年代に我が国が生糸輸入国へ転じるなど、蚕糸情勢が変化する中で、徐々に退館していききました。

また、生糸取引の場として生糸の価格を世界に発信してきた横浜生糸取引所は、平成 10 年には前橋乾繭取引所と合併して横浜商品取引所に改組しましたが、平成 18 年に退館し、東京穀物商品取引所に合併されました。

観光関係では、他県の貿易観光あっせん所などは昭和 50 年代半ばまでに退館し、現在は、公益社団法人神奈川県観光協会の事務所と、神奈川県の特産品を宣伝・販売する「かながわ屋」があります。

外国公館等も、国内の公的機関・団体に入れ替わり、現在は、地元の自治体や神奈川県を活動エリアとする法人等が入館しています。

また、シルクホテルは昭和 57 年に閉鎖され、現在、その跡は S O H O（小規模事業者や個人事業者等）の事務所などに利用されています。

このように、利用状況は変化してきましたが、現在も、地元神奈川、横浜の地域経済や地域発展に関わる多くの企業や団体などに利用されています。

シルク博物館

シルクセンターの公益事業を支えるシルク博物館は、ビルの 2 階、3 階部分の約

1,652 m²に設置され、収集・展示・普及事業などに取り組んできました。

昭和 46 年 3 月 18 日、シルク博物館は博物館法に基づく「博物館に相当する施設」として指定を受け、昭和 48 年 10 月には、博物館法に基づく博物館となりました。

2 階の展示室では、蚕の一生、絹製品の製造工程、様々な繭や生糸、自動繰糸機や機織機等の他、横浜とシルクに関わるパネルなどを展示しています。

また、3 階では、日本の時代風俗衣装の変遷、東南アジアなどの民族衣装、重要無形文化財保持者（人間国宝）の作品などをご覧いただけます。

博物館は開館以来、数次の展示リニューアルを実施し、常設展示や蚕の飼育展示とともに、蚕糸・絹業の振興とシルクの普及・啓蒙に向けて、毎年、特別展や企画展などを開催し、館外行事などにも協力してきました。

なかでも、昭和 45 年にスタートし、今年 25 回目となる、公募展「シルク博物館染織作品展」（現在の「全国染織作品展」）は、



英一番館跡碑、蚕飼育用桑、「絹と女」像
（安田周三郎作、昭和 44 年完成）



たのしいかいこの発表会表彰式（第2部）

絹の需要促進と多くの染織作家を育成する役割を果たしてきました。

昭和 59 年度から開始した、蚕の観察や繭人形作り等の体験ができる「母と子の『かいこの自然科学教室』」（現在の「かいこ教室」）の他、小学校等へ蚕の卵を頒布し、飼育方法等の指導をする「蚕種配布事業」、観察記録や繭人形等の作品を展示・発表する「たのしいかいこの発表会」など、絹や蚕の理解促進につながる学習支援活動も行っています。

こうした取り組みもあって、平成 29 年 6 月には、開館以来の博物館入館者 200 万人を達成しました。

おわりに

シルクセンター設立当初と比べ、生糸を取り巻く状況が大きく変化するに従い、ビル利用者の構成も変わってきました。

しかし、今後も、様々な事業者へ活動の場を提供するとともに、シルク博物館が中心となって、シルクへの理解の増進、シルク製品等の普及、さらにはその美しさや魅力の発信等に一層努め、地域の社会経済・文化の発展、さらに絹の需要促進などに寄与してまいりたいと考えています。

■問い合わせ先：

（一財）シルクセンター国際貿易観光会館
シルク博物館

〒 231-0023

横浜市中区山下町 1 番地

TEL：045-641-0841 FAX：045-671-0727

開館時間：9:30～17:00（入館は 16:30 迄）

休館日：月曜日（月曜が祝日の場合は翌日）

年末年始（12/28～1/4）その他、
臨時休館することがあります。

イベント情報

●日本絹文化フォーラム 2018 (2nd)

日本各地では絹産業に関わる人々が、シルクの素晴らしさを再認識し、新しい商品づくりなどに積極的に取り組んでいます。このような中で、全国的な規模で絹文化に関する講演と情報交換を行う「日本絹文化フォーラム」を岡谷で開催します。

基調講演：「千年の色 -自然から色をいただく-」

染織史家「染司よしおか」五代当主 吉岡幸雄

特別講演：「銀座もとじの挑戦 -大島紬から雄蚕品種プラチナボーイまで-」

株式会社銀座もとじ 代表取締役社長 泉二弘明

きものトーク：中谷比佐子 / 活動報告：会田進・湯本佐緒里

<日時> 平成30年4月28日(土) 13:00~17:35(交流会 18:15~)

<会場> カノラホール 小ホール(岡谷市文化会館、岡谷市幸町8-1) TEL:0266-24-1300

参加費・テキスト代：無料 参加申込・問合せは岡谷蚕糸博物館(0266-23-3489)へ

<主催> 日本絹文化フォーラム実行委員会(NPOシルク文化協会・岡谷蚕糸博物館他)

●自然の色を纏う ~吉岡幸雄の世界 源氏物語の彩~

人は長い間、色を自然からいただけてきました。古代の手法のままに、法隆寺や東大寺の絹織物の復元を行う染司「よしおか」五代当主 吉岡幸雄氏の鮮やかな植物染めによる色彩の世界を、源氏物語に合わせてご紹介します。

<会期> 平成30年4月19日(木)~5月27日(日) 9:00~17:00

休館日：水曜日・祝日の翌日、12/27~1/3 その他臨時休館あり

<主催> 岡谷蚕糸博物館 シルクファクトおかや

<会場> 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田1-4-8

TEL: 0266-23-3489

●2018 まゆクラフト作品展 岡谷蚕糸博物館 巡回展

毎年、駒ヶ根シルクミュージアムで開催されている「まゆクラフト作品展」が岡谷にやってきます! 繊細で美しい繭の作品をご覧ください。

<会期> 平成30年5月31日(木)~6月17日(日) 9:00~17:00

休館日：水曜日・祝日の翌日、12/27~1/3 その他臨時休館あり

<主催> 岡谷蚕糸博物館 シルクファクトおかや

<会場> 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田1-4-8

TEL: 0266-23-3489

●日本絹の里 第 82 回特別展 「日本絹の里収蔵品展」

開館 20 周年を記念し、購入・寄贈により収蔵した資料の中から、和装や洋装、小物といった絹製品を中心に養蚕道具など、様々な分野にわたり展示・紹介します。

＜会期＞ 平成 30 年 4 月 13 日（金）～ 5 月 21 日（月） 9：30～17：00

休館日：毎週火曜日（祝日の場合は翌日）、12/27～1/5 * 1/3 臨時開館

＜主催＞ 群馬県立日本絹の里

＜会場＞ 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古 888-1

TEL：027-360-6300

●春の企画展 江戸の粋とデザイン ～小袖コレクションから～

小袖は江戸時代の基本的な服装の形で、現代の「きもの」の原型とされるものです。武家の女性が着用していた小袖は刺繍、絞りの技法を全面に施した絢爛豪華なものも多く、そのデザインは吉祥、植物、風景、文学などを題材に多岐にわたっています。一方、町方の女性が着用していた小袖も粋な工夫を凝らしたものがあり、当時の女性ファッションを垣間みることができます。当館所蔵の小袖 65 領から、“江戸の粋とデザイン”を堪能していただき、日本の服飾文化を知る機会となれば幸いです。

＜会期＞ 4 月 28 日（土）～ 6 月 3 日（日）

前期展示：4 月 28 日（土）～ 5 月 13 日（日）

後期展示：5 月 15 日（火）～ 6 月 3 日（日）

9：30～17：00（入館は 16：30 まで）

休館日：毎週月曜日（但し、4 月 30 日（月）は開館、翌 5 月 1 日（火）は休館）

＜主催＞ シルク博物館

＜会場＞ シルク博物館 〒231-0023 神奈川県横浜市山下町 1 番地

TEL：045-641-0841

＜講演会＞ 「江戸時代女性のファッショントレンドー移り変わる小袖の美」

日時：5 月 12 日（土）14：00～16：00

講師：長崎 巖氏（共立女子大学教授）

会場：シルク博物館イベントホール

定員：40 名 当日先着順（13 時から整理券を配布します）

無料（但し、入館料が必要になります）

＜ギャラリートーク＞

5 月 3 日（木・祝）、6 月 2 日（土） 各日とも 14：00～

当日自由参加 無料（但し入館料が必要になります）

平成 29 年度第 4 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの平成 29 年度第 4 次審査委員会を平成 30 年 2 月 23 日（金）に開催しました。今回の申請は 8 者で、新規 1 者 1 品目、使用許諾されている者の 7 者から生産数量の追加 20 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、8 者 21 品目に対し、3 月 2 日（金）付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規) (株) ヤマノホールディングス きもの事業本部 代表者名：山野義友 (担当者：山野義友) 〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 1-30-7 ヤマノ 24 ビル 3 F TEL：03-3378-2984 表示者登録番号 225	後染反物 (小紋・訪問着)	31 反	蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 栃木県小山市内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸（株） 製 織 足忠（有） 染 色 横山（株）
(生産数量の追加) (株) 夢工芸染の新井 代表者名：新井重男 (担当者：新井重男) 〒 123-0863 東京都足立区谷在家 1-8-1 TEL：03-3854-2777 表示者登録番号 196	白生地 (変り一越ちりめん)	5 反	繭生産 J A 常陸管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸（株） 製 織 南久ちりめん（株）
(生産数量の追加) (株) 嵯が野 代表者名：野田幸雄 (担当者：野田幸雄) 〒 350-1109 埼玉県川越市霞ヶ関北 3-1-11 TEL：049-233-1391 表示者登録番号 197	白生地 (変り一越ちりめん)	10 反	繭生産 J A いるま野管内養蚕農家 製 糸 松澤製糸所 製 織 南久ちりめん（株）
(生産数量の追加) (株) 千總 代表者名：仲田保司 (担当者：俵武司) 〒 604-8166 京都市中京区三条通烏丸西入御倉町 80 TEL：075-211-2531 表示者登録番号 001	後染反物 (色無地(紋意匠))	120 枚	繭生産 岩手県内養蚕農家 製 糸 松岡（株） 製 織 (有) 田永織物 染 色 自社
	後染反物 (訪問着・付下 (紋意匠))	87 枚	繭生産 福島県内養蚕農家 製 糸 松岡（株） 製 織 田勇機業（株） 染 色 自社

(続き)	後染反物 (振袖 (紋綸子))	80 枚	繭生産 福島県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 (株) 松浦絹織 染 色 自社
	後染反物 (振袖 (紋意匠))	80 枚	繭生産 岩手県・福島県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 (株) 竹林 染 色 自社
	後染反物 (振袖 (五枚襦子))	90 枚	繭生産 福島県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 (株) 竹林 染 色 自社
	後染反物 (訪問着・付下 (駒紬))	150 枚	繭生産 福島県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 小熊機業 (有) 染 色 自社
	後染反物 (振袖 (紋綸子))	75 枚	繭生産 福島県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 (株) 松浦絹織 染 色 自社
	後染反物 (振袖 (紋綸子))	85 枚	繭生産 岩手県・福島県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 (株) 松浦絹織 染 色 自社
	後染反物 (振袖 (紋綸子))	83 枚	繭生産 山形県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 (株) 松浦絹織 染 色 自社
	後染反物 (振袖 (五枚襦子))	40 枚	繭生産 岩手県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 美雲織物 (株) 染 色 自社
	後染反物 (訪問着・付下 (五枚襦子))	45 枚	繭生産 福島県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 (株) 竹林 染 色 自社
(生産数量の追加) 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名：小林幸夫 (担当者：土井芳文) 〒 370-0006 群馬県高崎市問屋町 3-5-3 TEL：027-361-2377 表示者登録番号 021	裏地 (胴裏絹)	730 枚	制作企画 絹小沢 (株) 繭生産 J A 高崎市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 製 織 坪金工業 (株) 精練加工 (有) えじまや
	白生地 (変りー越ちりめん)	30 反	制作企画 絹小沢 (株) 蚕品種 新小石丸 繭生産 J A 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 製 織 南久ちりめん (株) 精練加工 浜縮緬工業 (協)

(生産数量の追加) (株) パールトーン 代表者名：由本敏次 (担当者：岡村尚彦) 〒 615-0044 京都市右京区西院西中水町 22 TEL：075-312-1121 表示者登録番号 183	裏地（胴裏絹）	138 枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発（協） 繭生産 J A 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸（株） 製 織 （有）長島織物 精 練 （有）えじまや 加 工 自社
(生産数量の追加) 那覇伝統織物事業協同組合 代表者名：赤嶺真澄 (担当者：高良智子) 〒 903-0822 沖縄県那覇市首里桃原町 2-64 TEL：098-887-2746 表示者登録番号 156	先染反物 (首里織)	45 反	蚕品種 ぐんま 200 繭生産 J A 太田市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸（株） 染 織 自組合
	先染帯地 (首里織)	58 本	
(生産数量の追加) 渡豊工房 代表者名：渡辺豊一 (担当者：渡辺豊一) 〒 990-0301 山形県東村山郡山辺町大字山辺 892-1 TEL：023-664-5405 表示者登録番号 190	裏地（紬綾八掛）	150 枚	蚕品種 春嶺×鐘月 繭生産 J A みやぎ仙南管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 撚 糸 梅津撚糸工場 精練加工 佐米染色（有） 製 織 自工房
	裏地（紬駒八掛）	330 枚	蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 J A みやぎ仙南管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸（株） 撚 糸 梅津撚糸工場 精練加工 佐米染色（有） 製 織 自工房

次回の純国産絹マーク審査会の予定は次のとおりです。

純国産絹マークの使用許諾を申請される方は、事務局との事前協議を経た上で、下記の提出締切日までに、純国産絹マーク使用許諾申請書を提出してください。

次回審査会 平成 30 年度第 1 次： 平成 30 年 5 月 23 日（水）

純国産絹マーク使用許諾申請書の提出締切日： 平成 30 年 4 月 25 日（水）

一般財団法人 大日本蚕糸会

担当：岡島・廣瀬

〒 100-0006

東京都千代田区有楽町 1-9-4

TEL:03-3214-3500

FAX:03-3214-3511

E -mail：岡島：aokajima@silk.or.jp

廣瀬：hirose_takato@silk.or.jp

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧

平成 30 年 3 月 2 日（H 29 - 第 4 次）現在

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
001	(株) 千總	京都市中京区	後染反物（振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服）、胴裏
002	(株) 織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株) 丸上	東京都中央区	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）、後染帯地
005	(株) 坂本屋	茨城県土浦市	後染反物（色無地）、胴裏（灰汁浸け加工）
006	(有) 平原	福島県白河市	後染反物（色無地、黒紋付）
007	(株) 信盛堂	東京都清瀬市	後染反物（色無地、黒紋付）
008	(株) きものアイ	新潟県十日町市	後染反物（色無地）
009	(株) 上庵	岩手県北上市	後染反物（色無地、黒紋付）
010	(有) 樹（いづき）	秋田県横手市	後染反物（色無地、黒紋付）
011	(株) 銀座もとじ	東京都中央区	後染反物（作家作品）、後染帯地、先染反物（大島紬、結城紬、御召、作家作品）、先染帯地（織九寸帯、織角帯、作家作品）、白生地、和装小物（帯締、羽織紐）、八掛、胴裏
012	河瀬満織物（株）	京都市上京区	先染帯地
013	(有) 織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株) 結華	静岡県清水町	後染反物（色無地、黒紋付）
016	(株) 絹回廊	東京都中央区	後染反物（色無地）
017	(有) 琴路屋	岩手県釜石市	後染反物（色無地、黒紋付）
018	(有) 大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地、白生地（表地）
019	丸善本店	福島県いわき市	後染反物（色無地、黒紋付）、白生地（表地）
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物（色無地、黒紋付）
021	日本蚕糸絹業開発協同組合 （絹小沢（株））	群馬県高崎市	裏地（胴裏（ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま 200、灰汁浸加工、トルマリン加工）、八掛、比翼地）、長襦袢地、後染反物（作家作品、紋付地）、白生地（世紀二一、上州絹星・ぐんま 200、新小石丸）、後染帯地（（冬物・夏物）：うるし糸が 5% を超えるもの）、寝衣（うぶ着、おくるみ）、和装小物（袱紗）
022	宮階織物（株）	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21 世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物（色無地、訪問着）、先染帯地（袋帯（草木染、唐織））
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物（有）	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地（袋帯、名古屋帯）、先染反物（御召類）、後染反物（色無地）、先染帯地（袋帯：金銀糸が 5% を超えるもの）
027	(有) 織道楽塩野屋	京都府亀岡市	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウォーマー、腹巻、手袋、靴下））

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
028	(株) 丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物（江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地）、後染帯地、白生地（表地）
029	(株) むらかね	青森県八戸市	後染反物（色無地、黒紋付）
030	(株) 高島屋	大阪市中央区	後染反物（振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖）、白生地（長襦袢地、胴裏）、ニット（靴下）、風呂敷
031	(株) さが美	神奈川県平塚市	後染反物（黒紋付（冬用・夏用）、色無地）
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物（色無地、黒紋付）
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物（色無地、黒紋付）
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物（色無地、黒紋付、小紋）
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物（色無地、訪問着）、白生地（表地、胴裏、帯地）、白生地（表地（天蚕糸交織））、白生地（帯地（天蚕糸交織））、婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地、白生地（表地）
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物（色無地、黒紋付）
038	(株) 榎屋高尾	京都市北区	先染帯地（袋帯）
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物（色無地、黒紋付）、白生地（表地）
040	(株) 越後屋	千葉縣市川市	後染反物（色無地、黒紋付）
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）、白生地（結城紬）
042	染織家柳崇	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	染織家児玉京子	沖縄県竹富町	先染反物
044	草木染工房山村 山村多榮子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染帯地（金銀糸が5%を超える）、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、ストール
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物（紋紬、緋）、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音 (株)	京都市中京区	後染反物（色無地（変三越、駒紬））
051	やまと (株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井 (株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物 (有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和 (株)	京都市中京区	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物（色無地、黒紋付）
058	浅山織物 (株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地（金銀糸が5%を超えるもの）、白生地（加賀友禅用）

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
060	田中種 (株)	大阪市中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢)、真綿布団、ハーフケット、布団カバー
061	(株) 京扇	東京都中央区	後染反物 (色無地)、胴裏 (パールトーン加工)
062	(株) なごみや	横浜市都筑区	後染反物 (色無地、黒紋付)
063	丸池藤井 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)、八掛
064	久保商事 (株)	京都市中京区	和装小物 (帯揚げ、半衿)
065	加賀グンゼ (株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋 (株)	京都市中京区	後染反物 (訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川 (株)	京都市下京区	和装小物 (帯締、帯揚げ)
068	第一衣料 (株)	東京都中央区	後染反物 (色無地)
069	(株) 紅輪	川崎市宮前区	後染反物 (色無地)
070	装いの道 (株)	東京都千代田区	白生地 (帯地、表地)、胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸)
071	(株) 高橋屋	岩手県一関市	胴裏 (灰汁浸加工)
072	おお又 (株)	大阪市旭区	胴裏 (灰汁浸加工)、ニット (靴下)
073	(株) 天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏 (ぐんま 200 (灰汁浸加工))、白生地 (表地)
074	(株) きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏 (パールトーン加工)
075	(株) とみひろ	山形県山形市	胴裏 (酵素精練)
076	(株) 細安	福井県福井市	胴裏 (酵素精練)
077	京和きもの (株)	神奈川県厚木市	胴裏 (酵素精練)
078	(株) まるため	長野県長野市	胴裏 (トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株) 小川屋	群馬県前橋市	胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株) エムラ	山口県防府市	胴裏 (酵素精練)
081	(株) 荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏 (酵素精練)
082	(株) 牛島屋	富山県富山市	胴裏 (酵素精練)、後染反物 (小紋)
083	(株) 谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏 (酵素精練)
084	(株) 登美屋	岩手県北上市	胴裏 (パールトーン加工)
085	(株) 川平屋	愛知県豊田市	胴裏 (パールトーン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
086	丸専第一衣料 (株) (丸専きもの)	新潟県長岡市	胴裏 (パールトーン加工)
087	(株) 大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地 (胴裏、比翼地 (振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール、ネクタイ
089	(株) あきやま	宮崎県綾町	先染反物、洋装品 (ショール、マフラー)
090	藤井紋 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
093	(株) ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品 (スーツ地、ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、シャツ))
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、羽織紐 (男物、女物)
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)
100	京商 (株)	鳥取県米子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(株) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、紵九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 九十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市長区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
128	大門屋	福井県大野市	白生地（牛首紬）、後染帯地（牛首紬）、ショール（牛首紬）、先染反物（飯田紬）
129	(株) 加藤萬	東京都中央区	和装小物（帯揚げ、半衿）
130	(株) しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物（小紋）
131	(資) 山中商店	名古屋市中区	後染反物（小紋）
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物（小紋）
133	西川産業（株）	東京都中央区	寝具寝装品（掛布団）
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣（長肌着、短肌着）
136	(株) 和想	鳥取県鳥取市	後染反物（小紋）
137	(株) 高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物（小紋）
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、禪、マフラー（手織り）
139	(株) 丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物（小紋）
140	(株) 染織館	徳島県徳島市	後染反物（小紋）
141	(株) 京ろまん	奈良県奈良市	後染反物（小紋）、ニット（靴下）
142	五嶋（株）	東京都文京区	帯締
143	(株) わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株) 布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏（トルマリン加工）、後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
145	(有) 明石屋	東京都調布市	後染反物（色無地）、後染帯地
146	宮井（株）	京都市中京区	風呂敷
147	(株) ナカノ	大分県大分市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠）、加賀友禅）
148	(株) 芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物（色無地、小紋（変一越、紋意匠））
149	(株) 甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品（スカーフ、ストール、トランクス）、パジャマ、袱紗
150	(有) さいとう呉服店	千葉県市川市	後染反物（色無地、付下）
151	(株) 西松屋	兵庫県姫路市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
152	(株) 西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
153	勝山織物（株）	京都市北区	先染帯地（金銀糸が5%を超えるもの）
154	(有) 石川	群馬県みどり市	後染反物（型友禅、羽二重色無地）、先染反物（ジャガード織）
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	(株) ふじや	福岡県朝倉市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物（小紋）
159	(株) J S	山梨県富士吉田市	寝具寝装品（ふとん、ふとんカバー）、洋装品（スーツ地、コート地、スカート地、シャツ、ワンピース地）、服飾品（スカーフ、ストール、ネックカバー、アームカバー、レッグカバー）
160	(株) マルシバ	東京都中央区	裏地（胴裏）、和装小物（袱紗）、ネクタイ
161	(株) みつわ	大阪府大東市	後染反物（小紋）
162	福純織物（株）	福岡市西区	先染帯地（本袋男帯、八寸名古屋帯）
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地（表地）

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地(表地)
165	(株) 染織こうげい	東京都中央区	白生地(表地)
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品(布団、膝かけ)、ショール
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))、ニット(靴下)
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地(変り縮緬)、先染反物(大島紬)
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物(置賜紬)、ストール
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物(大島紬)、先染帯地(大島紬)
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地(八寸名古屋帯)
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット(腹巻、靴下)
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物(小紋(変一越))
182	京呉服好一(株)	京都市北区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏(パールトーン加工)
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物(小紋(変一越))
185	マテリアル ロープ 磨	東京都練馬区	後染反物(小紋(変一越))
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠)、訪問着)、先染反物(絰着尺)、後染帯地
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地(表地)、帯締、羽織紐、帯締(金銀糸が5%を超えるもの)、ジャケット地
188	青山きもの(株) (青山きもの学院)	東京都港区	白生地(表地、夏物表地)
189	ニット青木(株)	東京都品川区	ニット(スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー)
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物(綾御召(男物、女物)、市松綾御召(草木染め))、裏地(紬八掛)、先染ストール
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
192	(有) 新宮(きもの宮下)	宮崎県宮崎市	後染反物(小紋(変一越))
193	アトリエ I T O 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	染織家 杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地(変り縮緬)、先染反物(大島紬)
197	(株) 嗟が野	埼玉県川越市	白生地(変り縮緬)、先染反物(大島紬)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
198	(株) カインドウェア	東京都千代田区	ストール、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物 (ぼかし着尺)
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地 (紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬)、後染反物 (本加賀訪問着)、先染反物 (大島紬)、先染帯地 (袋帯)
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物 (訪問着・色無地)、白生地 (表地)
202	メーカーズシャツ鎌倉 (株)	神奈川県鎌倉市	ニット (肌着)
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地 (胴裏絹)
204	(株) 緒方商店 (きもの心おがた)	愛媛県八幡浜市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
205	富士新幸 (株)	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市右京区	後染反物 (色無地・藍染)
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地 (変一越)
208	(株) ADESSO (きもの工房一休)	神戸市中央区	白生地 (変一越)
209	森秀織物 (株)	群馬県桐生市	先染反物 (御召)
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地 (本袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
211	(株) 長沼 (長沼静きもの学院)	東京都渋谷区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
212	(株) 国際商事	東京都板橋区	ショール
213	窪田織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬)
214	染織家 村江菊絵	東京都目黒区	先染帯地 (作家作品)、先染反物
215	片倉工業 (株)	東京都中央区	ニット (靴下)
216	村田捺染加工 (有)	群馬県桐生市	ストール
217	(株) 京のきもの綾錦	京都市下京区	後染反物 (訪問着、小紋、色無地)
218	あや工房	沖縄県西原町	先染反物 (首里織)、先染帯地 (首里織)
219	Noble Silk (株)	東京都中央区	ニット (インナー、パンツ、ひざ掛け、ジャケット)
220	万兵 (株)	名古屋市中区	白生地 (表地)
221	横山 (株)	京都市中京区	後染反物 (小紋・訪問着)
222	(株) カネヒサクリエーション	石川県金沢市	白生地 (表地)
223	柳晋哉	東京都世田谷区	先染反物
224	(株) 一声	京都市下京区	白生地 (表地)
225	(株) ヤマノホールディングス きもの事業本部	東京都渋谷区	後染反物 (小紋・訪問着)

月日	活 動 内 容 等
1 / 5	新年賀詞交歓会（東京都有楽町 蚕糸会館）
1 / 30	蚕種業者等打合せ（茨城県 蚕業技術研究所）
2 / 1 ~ 2	平成 29 年度福島県養蚕振興セミナーへの参加（福島県）
2 / 13 ~ 14	平成 29 年度群馬県内養蚕者情報交換会への参加（群馬県）
2 / 14	養蚕調査農家との情報交換会（東京都有楽町 蚕糸会館）
2 / 23	純国産絹マーク審査委員会（平成 29 年度第 4 次） （東京都有楽町 蚕糸会館）
2 / 23	平成 30 年おやま地区養蚕活性化研修会への参加（栃木県）
3 / 7	提携グループの再登録に係る審査会（東京都有楽町 蚕糸会館）
3 / 8	農林水産省主催「これからの国産シルクを語る若手の会」 （農林水産省）
3 / 22	大日本蚕糸会通常理事会（東京都有楽町 蚕糸会館）

「シルクレポートの誌面の見直し」について

シルクレポートは、平成 20 年の創刊以来、蚕糸・絹に関する情報誌として、関係者の皆様にご愛読いただいております。この間、養蚕農家の高齢化、養蚕から他作物への転換等により、養蚕を行っている農家戸数は大幅に減少し、繭生産量も百数十トンと国内需要量の 0.3% 程度にまで減少し、我が国の蚕糸・絹を取巻く状況は大きく変化してきました。

このような状況の下、近隣に養蚕農家がなく、蚕の飼育や桑の栽培などについての情報交換や技術的な話ができない養蚕農家が増えてきています。また、市町村や農協の養蚕指導者も地域にいない状況が顕著になってきています。

このため、大日本蚕糸会では、「シルクレポート」を蚕糸・絹に関する情報誌としてだけでなく、養蚕農家への技術情報の提供と交流の場としても活用することとし、「シルクレポート」の誌面を全面的に見直すとともに、全国の養蚕農家の皆様にも送付させていただくこととしました。

変更は本号（平成 30 年 4 月号）以降順次行っていく予定ですが、主な点は以下の通りです。

- ① 養蚕農家向けの桑園管理や蚕の飼育技術情報の充実
- ② 養蚕に関する資材情報の提供
- ③ 皆様の声を反映した誌面作り

なお、一部の統計資料等については誌面の関係上、掲載方法を変更させていただくものもあります。

「シルクレポート」へのご質問・ご意見等は下記にご連絡ください。

〒 100-0006

東京都千代田区有楽町 1-9-4

（一財）大日本蚕糸会

担当：上原

TEL：03-3214-3500 FAX：03-3214-3511

E-mail：uehara@silk.or.jp

これからも、「シルクレポート」をご愛読お願い申し上げます。

蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
一般財団法人北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館 語り部の館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
紬の里	307-0001	茨城県結城市結城 2515	0296-32-8002
本場結城紬郷土館	307-0000	茨城県結城市浦町 116	0296-32-2121
本場結城紬染織資料館「手緒里」	307-0001	茨城県結城市結城 12-2	0296-33-3111
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
おやま本場結城紬クラフト館	323-0023	栃木県小山市中央町 3-7-1 ロブレビル 1F	0285-32-6477
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3-2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1-2673-1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1（群馬の森公園内）	027-346-5522
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館“紫（ゆかり）”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-2211
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28-1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3-1	0494-23-7300
きもの芸術館（一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ～ 8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
蚕糸科学研究所展示室	169-0073	東京都新宿区百人町 3-25-1	03-3368-4891
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
八王子市郷土資料館	192-0902	東京都八王子市上野町 33	042-622-8939

名 称	〒	住 所	電 話
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
小千谷織物工房 小千谷織物同業協同組合	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25 小千谷市総合産業会館サンプラザ内	0258-83-2329
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 14	0257-82-4888
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村ヌ 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3-15-1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館 (シルクファクトおかや)	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 24	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上峰屋 3299 - 1	0574-28-1110
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109 - 1	0532-52-5265
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34-1-1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静海市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業 (株) 内	0772-72-0307

名 称	〒	住 所	電 話
上垣守国（うえがきもりくに）養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製絲記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp>

【蚕糸絹業関係団体】

(一財) 大日本蚕糸会
(一財) 大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター
(一社) 日本絹人繊維物工業会
(一財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
(公財) 京都和装産業振興財団
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://www.kinujinsen.com>
<http://www.mawata.or.jp>
<http://www.tanko.or.jp>
<http://www.nishijin.or.jp>
<http://www.tafs.or.jp>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougeihin.jp>
<http://takaraginu.com>

【大学・試験研究機関】

(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 <http://www.naro.affrc.go.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室 <http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html>
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース応用昆虫学研究室 <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/departments2/agri/life.html>
(国) 宇都宮大学農学部昆虫機能利用学研究室
http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/insect_physiology/seiri-research
(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科蚕学研究室 <http://www.tuat.ac.jp/~kaiko>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科 <http://www.tuat.ac.jp/~seimei>
(国) 名古屋大学農学部 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 信州大学繊維学部 <http://www.tex.shinshu-u.ac.jp>
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程 <http://www.bio.kit.ac.jp>
(国) 鳥取大学農学部生物資源環境学科昆虫機能学教育研究分野 <http://muses.muses.tottori-u.ac.jp>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科 <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(国) 九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku>
群馬県蚕糸技術センター <http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>
群馬県繊維工業試験場 <http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html>
京都府繊維・機械金属振興センター <http://www.pref.kyoto.jp/oriki>
(地独) 京都市産業技術研究所 <http://www.tc-kyoto.or.jp>
(公財) 衣笠繊維研究所 <http://krf-textile.com>
(一財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
(一財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

【学 会】

日本シルク学会
(一社) 日本蚕糸学会
日本野蚕学会

<http://jsst.sakura.ne.jp>
<http://jsss.or.jp>
<http://jswsmo.appspot.com>

【博物館】

(一財) シルクセンター-国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkcenter-kbkk.jp/museum>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp>
<http://www.city.seiyo.ehime.jp/soshiki/silkmuseum>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum>

【博物館】

駒ヶ根シルクミュージアム
織成館（京都市上京区）
高崎市染料植物園
群馬県立歴史博物館
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）
はたや記念館ゆめおーれ勝山

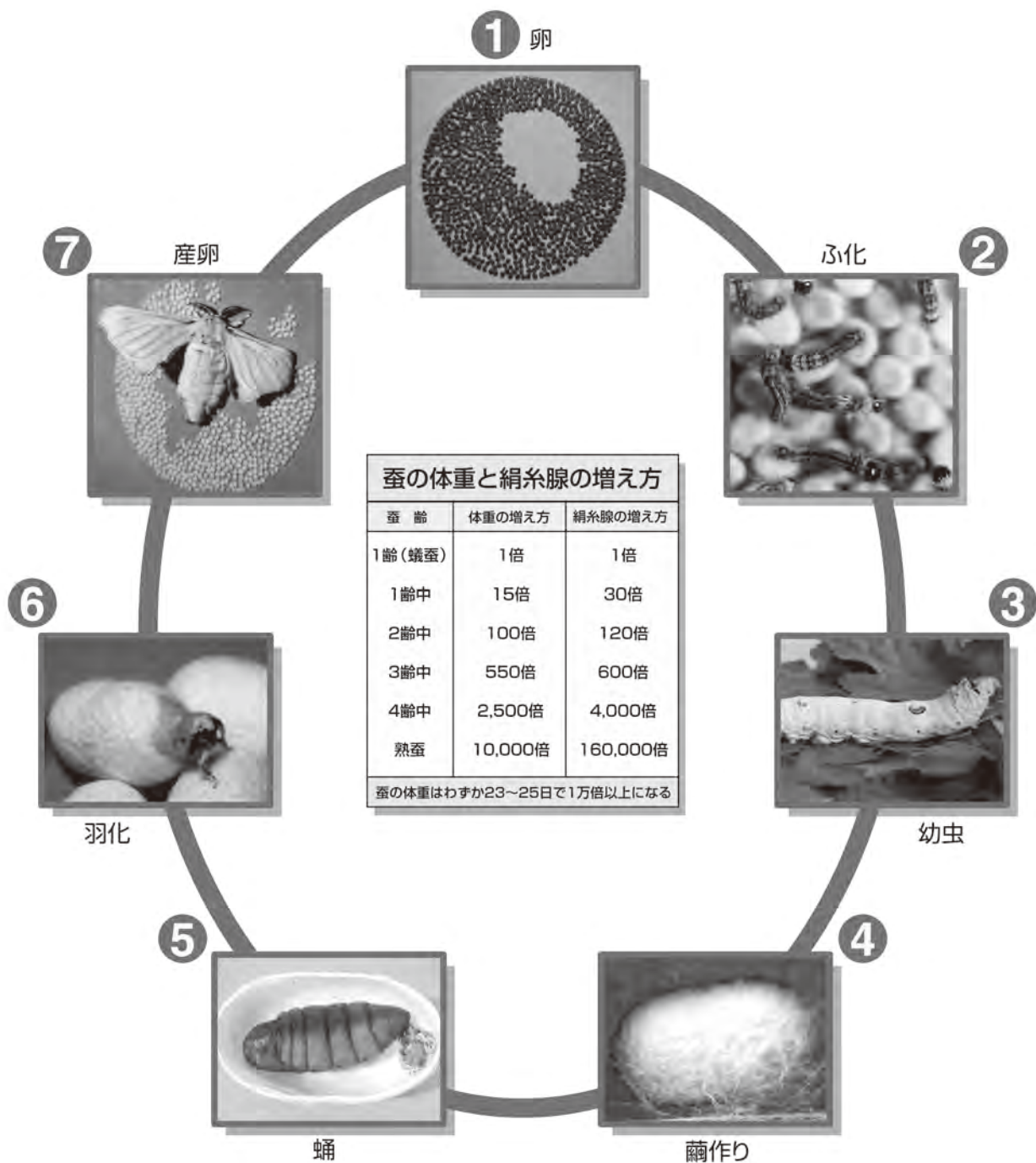
<http://www.cek.ne.jp/~shiruku>
<http://orinasukan.skr.jp>
<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/201401140097>
<http://grekisi.pref.gunma.jp>
<http://silkfact.jp>
<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>

【富岡製糸場と絹産業遺産群】

富岡製糸場
群馬県 企画部 世界遺産課
ぐんま絹遺産
上毛新聞社関連記事

<http://www.tomioka-silk.jp/hp/index.html>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/ja>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/kinuisan>
http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk_index.html

蚕の一生



協力:シルク博物館

一般財団法人大日本蚕糸会

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	64
(2) 養蚕農家数の推移	65
(3) 繭生産数量の推移	66
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	67
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	68
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	69
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	70
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	71
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	72
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	73
(11) 製糸工場の原料繭需給	74
(12) 製糸工場の操業状況	75
(13) 生糸在庫数量の内訳	76
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	77
(15) 生糸の原産国別輸入数量	78
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	79
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	80
(18) 絹織物生産数量	81
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	82
(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	83

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	84
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	85
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量	86
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	87
(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	88
(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年指数	90
(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年指数	91
(8) 中国産業別従業員年平均賃金の推移	92
(9) 中国省別従業員年平均賃金（2016年）	93
(10) ブラジルの繭・生糸生産数量の推移	94

－資料・国内－

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item 年次（暦年） Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1 戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
(平成)								
1997 (9)	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 (10)	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 (11)	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 (12)	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 (13)	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 (14)	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 (15)	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 (16)	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 (17)	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 (18)	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 (19)	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 (20)	1,021	382	374	1.6	6	80	38.1	14,043
2009 (21)	915	327	357	1.2	6	60	33.6	9,955
2010 (22)	756	265	351	0.9	7	49	35.9	3,611
2011 (23)	627	220	351	0.7	7	52	34.7	3,152
2012 (24)	571	202	354	0.5	7	35	33.3	2,912
2013 (25)	486	168	346	0.4	9	31	32.0	2,940
2014 (26)	393	149	379	0.4	9	34	—	2,734
2015 (27)	368	135	367	0.4	8	30	—	2,316
2016 (28)	349	130	372	0.3	8	26	—	2,243
2017 (29)	338	125	370	0.3	8	28	—	2,194
前年比(%) 2017/2016	96.8	96.2	99.3	100.0	100.0	107.7	—	97.8

資料 ・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。
 ・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び（一財）大日本蚕糸会調査である。
 ・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会調査である。
 ・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は（一社）日本絹人織機物工業会調査である。
 平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。
 ・平成23年以降の養蚕業は（一財）大日本蚕糸会調査である。

（注）製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: ・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)
 ・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and the Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)
 ・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009)
 ・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)
 ・Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit：number)

年 次 Year	項 目 Item	年 間 Annual total	春 蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
2009		915	814	647	755
2010		756	650	494	637
2011		627	562	358	531
2012		571	514	319	462
2013		486	422	260	399
2014		393	359	230	328
2015		368	323	221	313
2016		349	310	209	310
2017		338	307	201	280
前年比(%) 2017/2016		96.8	99.0	96.2	90.3

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(3) 繭生産数量の推移
Cocoon Production

年 次 Year	項 目 Item	年 計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
		年 間 Annual total	春 蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年 間 Annual total	春 蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
		t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
1994		7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170
1995		5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172
1996		3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173
1997		2,516	982	678	857	398	174	153	167
1998		1,980	769	588	623	390	169	157	151
1999		1,496	596	391	509	371	166	144	155
2000		1,244	500	320	424	379	169	148	157
2001		1,031	391	275	365	378	162	147	161
2002		880	330	231	320	373	166	134	167
2003		775	313	210	253	374	167	140	144
2004		675	256	176	243	369	158	128	157
2005		626	243	165	218	396	171	156	162
2006		505	209	122	173	375	172	143	157
2007		433	175	110	148	371	166	152	150
2008		382	147	96	139	374	158	157	162
2009		327	124	85	118	357	152	131	156
2010		265	107	60	98	351	165	121	154
2011		220	95	49	76	351	169	136	143
2012		202	79	50	73	354	155	156	159
2013		168	61	41	67	346	145	158	168
2014		149	55	36	58	379	153	157	176
2015		135	49	32	54	368	151	147	174
2016		130	47	32	50	372	153	155	162
2017		125	47	29	49	370	153	144	175
前年比 (%) 2017/2016		96.3	99.3	89.5	97.8	99.4	100.2	93.0	108.3
2017年 構成比 (%)		100.0	37.6	23.2	39.2				

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2001）.
National Federation of Agricultural Co-operative Associations（2002～2004）.
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（2005～2008年）.
The Dainippon Silk Foundation（2009年～）

(4)蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures

(単位:戸、%)

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年 間		
	28年	29年	前年対比	28年	29年	前年対比	28年	29年	前年対比	28年	29年	前年対比
青森県	1	1	-	1	1	-	2	1	50.0	2	2	100.0
岩手県	14	9	64.3	11	10	90.9	18	14	77.8	18	15	83.3
宮城県	9	12	133.3	10	10	100.0	13	7	53.8	15	15	100.0
山形県	6	6	100.0	5	3	60.0	7	6	85.7	8	7	87.5
福島県	34	38	111.8	36	38	105.6	37	40	108.1	41	44	107.3
茨城県	13	10	76.9	10	8	80.0	12	8	66.7	13	10	76.9
栃木県	23	22	95.7	16	16	100.0	23	20	87.0	23	24	104.3
群馬県	111	111	100.0	71	69	97.2	114	108	94.7	122	119	97.5
埼玉県	28	25	89.3	19	17	89.5	26	22	84.6	29	25	86.2
千葉県	6	7	116.7	4	5	125.0	6	6	100.0	7	7	100.0
東京都	4	3	75.0	-	-	-	3	3	100.0	4	3	75.0
新潟県	8	8	100.0	-	1	-	-	-	-	8	8	100.0
福井県	1	1	100.0	-	-	-	1	1	100.0	1	1	100.0
山梨県	10	8	80.0	4	3	75.0	10	8	80.0	11	8	72.7
長野県	15	15	100.0	12	12	100.0	14	15	107.1	18	17	94.4
岐阜県	7	7	100.0	-	-	-	5	4	80.0	7	8	114.3
愛知県	2	2	100.0	-	-	-	1	-	-	2	2	100.0
京都府	2	-	-	-	-	-	2	-	-	2	-	-
兵庫県	1	1	100.0	-	-	-	1	1	100.0	1	1	100.0
愛媛県	10	11	110.0	6	5	83.3	10	10	100.0	11	12	109.1
高知県	1	1	100.0	-	-	-	-	-	-	1	1	100.0
熊本県	-	3	-	-	-	-	-	2	-	-	3	-
宮崎県	1	2	200.0	-	-	-	1	2	200.0	1	2	200.0
鹿児島県	3	4	133.3	4	3	75.0	4	2	50.0	4	4	100.0
全国計	310	307	99.0	209	201	96.2	310	280	90.3	349	338	96.8

資料:(一財)大日本蚕糸会調査

Source:The Dainippon Silk Foundation

(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量
Cocoon production by prefectures

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年間		
	28年	29年	前年比	28年	29年	前年比	28年	29年	前年比	28年	29年	前年比
青森県	65.0	70.4	108.3%	73.7	82.0	111.3%	113.2	70.0	61.8%	251.9	222.4	88.3%
岩手県	1,395.1	1,070.0	76.7%	1,575.4	1,517.7	96.3%	1,969.5	1,493.7	75.8%	4,940.0	4,081.4	82.6%
宮城県	1,560.5	1,118.4	71.7%	1,367.4	1,231.4	90.1%	1,589.7	1,526.2	96.0%	4,517.6	3,876.0	85.8%
山形県	1,156.1	1,197.3	103.6%	608.6	559.4	91.9%	1,534.9	1,310.0	85.3%	3,299.6	3,066.7	92.9%
福島県	6,191.7	6,800.6	109.8%	7,105.0	6,368.6	89.6%	9,065.5	8,156.4	90.0%	22,362.2	21,325.6	95.4%
茨城県	2,068.9	1,518.2	73.4%	1,241.5	1,013.3	81.6%	1,840.2	1,511.7	82.1%	5,150.6	4,043.2	78.5%
栃木県	6,657.7	6,570.9	98.7%	3,959.0	3,505.5	88.5%	8,305.0	7,828.0	94.3%	18,921.7	17,904.4	94.6%
群馬県	17,773.8	17,945.6	101.0%	11,151.3	9,887.1	88.7%	16,902.9	17,852.4	105.6%	45,828.0	45,685.1	99.7%
埼玉県	3,110.6	3,431.4	110.3%	2,132.2	1,572.8	73.8%	3,039.1	3,035.5	99.9%	8,281.9	8,039.7	97.1%
千葉県	1,084.0	950.7	87.7%	484.7	437.1	90.2%	625.0	720.3	115.2%	2,193.7	2,108.1	96.1%
東京都	219.6	105.5	48.0%	-	-	-	75.4	115.5	153.2%	295.0	221.0	74.9%
山梨県	2,115.6	2,127.4	100.6%	704.0	512.7	72.8%	1,618.3	1,908.0	117.9%	4,437.9	4,548.1	102.5%
長野県	1,624.3	1,456.6	89.7%	950.9	1,328.7	139.7%	1,677.9	1,569.0	93.5%	4,253.1	4,354.3	102.4%
新潟県	108.6	109.3	100.6%	-	27.5	-	-	0.0	-	108.6	136.8	126.0%
福井県	59.1	57.9	98.0%	-	0.0	-	30.0	35.7	119.0%	89.1	93.5	104.9%
岐阜県	574.1	572.8	99.8%	-	0.0	-	419.5	200.5	47.8%	993.6	773.3	77.8%
愛知県	87.9	84.8	96.5%	-	0.0	-	25.5	0.0	0.0%	113.4	84.8	74.8%
兵庫県	68.8	39.0	56.7%	-	0.0	-	64.5	39.0	60.5%	133.3	78.0	58.5%
京都府	36.7	0.0	0.0%	-	0.0%	-	26.8	0.0	0.0%	63.5	0.0	0.0%
愛媛県	1,263.9	1,511.2	119.6%	955.1	1,199.8	125.6%	1,033.7	1,255.2	121.4%	3,252.7	3,966.2	121.9%
高知県	13.9	3.6	25.9%	-	0.0	-	-	0.0	-	13.9	3.6	25.9%
熊本県	-	102.2	-	-	-	-	-	70.0	-	-	172.2	-
宮崎県	65.2	83.0	127.3%	-	-	-	35.6	84.4	237.1%	100.8	167.4	166.1%
鹿児島県	47.0	85.0	180.9%	105.0	95.0	90.5%	97.0	60.0	61.9%	249.0	240.0	96.4%
全国計	47,348.1	47,011.7	99.3%	32,413.8	29,338.6	90.5%	50,089.2	48,841.5	97.5%	129,851.1	125,191.8	96.4%

資料：(一財)大日本蚕糸会調査

Source: The Dainippon Silk Foundation

(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移

Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item	Year	2014年 (平成26年)		2015年 (平成27年)		2016年 (平成28年)		2017年 (平成29年)	
		箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %
錦秋1号 × 鐘和1号		3,278	33.4	2,899	30.0	2,800	31.5	2,635	32.3
錦秋 × 鐘和		1,754	17.9	1,946	20.1	1,606	18.1	1,566	19.2
ぐんま200号		1,104	11.3	1,019	10.5	949	10.7	926	11.3
春嶺 × 鐘月1号		1,116	11.4	1,242	12.8	1,100	12.4	906	11.1
春嶺1号 × 鐘月1号		872	8.9	780	8.1	679	7.6	700	8.6
松岡石丸号		350	3.6	300	3.1	445	5.0	275	3.4
新緑小繭2号		129	1.3	107	1.1	178	2.0	143	1.8
かいらよう × あけぼの丸号		18	0.2	22	0.2	39	0.4	120	1.5
小白繭細1号		140	1.4	136	1.4	133	1.5	94	1.2
改良小石丸号		134	1.4	180	1.9	96	1.1	85	1.0
朝日 × 東ボ一		92	0.9	39	0.4	59	0.7	79	1.0
づらんチナ黄		52	0.5	93	1.0	82	0.9	70	0.9
世ぐん紀二		58	0.6	110	1.1	58	0.7	59	0.7
蚕技研11号		128	1.3	58	0.6	66	0.7	56	0.7
大い白玉小C5・C6		103	1.1	116	1.2	59	0.7	55	0.7
青山東3眠 × C5・507		23	0.2	78	0.8	17	0.2	50	0.6
秋上庵美平 × 長		126	1.3	95	1.0	101	1.1	48	0.6
太黄N5・N6 × TY40		42	0.4	43	0.4	44	0.5	46	0.6
支21号 × 四川3眠		23	0.2	41	0.4	55	0.6	45	0.6
Ok・ON × 青		76	0.8	134	1.4	52	0.6	40	0.5
新青極緑		31	0.3	26	0.3	60	0.7	30	0.4
白極玉鷹支108号 × 青		20	0.2	39	0.4	49	0.6	29	0.4
山東3眠 × C5・505		33	0.3	33	0.3	10	0.1	14	0.2
又青 × 中515号		22	0.2	11	0.1	26	0.3	12	0.1
		4	0.0	4	0.0	26	0.3	12	0.1
		8	0.1	43	0.4	15	0.2	10	0.1
		20	0.2	32	0.3	42	0.5	9	0.1
		4	0.0	8	0.1	12	0.1	8	0.1
		4	0.0	4	0.0	10	0.1	5	0.1
		5	0.1	5	0.1	5	0.1		
		16	0.2	8	0.1	2	0.0		
		10	0.1	11	0.1				
		8	0.1	6	0.1				
		3	0.0						
		2	0.0						
合計 Total		9,808	100.0	9,668	100.0	8,887	100.0	8,162	100.0

資 料:(一財)大日本蚕糸会調査。

Source :The Dainippon Silk Foundation.

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年 月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,928	8,261
2010	882	12,207	595	13,220	3,329	16,306	324	8,930	6,302
2011	731	9,323	578	10,349	2,456	17,526	427	8,422	6,229
2012	506	10,032	419	10,274	2,180	16,179	320	7,218	5,545
2013	409	9,332	292	9,919	1,712	15,844	426	6,662	5,431
2014	446	8,235	14	8,726	1,653	14,820	330	6,098	5,125
2015	378	6,479	0	7,194	1,410	14,051	302	5,468	5,085
2016	317	6,548	0	6,869	1,406	12,094	177	5,207	4,940
2017	339	7,560	1	7,554	1,750	14,560	245	4,897	4,785
2014 — 1	30	776	0	679	1,839	1,579	13	684	324
2	39	591	0	582	1,887	677	21	296	485
3	35	1,055	10	976	1,991	1,338	15	487	511
4	42	270	0	547	1,756	1,392	30	474	521
5	41	927	0	725	1,999	1,332	26	570	486
6	45	869	0	946	1,967	1,355	30	643	380
7	39	599	0	728	1,877	1,311	45	553	429
8	24	548	0	663	1,786	1,203	25	475	362
9	32	591	0	681	1,728	1,411	41	422	359
10	43	748	0	794	1,725	1,121	22	510	447
11	34	667	0	784	1,642	1,008	36	446	392
12	43	600	3	629	1,653	1,094	27	534	428
2015 — 1	35	722	0	663	1,747	1,422	14	449	380
2	44	614	0	647	1,758	1,045	7	539	342
3	37	802	0	686	1,911	693	17	271	469
4	38	0	0	531	1,418	1,165	27	461	428
5	29	822	0	719	1,550	1,591	50	530	479
6	37	628	0	680	1,535	1,293	32	463	432
7	30	572	0	638	1,499	1,283	40	484	442
8	25	467	0	448	1,543	1,238	47	371	391
9	23	479	0	557	1,488	1,152	30	364	380
10	28	462	0	517	1,461	1,161	16	549	504
11	25	530	0	509	1,507	1,024	6	522	403
12	27	380	0	504	1,410	983	17	407	434
2016 — 1	23	423	0	513	1,343	1,101	35	468	354
2	33	595	0	607	1,364	797	10	460	348
3	38	636	0	401	1,637	911	15	384	523
4	26	0	0	414	1,249	1,047	19	445	478
5	24	726	0	529	1,470	900	20	493	364
6	17	555	0	648	1,394	1,295	12	457	434
7	26	642	0	630	1,432	1,072	8	442	443
8	26	589	0	599	1,448	967	9	383	332
9	30	520	0	620	1,378	946	5	374	426
10	20	602	0	572	1,428	862	17	414	415
11	28	664	0	700	1,420	1,161	22	493	407
12	26	596	0	636	1,406	1,035	5	394	416
2017 — 1	23	552	0	534	1,447	1,314	7	522	249
2	23	509	0	479	1,500	535	35	203	454
3	23	805	1	693	1,634	1,376	21	456	469
4	26	0	0	122	1,538	1,255	23	371	437
5	36	997	0	1,021	1,550	1,389	14	466	411
6	26	735	0	773	1,538	1,285	17	499	410
7	24	437	0	494	1,505	960	18	388	441
8	25	839	0	820	1,549	1,443	9	391	355
9	35	664	0	543	1,705	1,259	12	395	381
10	31	700	0	731	1,705	815	36	321	389
11	34	760	0	778	1,721	1,542	20	522	399
12	33	561	0	565	1,750	1,388	34	360	390
1	25	778	0	722	1,831	1,200	552	453	312

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査 (～2010.3)、中央蚕糸協会及び日本生糸問屋協会 (2010.4～2012.3)、中央蚕糸協会 (2012.12～)。 (B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。 (F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量 (D) = { 前月在庫数量 + (A) + (B) } - { (C) + (E) }。
2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。
3. (D) と (E) は2012年11月までと同年12月以降調査方法が変更したため連続性はない。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2010.3)、Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (2010.4～2012.11)、Central Raw Silk Association (2012.12～)。

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries (D) = { Stock at end of the previous month + (A) + (B) } - { (C) + (E) }。

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸の織度別生産数量の推移
Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	項 目 Item	生 糸 Raw Silk					
		計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
暦 年 Calendar Year							
2006		1,956	4	240	531	653	523
2007		1,747	5	259	495	514	474
2008		1,588	4	289	421	368	503
2009		1,152	1	243	392	251	262
2010		882	1	179	316	86	300
2011		731	1	188	249	89	204
2012		506	0	109	202	73	82
2013		409	0	109	105	57	138
2014		446	0	114	116	62	155
2015		378	0	146	86	36	110
2016		317	0	98	103	38	78
2014 -	1	30	—	9	3	2	16
	2	39	—	10	4	0	25
	3	35	—	14	6	6	9
	4	42	—	7	11	7	17
	5	41	—	9	17	5	10
	6	45	—	13	12	5	15
	7	39	—	13	8	8	10
	8	24	—	1	15	0	8
	9	32	—	9	10	1	12
	10	43	—	10	8	11	14
	11	34	—	9	12	9	4
	12	43	—	10	10	8	15
2015 -	1	35	—	10	12	6	7
	2	44	—	6	12	12	14
	3	37	—	17	11	4	5
	4	38	—	16	2	8	12
	5	29	—	13	4	0	12
	6	37	—	15	6	2	14
	7	30	—	13	6	0	11
	8	25	—	8	9	0	8
	9	23	—	14	3	1	5
	10	28	—	8	12	0	8
	11	25	—	12	5	2	6
	12	27	—	14	4	1	8
2016 -	1	23	—	7	11	0	5
	2	33	—	10	7	4	12
	3	38	—	9	12	11	6
	4	26	—	6	12	1	7
	5	24	—	3	7	2	12
	6	17	—	11	3	0	3
	7	26	—	10	10	0	6
	8	26	—	7	9	6	4
	9	30	—	7	12	1	10
	10	20	—	8	4	3	5
	11	28	—	10	11	3	4
	12	26	—	10	5	7	4
2017 -	1	23	—	5	8	4	6
	2	23	—	13	3	0	7
	3	23	—	6	12	0	5
	4	26	—	9	10	0	7
	5	36	—	9	7	10	10
	6	26	—	8	6	4	8
	7	24	—	10	2	3	9
	8	25	—	11	7	1	6
	9	35	—	11	13	3	8
	10	31	—	9	4	13	5
	11	34	—	7	8	10	9
	12	33	—	9	15	5	4
2018 -	1	25	—	4	10	8	3

資 料：農林水産省生産局調査(～2010. 3)。中央蚕糸協会(2010. 4～)。

備 考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3). Central Raw Silk Association (2010. 4～)。

Remarks：Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末 在庫 Ending Stocks ④		
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	輸 出 Export				内 需 Domestic Demand ②-③	
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second						計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn			織 物 Fabrics
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152		
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138		
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135		
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138		
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133		
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131		
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123		
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119		
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113		
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113		
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105		
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100		
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85		
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84		
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77		
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71		
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63		
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47		
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43		
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47		
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46		
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45		
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45		
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	17	0	0	12	5	159	45		
2016	239	45	0	194	7	12	14	161	194	15	0	0	9	6	179	45		
2017	239	45	0	194	8	15	9	162	194	22	0	1	11	10	172	45		
前年比 (%) 2017/2016	100	100	—	100	114	125	64	101	100	147	—	—	122	167	96	100		

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

注）2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source："Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics"

(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item		暦年 Calendar Year	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	前年比% y/y	構成比% ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments		2.8	2.2	2.4	3.1	3.4	2.4	2.2	1.7	77.3	1.1
	女子用外衣類 Women's upper garments		38.4	51.2	50.0	63.5	53.4	65.6	73.9	81.2	109.9	50.2
	うちブラウス Blouse of the inside		2.4	2.0	2.2	6.0	2.9	1.2	1.0	0.9	90.0	0.6
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		1.0	1.4	1.5	1.9	2.0	1.3	1.9	2.2	115.8	1.4
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		13.9	15.5	15.5	20.5	21.9	18.8	20.3	22.1	108.9	13.7
	ハンカチ Handkerchief		0.3	0.5	0.3	0.4	0.3	0.3	0.2	0.3	150.0	0.2
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		2.2	2.2	2.3	2.2	2.0	1.9	1.5	1.4	93.3	0.9
	ネクタイ類 Ties		18.1	14.5	12.8	11.9	9.7	7.8	7.9	10.5	132.9	6.5
	メリヤス、クロセス編物 Knit.kurose knitting		17.9	18.6	22.7	26.1	20.4	17.9	23.2	11.1	47.8	6.9
その他の洋装類 Other western clothes			21.0	20.2	19.1	18.9	17.8	15.9	15.4	14.8	96.1	9.1
洋装類計 Western clothes subtotal			115.6	126.3	126.6	148.5	130.9	131.9	146.5	162.4	110.9	100.3
和装類計 Japanese clothes subtotal			14.5	12.5	11.8	13.0	12.2	10.3	11.5	13.9	120.9	8.6
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessories of the inside			12.5	10.1	10.1	11.0	10.1	8.6	10.1	12.3	121.8	7.6
その他 Others			2.9	3.1	3.2	2.3	1.8	2.6	2.5	2.6	104.0	1.6
合計 Total			133.0	141.9	141.6	163.8	144.9	144.7	160.5	161.9	100.9	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」

注：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source:The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"

Note:Total may not added up due to round off.

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭 t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
2007		548	581	505
2008		393	518	378
2009		308	385	313
2010		240	299	263
2011		189	162	237
2012		185	209	183
2013		142	137	188
2014		128	158	158
2015		116	159	115
2016		115	110	120
2017		103	120	103
2015	— 1	0	13	145
	2	0	14	131
	3	0	12	119
	4	0	13	106
	5	0	11	95
	6	22	13	104
	7	29	11	122
	8	14	8	128
	9	12	37	103
	10	34	9	128
	11	5	9	124
	12	0	9	115
2016	— 1	0	8	107
	2	0	11	96
	3	0	13	83
	4	0	9	74
	5	0	8	66
	6	23	6	83
	7	24	10	97
	8	10	8	99
	9	7	10	96
	10	39	8	127
	11	12	10	129
	12	0	9	120
2017	— 1	1	8	113
	2	0	9	104
	3	0	8	96
	4	1	9	88
	5	0	12	76
	6	22	9	89
	7	25	9	105
	8	12	9	108
	9	1	12	97
	10	33	11	119
	11	8	12	115
	12	0	12	103
2018	— 1	0	9	94

資 料：農林水産省生産局調査(～2010. 3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010. 4～2012. 11)。
中央蚕糸協会(2012. 12～)。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。
2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。
3. 2015年9月の消費数量は焼失分29tを含む。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010. 4～2012. 11).
Central Raw Silk Association (2012. 12～).

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.
2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況
Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
2007		8	112	93	83	266	100
2008		6	112	90	80	266	90
2009		6	118	71	60	259	82
2010		7	118	58	49	247	73
2011		7	110	57	52	252	65
2012		7	110	39	35	243	56
2013		9	110	38	31	249	58
2014		9	110	38	34	261	58
2015		8	110	33	30	263	53
2016		8	110	29	26	267	57
2017		8	110	31	28	266	54
2014 -	1	6	110	38	35	20	57
	2	6	110	37	34	23	57
	3	6	110	37	34	22	57
	4	7	110	37	34	23	57
	5	7	110	37	34	22	57
	6	9	110	38	35	23	62
	7	9	110	39	35	20	62
	8	6	110	26	24	23	50
	9	7	110	38	35	19	58
	10	8	110	38	35	23	62
	11	8	110	37	34	21	62
	12	7	110	38	35	22	58
2015 -	1	7	110	37	34	20	57
	2	7	110	39	35	21	57
	3	6	110	38	35	23	61
	4	6	110	38	35	23	60
	5	7	110	37	34	20	60
	6	8	110	39	35	23	60
	7	8	110	35	32	22	60
	8	6	110	26	24	20	48
	9	6	110	23	21	23	48
	10	6	110	25	23	23	53
	11	7	110	27	25	22	53
	12	7	110	27	25	23	53
2016 -	1	7	110	25	23	19	53
	2	6	110	34	31	22	57
	3	6	110	36	33	23	57
	4	7	110	31	28	23	58
	5	6	110	21	19	21	50
	6	7	110	20	19	23	49
	7	8	110	31	28	23	63
	8	7	110	31	28	21	59
	9	7	110	30	27	23	58
	10	8	110	30	27	24	61
	11	8	110	29	26	22	61
	12	8	110	30	27	23	55
2017 -	1	7	110	33	30	19	51
	2	7	110	31	28	22	51
	3	6	110	19	17	23	42
	4	6	110	21	19	23	48
	5	7	110	33	30	23	58
	6	8	110	32	29	23	62
	7	7	110	21	19	24	52
	8	6	110	35	32	22	48
	9	7	110	38	35	23	59
	10	8	110	34	31	22	62
	11	7	110	36	33	22	61
	12	7	110	41	37	20	59
	1	7	74	37	50	16	58

資 料 : 農林水産省生産局調査(～2010. 3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010. 4～2012. 11)。
中央蚕糸協会及び(一財)大日本蚕糸会(2012. 12～)。

備 考 : 1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。
2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。
3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010. 4～).
Central Raw Silk Association(2012. 12～)

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.
2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.
3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month	総 計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受 入 数 量 Accepts	引 渡 数 量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year									
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	0
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010	3,329	3,329	319	—	2,354	656			
2011	2,456	2,456	288	—	1,651	517			
2012	2,180	2,180	124	—	2,056				
2013	1,712	1,712	110	—	1,602				
2014	1,653	1,653	78	—	1,575				
2015	1,410	1,410	94	—	1,316				
2016	1,406	1,406	130	—	1,276				
2015 — 1	1,747	1,747	74	—	1,673				
2	1,758	1,758	77	—	1,681				
3	1,911	1,911	80	—	1,831				
4	1,418	1,418	75	—	1,343				
5	1,550	1,550	83	—	1,467				
6	1,535	1,535	88	—	1,447				
7	1,499	1,499	89	—	1,410				
8	1,543	1,543	87	—	1,456				
9	1,488	1,488	89	—	1,399				
10	1,461	1,461	87	—	1,374				
11	1,507	1,507	79	—	1,428				
12	1,410	1,410	94	—	1,316				
2016 — 1	1,343	1,343	93	—	1,251				
2	1,364	1,364	97	—	1,267				
3	1,637	1,637	119	—	1,518				
4	1,249	1,249	116	—	1,133				
5	1,470	1,470	114	—	1,356				
6	1,394	1,394	111	—	1,283				
7	1,432	1,432	107	—	1,325				
8	1,448	1,448	111	—	1,337				
9	1,378	1,378	118	—	1,260				
10	1,428	1,428	110	—	1,318				
11	1,420	1,420	123	—	1,297				
12	1,406	1,406	130	—	1,276				
2017 — 1	1,447	1,447	129	—	1,318				
2	1,500	1,500	127	—	1,373				
3	1,634	1,634	124	—	1,510				
4	1,538	1,538	112	—	1,426				
5	1,550	1,550	123	—	1,427				
6	1,538	1,538	116	—	1,422				
7	1,505	1,505	107	—	1,398				
8	1,549	1,549	107	—	1,442				
9	1,705	1,705	119	—	1,586				
10	1,705	1,705	123	—	1,582				
11	1,721	1,721	138	—	1,583				
12	1,750	1,750	156	—	1,594				
2018 — 1	1,831	1,831	156	—	1,675				

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。中央蚕糸協会(2012.12～)

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).

Central Raw Silk Association (2012.12～).

(14) 蚕糸関係品目別輸入状況

Breakdown of Silk-Related Products Imports

	単位 Unit	平成30年(2018)		平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	29年/28年 2017/2016 (%)
		(1月) Jan.	(累計) Accumulat ed Total								
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bales of 60kg	778	778	9,323	10,032	9,332	8,235	6,479	6,546	7,560	115.5
絹糸 Silk Yarn	俵 Bales of 60kg	1,200	1,200	17,526	16,179	15,844	14,820	14,051	12,094	14,560	120.4
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bales of 60kg	0	0	62	81	169	48	33	41	39	95.1
繭 Cocoon	kg	0	0	4,050	6,250	8,300	10,200	6,800	7,000	6,400	91.4
くず繭 Waste Cocoon	kg	281	281	10,885	6,457	13,314	11,728	8,860	4,602	6,289	136.7
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	9,580	9,580	98,732	107,023	92,024	101,655	89,984	53,737	57,361	106.7
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	9,861	9,861	109,617	107,022	105,338	113,383	98,844	58,339	63,650	109.1
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	21,239	21,239	394,920	482,523	438,786	453,450	343,101	331,100	320,022	96.7
絹紡紬糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	9,390	9,390	118,404	140,188	152,749	141,707	148,796	121,788	118,382	97.2
絹織物 Silk Fabrics	m ²	452,679	452,679	8,422,094	7,218,094	6,661,585	6,097,501	5,468,177	5,206,131	4,896,980	94.1

資料：財務省関税局

備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(15) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位 : 60 k g 俵)
(Unit : Bales of 60kg)

国 名 Country	計 Total	中国 China	ブラジル Brazil	ベトナム Vietnam	タイ Thailand	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦 年 Calendar Year						
2007	12,858	8,804	3,848	-	206	-
2008	15,242 (137)	10,969 (102)	4,152 (35)	-	122	-
2009	12,085 (72)	8,170 (51)	3,855 (21)	-	41	-
2010	12,209 (65)	8,411 (40)	3,706 (25)	-	32	-
2011	9,323 (63)	7,170 (32)	2,136 (30)	-	5	-
2012	10,032 (49)	8,628 (36)	1,403 (13)	-	-	-
2013	9,332 (98)	8,047 (59)	1,275 (34)	10 (5)	-	-
2014	8,241 (90)	7,001 (75)	1,143 (15)	70	7	20
2015	6,479 (58)	5,569 (49)	887 (9)	20	2	-
2016	6,546 (52)	5,378 (44)	1,142 (8)	24	2	-
2017	7,560 (68)	6,008 (62)	1,456 (5)	91	2	1
2015 - 1	722	510	212	-	-	-
2	614 (2)	589 (2)	15	10	-	-
3	802 (2)	769	33 (2)	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-
5	822 (3)	689 (3)	133	-	-	-
6	628 (23)	572 (23)	47	10	-	-
7	572 (15)	534 (10)	36 (5)	-	2	-
8	467 (6)	417 (6)	50	-	-	-
9	479	364	115	-	-	-
10	462 (6)	366 (6)	96	-	-	-
11	530 (2)	444	86 (2)	-	-	-
12	380	315	65	-	-	-
2016 - 1	423 (10)	299 (10)	124	-	-	-
2	595	493	102 (3)	-	-	-
3	636	596	40	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-
5	726 (15)	557 (15)	167	-	2	-
6	555 (10)	503 (5)	52 (5)	-	-	-
7	642 (7)	523 (7)	118	1	-	-
8	589	499	88	2	-	-
9	520 (5)	447 (5)	73	-	-	-
10	602 (2)	442 (2)	160	-	-	-
11	664	599 (10)	64	-	-	-
12	596	421	154	21	-	-
2017 - 1	552 (7)	453 (7)	99	-	-	-
2	509 (8)	443 (8)	66	-	-	-
3	805	636	137	30	2	-
4	-	-	-	-	-	-
5	997 (9)	708 (8)	289 (0)	-	-	-
6	735 (5)	591 (5)	117	27	-	-
7	437 (1)	321	85 (1)	32	-	-
8	839 (8)	653 (6)	186 (2)	-	-	-
9	664 (4)	584 (4)	81	-	-	-
10	700 (17)	603 (17)	94	3	-	1
11	760 (7)	593 (5)	167 (2)	-	-	-
12	561 (2)	424 (2)	136	-	-	-
2018 - 1	778 (4)	640 (4)	116		22	

資 料 : 財務省関税局調査

備 考 : 1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(16) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

国名 年月 Country Year & Month	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year								
2008	22,636	143	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009	16,647	—	9,656	5,096	12	—	1,742	137
2010	16,306	—	9,675	4,161	16	—	1,716	205
2011	17,526	—	10,384	5,129	7	—	1,131	212
2012	16,179	—	9,924	4,908	15	—	1,109	223
2013	15,844	—	9,148	5,783	33	—	878	3
2014	14,820	—	8,190	5,733	8	—	867	22
2015	14,051	—	7,928	5,586	4	0	531	2
2016	12,094	—	7,289	4,074	16	0	711	4
2017	14,560	—	8,431	5,256	10	0	862	0
2015 — 1	1,422	—	788	529	—	—	105	—
2	1,045	—	573	461	0	0	11	—
3	693	—	405	268	—	0	21	—
4	1,165	—	745	332	—	—	87	1
5	1,591	—	951	610	—	—	31	—
6	1,293	—	679	564	1	0	48	—
7	1,283	—	697	568	—	—	17	—
8	1,238	—	732	490	—	—	15	1
9	1,152	—	692	401	—	—	59	—
10	1,161	—	528	594	—	—	39	—
11	1,024	—	536	431	1	—	56	0
12	983	—	601	339	2	—	41	—
2016 — 1	1,101	—	564	476	—	—	62	—
2	797	—	468	292	0	0	35	2
3	911	—	579	289	—	—	42	—
4	1,047	—	659	357	—	—	30	1
5	900	—	538	255	4	—	102	—
6	1,295	—	802	442	—	—	51	—
7	1,072	—	573	423	—	—	76	—
8	967	—	566	332	—	—	69	—
9	946	—	598	294	2	—	51	—
10	862	—	548	250	—	—	62	2
11	1,161	—	783	295	7	0	76	—
12	1,035	—	610	368	1	—	55	—
2017 — 1	1,314	—	931	326	2	—	54	—
2	535	—	199	307	3	—	26	—
3	1,376	—	725	540	0	—	111	—
4	1,255	—	630	595	—	—	30	—
5	1,389	—	844	423	—	0	121	—
6	1,285	—	821	397	—	—	67	—
7	960	—	493	426	0	—	40	—
8	1,443	—	795	534	1	—	112	—
9	1,259	—	838	371	—	—	50	0
10	815	—	459	313	2	0	41	—
11	1,542	—	833	570	1	—	137	—
12	1,388	—	862	454	1	0	71	—
2018 — 1	1,200	—	613	526	1	—	60	—

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価

Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵、円/Kg

Unit: bale of 60kg, yen/kg

項 目 Item	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
	年 月 Year & Month									
暦 年 Calendar Year										
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,627	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,120	2,740	3,965	3,059	9,656	2,840	1,742	3,611	5,116	3,034
2010	8,411	3,667	3,706	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,606	3,411
2011	7,170	4,469	2,136	5,492	10,384	4,707	1,722	5,398	5,429	4,402
2012	8,628	4,293	1,404	5,290	9,924	4,383	1,110	6,078	4,908	4,493
2013	8,047	5,954	1,275	7,420	9,148	6,150	878	8,409	5,783	6,091
2014	6,925	6,449	1,127	8,362	8,190	6,609	867	9,480	5,743	6,794
2015	5,520	6,803	879	8,199	7,928	6,908	531	9,261	5,586	7,283
2016	5,334	5,614	1,134	6,164	7,289	5,764	711	6,654	4,074	5,946
2017	5,946	6,574	1,451	6,517	8,431	6,762	862	7,381	5,256	6,627
2015 - 1	510	6,969	212	8,872	788	7,186	105	10,172	529	7,406
2	587	6,961	15	9,151	573	6,820	11	10,531	461	7,339
3	769	6,896	31	8,760	405	7,053	21	9,943	268	7,931
4	-	-	-	-	745	7,049	87	9,508	332	7,773
5	686	6,836	133	8,493	951	6,794	31	9,392	610	7,325
6	549	6,983	47	8,388	679	7,044	48	9,397	564	7,224
7	524	6,801	31	8,836	697	7,053	17	9,483	568	7,673
8	412	7,056	50	8,072	732	6,853	15	9,407	490	7,285
9	364	6,760	115	7,593	692	6,854	59	8,577	401	7,007
10	360	6,381	96	7,553	528	6,625	39	8,424	594	6,948
11	444	6,338	84	7,827	536	6,825	56	8,506	431	6,872
12	315	6,496	65	7,091	601	6,665	41	8,132	339	6,821
2016 - 1	289	6,176	124	6,937	564	6,281	62	7,798	476	6,358
2	493	6,000	99	7,188	468	6,279	35	7,786	292	6,422
3	596	5,838	40	5,973	579	5,969	42	7,248	289	6,056
4	-	-	-	-	659	5,668	30	6,711	357	6,090
5	542	5,541	167	6,027	538	5,636	102	6,759	255	5,730
6	498	5,497	47	5,933	802	5,641	51	6,361	442	5,777
7	516	5,332	118	5,566	573	5,360	76	6,157	423	5,419
8	499	5,370	88	5,194	566	5,549	69	6,104	332	5,340
9	442	5,217	73	5,565	598	5,395	51	6,087	294	5,636
10	440	5,276	160	6,069	548	5,420	62	6,122	250	5,883
11	599	5,575	64	5,460	783	5,716	76	6,425	295	6,101
12	421	6,156	154	6,884	610	6,382	55	7,049	368	6,480
2017 - 1	446	6,355	99	6,513	931	6,657	54	7,305	326	6,623
2	435	5,944	66	6,352	199	6,385	26	7,265	307	6,541
3	636	6,287	137	6,509	725	6,585	111	7,301	540	6,641
4	-	-	-	-	630	6,213	30	6,987	595	6,115
5	700	6,219	288	6,363	844	6,551	121	7,397	423	6,382
6	586	6,234	117	6,654	821	6,398	67	7,331	397	6,364
7	321	6,457	84	6,742	493	6,743	40	7,527	426	6,781
8	647	6,313	184	6,645	795	6,611	112	7,221	534	6,577
9	580	6,629	81	6,485	838	6,760	50	7,240	371	6,703
10	586	6,996	94	6,847	459	7,011	41	7,433	313	6,907
11	588	7,487	165	6,673	833	7,288	137	7,539	570	6,926
12	422	7,495	136	6,112	862	7,580	71	7,729	454	7,083
2018 - 1	636	7,911	116	6,975	613	7,868	60	7,593	526	7,120

資 料：財務省調査。通関統計による、単価はC I F 価格である。

Source: The customs Bureau, Ministry of Finance

Remarks: A unit price is CIF price.

(18) 絹織物生産数量
Production of Silk Fabrics

(単位 : 1,000m²)
(Unit : 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先 染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crepe	先 練 (先 染) Dyed Yarn	
暦 年 Calendar Year									
2010	3,611	1,379	871	66	442	1,538	630	908	694
2011	3,152	1,438	786	62	591	1,003	562	441	711
2012	2,912	1,357	738	54	565	879	429	449	677
2013	2,940	1,428	813	46	569	809	397	412	703
2014	2,734	1,441	803	40	599	665	298	367	628
2015	2,316	1,228	664	35	529	630	283	347	458
2016	2,243	1,191	620	38	533	603	266	337	449
2017	2,194	1,183	638	50	495	587	272	315	424
2014 — 1	226	120	67	3	50	51	23	28	55
2	236	121	68	3	50	57	25	32	58
3	240	125	75	4	46	57	26	31	58
4	244	125	73	4	48	61	29	32	58
5	249	134	70	4	61	57	24	33	57
6	252	137	72	4	61	57	25	32	58
7	238	125	67	3	55	55	24	31	57
8	195	104	63	3	38	47	20	27	43
9	207	111	66	3	43	53	24	29	43
10	222	112	63	3	45	58	27	31	52
11	212	112	61	3	48	56	26	31	44
12	214	113	57	3	53	56	26	30	45
2015 — 1	191	98	60	3	36	52	22	30	41
2	182	86	57	2	27	53	25	29	43
3	192	94	60	3	31	57	27	30	41
4	208	110	57	2	51	58	29	29	40
5	182	99	52	3	43	50	22	28	33
6	217	121	57	3	61	54	24	30	42
7	206	111	53	3	54	55	23	33	40
8	161	84	54	3	28	44	20	24	32
9	183	99	53	3	43	49	23	26	36
10	198	105	56	3	45	54	24	30	40
11	193	106	52	3	52	52	23	29	35
12	200	115	52	3	59	50	21	29	36
2016 — 1	172	94	54	3	37	44	18	26	34
2	173	85	53	3	30	51	24	28	37
3	190	99	56	3	39	52	23	29	39
4	214	117	53	3	61	58	24	34	39
5	204	117	52	3	61	51	20	31	36
6	213	114	53	3	58	54	25	29	45
7	181	89	50	4	35	50	23	28	41
8	160	81	48	3	30	45	21	24	35
9	171	87	49	3	35	49	22	27	35
10	187	98	50	3	45	52	23	29	37
11	190	104	52	3	49	50	23	27	36
12	188	106	50	3	53	47	21	25	35
2017 — 1	161	86	49	4	38	43	19	24	32
2	171	85	52	4	29	49	24	25	37
3	186	96	56	4	36	51	23	28	39
4	187	99	53	4	42	51	24	27	37
5	182	100	51	4	45	50	22	27	33
6	205	113	53	4	55	54	25	29	38
7	182	102	56	5	41	48	22	25	32
8	162	88	51	4	33	43	20	24	31
9	168	87	53	5	29	48	22	26	34
10	192	105	53	4	48	50	24	26	37
11	199	111	55	4	52	51	23	28	37
12	199	113	55	5	53	49	23	26	37
2018 — 1	169	99	53	4	43	41	20	22	28

資 料 : (一社) 日本絹人織織物工業会。

備 考 : 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association.

Remarks : Spun and mixed fabrics included .

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項 目 Item 年 月 Year & Month	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2006	18,504	93.4	912,027	86.2	132,448	78.1	598,040	86.4
2007	15,466	83.6	712,560	78.1	97,204	73.0	977,719	163.5
2008	14,043	90.8	656,919	92.2	88,401	90.8	867,490	88.7
2009	9,955	70.9	503,365	76.6	73,681	84.0	746,538	86.1
2010	3,611	36.3	515,721	102.5	84,023	110.0	859,244	115.1
2011	3,152	87.3	475,989	92.3	70,803	84.3	692,943	80.6
2012	2,912	92.4	451,503	94.9	62,910	88.9	645,679	92.9
2013	2,940	101.0	433,451	96.0	55,792	88.7	630,586	97.7
2014	2,734	93.0	400,192	92.3	53,174	95.3	600,917	95.3
2015	2,313	84.6	351,309	87.8	41,893	78.8	526,417	87.6
2016	2,243	97.0	310,271	88.3	38,063	90.9	488,144	92.7
2017	2,194	97.8	294,451	94.9	36,227	95.2	477,594	97.8
2014 — 1	226	94.6	24,533	98.0	4,530	101.7	50,063	91.7
2	236	97.5	38,740	92.4	4,396	94.9	54,843	105.0
3	240	96.8	33,931	91.4	4,903	113.9	62,781	112.6
4	244	94.6	34,069	87.6	4,841	88.1	53,582	86.7
5	249	101.2	33,576	96.2	4,241	88.5	50,515	84.8
6	252	98.4	36,794	90.0	4,980	106.1	47,469	96.3
7	238	90.5	33,951	92.5	4,374	87.1	47,632	103.3
8	195	93.3	30,098	98.0	3,355	94.1	42,905	99.4
9	207	95.0	34,688	88.8	4,908	98.7	50,566	108.9
10	222	85.7	31,587	98.2	4,417	89.1	50,476	94.3
11	212	84.5	35,611	90.5	4,179	100.2	44,217	77.8
12	214	85.6	32,614	88.9	4,050	85.7	45,868	88.6
2015 — 1	191	84.5	23,759	96.8	3,624	80.0	47,602	95.1
2	182	77.1	34,789	89.8	3,895	88.6	43,469	79.3
3	192	80.0	31,168	91.9	4,472	91.2	49,386	78.7
4	208	85.2	31,316	91.9	4,117	85.0	50,797	94.8
5	182	73.1	29,814	88.8	3,105	73.2	43,367	85.8
6	217	86.1	31,254	84.9	4,011	80.5	41,884	88.2
7	206	86.6	28,297	83.3	3,545	81.0	45,889	96.3
8	161	82.6	27,192	90.3	3,122	93.1	34,886	81.3
9	183	88.4	28,540	82.3	3,270	66.6	43,982	87.0
10	198	89.2	28,745	91.0	2,808	63.6	44,298	87.8
11	193	91.0	30,007	84.3	3,138	75.1	37,921	85.8
12	200	93.5	26,428	81.0	2,786	68.8	43,936	95.8
2016 — 1	172	90.1	22,012	92.6	2,707	74.7	39,031	82.0
2	172	94.5	28,277	81.3	3,482	89.4	44,351	102.0
3	190	99.0	25,517	81.9	3,284	73.4	49,298	99.8
4	214	102.9	29,177	93.2	3,167	76.9	47,090	92.7
5	204	112.1	24,051	80.7	3,228	104.0	43,230	99.7
6	213	98.2	26,552	85.0	3,393	84.6	43,263	103.3
7	181	87.9	26,799	94.7	3,169	89.4	36,125	78.7
8	161	100.0	21,611	79.5	3,302	105.8	32,724	93.8
9	171	93.4	26,624	93.3	3,175	97.1	36,533	83.1
10	187	94.4	26,625	92.6	3,356	119.5	38,158	86.1
11	190	98.4	24,839	82.8	3,244	103.4	39,561	104.3
12	188	94.0	28,187	106.7	2,556	91.7	38,780	88.3
2017 — 1	161	93.6	19,191	87.2	2,721	100.5	40,302	103.3
2	171	99.4	25,321	89.5	2,680	77.0	37,708	85.0
3	186	97.9	23,533	92.2	3,134	95.4	42,381	86.0
4	187	87.4	28,368	97.2	3,153	99.6	42,281	89.8
5	182	89.2	22,784	94.7	3,158	97.8	43,917	101.6
6	205	96.2	28,370	106.8	3,096	91.2	43,127	99.7
7	182	100.6	26,213	97.8	3,217	101.5	35,048	97.0
8	162	100.6	19,448	90.0	2,652	80.3	30,977	94.7
9	168	98.2	26,458	99.4	3,039	95.7	39,274	107.5
10	192	102.7	25,167	94.5	3,164	94.3	38,479	100.8
11	199	104.7	23,926	96.3	3,049	94.0	41,467	104.8
12	199	105.9	25,672	91.1	3,164	123.8	42,670	110.0
2018 — 1	169	105.0	17,326	90.3	3,005	110.4	35,097	87.1
2			25,063	99.0	2,912	108.7		

資 料：絹織物生産数量は（一社）日本絹人織織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

備 考：1. 2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

2. 2009年から調査対象が変更された。

Source：Japan Silk & Rayon Weaver's Association

Remarks：Since Jan. 2006, sash linings are included in sash production.

(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況
Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item 年月 Year & Month	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing&footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts &sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
暦年Calendar Year												
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 1.7	11,994	▲ 4.2	261	▲ 12.7	4,622	▲ 5.5	2,468	▲ 5.0	1,098	▲ 3.1
2010	290,244	▲ 0.5	11,499	▲ 4.1	245	▲ 6.1	4,459	▲ 3.5	2,353	▲ 4.7	1,069	▲ 2.6
2011	282,966	▲ 2.5	11,382	▲ 1.0	270	10.2	4,273	▲ 4.2	2,403	2.1	1,100	2.9
2012	286,169	1.1	11,453	0.6	246	▲ 8.9	4,305	0.7	2,410	0.3	1,087	▲ 1.2
2013	290,454	1.5	11,756	2.6	177	▲ 28.3	4,583	6.4	2,504	3.9	1,066	▲ 2.0
2014	291,194	0.3	11,983	1.9	227	28.3	4,617	0.7	2,518	0.6	1,097	3.0
2015	287,373	▲ 1.3	11,363	▲ 5.2	165	▲ 27.0	4,451	▲ 3.6	2,389	▲ 5.1	994	▲ 9.4
2016	282,188	▲ 1.8	10,878	▲ 4.3	128	▲ 22.8	4,225	▲ 5.1	2,282	▲ 4.5	1,006	1.2
2017	283,072	0.3	10,806	▲ 0.7	200	56.8	4,192	▲ 0.8	2,212	▲ 3.1	1,003	▲ 0.3
2015 - 1	289,847	▲ 2.4	12,881	▲ 12.6	188	▲ 70.3	5,921	▲ 7.8	2,332	▲ 18.7	1,102	0.2
2	265,632	▲ 0.4	8,788	4.8	117	6.4	3,885	8.7	1,711	15.3	610	▲ 8.3
3	317,579	▲ 8.1	13,185	▲ 11.8	104	▲ 38.1	6,179	▲ 8.0	2,341	▲ 7.6	810	▲ 30.5
4	300,480	▲ 0.5	12,493	10.5	155	96.2	4,759	9.9	2,532	2.3	881	1.7
5	286,433	5.5	12,499	2.9	101	▲ 57.6	4,191	6.8	2,975	2.1	1,127	▲ 0.5
6	268,652	▲ 1.5	10,737	▲ 11.6	155	▲ 51.9	3,603	▲ 12.8	2,750	▲ 1.3	987	▲ 16.6
7	280,471	0.1	11,552	2.6	144	▲ 59.1	4,135	13.0	2,923	▲ 1.5	1,103	▲ 7.0
8	291,156	3.2	8,996	▲ 3.3	179	▲ 20.8	2,890	▲ 6.9	2,058	▲ 4.1	977	▲ 0.4
9	274,309	▲ 0.3	9,269	1.0	288	70.4	3,310	3.5	2,082	▲ 3.3	805	▲ 0.5
10	282,401	▲ 2.1	11,468	▲ 4.3	179	▲ 19.0	4,481	▲ 3.6	2,459	▲ 4.3	1,008	▲ 4.3
11	273,268	▲ 2.5	12,390	▲ 12.2	351	195.0	5,116	▲ 14.1	2,291	▲ 16.6	1,160	▲ 12.4
12	318,254	▲ 4.2	12,099	▲ 15.3	22	▲ 73.2	4,938	▲ 13.9	2,214	▲ 14.0	1,356	▲ 20.3
2016 - 1	280,973	▲ 3.1	12,332	▲ 4.3	42	▲ 77.7	5,401	▲ 8.8	2,374	1.8	1,137	3.2
2	269,774	1.6	8,435	▲ 4.0	63	▲ 46.2	3,755	▲ 3.3	1,495	▲ 12.6	669	9.7
3	300,889	▲ 5.3	11,815	▲ 10.4	129	24.0	5,509	▲ 10.8	1,997	▲ 14.7	752	▲ 7.2
4	298,520	▲ 0.7	11,452	▲ 8.3	130	▲ 16.1	4,232	▲ 11.1	2,486	▲ 1.8	866	▲ 1.7
5	281,827	▲ 1.6	13,167	5.3	317	213.9	4,653	11.0	3,057	2.8	1,151	2.1
6	261,452	▲ 2.7	10,717	▲ 0.2	194	25.2	3,523	▲ 2.2	2,717	▲ 1.2	1,001	1.4
7	278,067	▲ 0.9	10,995	▲ 4.8	149	3.5	3,781	▲ 8.6	2,724	▲ 6.8	1,223	10.9
8	276,338	▲ 5.1	8,024	▲ 10.8	100	▲ 44.1	2,693	▲ 6.8	1,923	▲ 6.6	876	▲ 10.3
9	267,119	▲ 2.6	8,129	▲ 12.3	86	▲ 70.1	2,919	▲ 11.8	1,791	▲ 14.0	752	▲ 6.6
10	281,961	▲ 0.2	11,581	1.0	63	▲ 64.8	4,658	4.0	2,493	1.4	1,021	1.3
11	270,848	▲ 0.9	11,860	▲ 4.3	69	▲ 80.3	4,748	▲ 7.2	2,186	▲ 4.6	1,309	12.8
12	318,488	0.1	12,025	▲ 0.6	189	759.1	4,822	▲ 2.3	2,147	▲ 3.0	1,317	▲ 2.9
2017 - 1	279,249	▲ 0.6	12,730	3.2	88	109.5	5,754	6.5	2,376	0.1	1,071	▲ 5.8
2	260,644	▲ 3.4	8,092	▲ 4.1	239	279.4	3,459	▲ 7.9	1,467	▲ 1.9	594	▲ 11.2
3	297,942	▲ 1.0	12,149	2.8	492	281.4	5,711	3.7	1,908	▲ 4.5	733	▲ 2.5
4	295,929	▲ 0.9	11,639	1.6	131	0.8	4,174	▲ 1.4	2,567	3.3	904	4.4
5	283,056	0.4	11,451	▲ 13.0	142	▲ 55.2	3,933	▲ 15.5	2,670	▲ 12.7	1,079	▲ 6.3
6	268,802	2.8	9,897	▲ 7.7	275	41.8	3,277	▲ 7.0	2,361	▲ 13.1	929	▲ 7.2
7	279,197	0.4	11,687	6.3	588	294.6	3,957	4.7	2,740	0.6	1,249	2.1
8	280,320	1.4	7,924	▲ 1.2	51	▲ 49.0	2,525	▲ 6.2	1,814	▲ 5.7	816	▲ 6.8
9	268,802	0.6	8,315	2.3	156	81.4	2,942	0.8	1,783	▲ 0.4	792	5.3
10	282,872	0.3	11,306	▲ 2.4	19	▲ 69.8	4,656	▲ 0.0	2,327	▲ 6.7	1,042	2.1
11	277,361	2.4	12,263	3.4	122	76.8	4,880	2.8	2,363	8.1	1,378	5.3
12	322,157	1.2	12,219	1.6	97	▲ 48.7	5,038	4.5	2,173	1.2	1,447	9.9
2018 - 1	289,703	3.7	12,400	▲ 2.6	120	36.4	5,578	▲ 3.1	2,161	▲ 9.0	1,036	▲ 3.3

資料：総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考：「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4項目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source: Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks: Clothing&footwear includes japanese clothing , clothing , shirts&sweaters and other items.

Year value is mean of the each month

－資料・海外－

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2010年	2011年	2012年
		トン	トン	トン
日本	Japan	265	220	202
中国	China	621,000	661,000	655,000
インド	India	131,924	139,871	144,434
ウズベキスタン	Uzbekistan	23,942	24,667	25,012
イラン	Iran	9,780	10,208	10,637
タイ	Thailand	4,650	4,580	4,580
ブラジル	Brazil	4,439	3,037	2,620
ベトナム	Vietnam	2,570	2,500	2,500
北朝鮮	North Korea	1,016	900	900
トルコ	Turkey	126	151	134
ブルガリア	Bulgaria	75	48	73
インドネシア	Indonesia	161	143	143
シリア	Syria	3.0	5	6.0
主要国の計	Total	799,951	847,330	846,241

区 分		2013年	2014年	2015年
		トン	トン	トン
日本	Japan	168	149	135
中国	China	643,000	641,000	628,000
インド	India	142,487	164,538	157,524
ウズベキスタン	Uzbekistan	26,455	25,000	27,237
イラン	Iran	11,065	11,493	12,538
タイ	Thailand	4,755	4,839	4,881
ブラジル	Brazil	2,608	2,563	2,544
ベトナム	Vietnam	2,500	2,495	2,515
北朝鮮	North Korea	900	857	937
トルコ	Turkey	121	80	75
ブルガリア	Bulgaria	73	65	65
インドネシア	Indonesia	114	71	57
シリア	Syria	5.0	5.0	3.0
主要国の計	Total	834,251	853,155	836,511

注1 日本は(一財)大日本蚕糸会、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)及びFAOの統計値を使用した。

注2 生糸生産量からの推計を含む。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2010年		2011年		2012年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	53	882	44	731	30	506
中国	China	96,000	1,600,000	104,000	1,733,333	126,000	2,100,000
インド	India	16,360	272,667	18,272	304,533	18,715	311,917
ウズベキスタン	Uzbekistan	940	15,667	940	15,667	940	15,667
タイ	Thailand	665	11,083	655	10,917	655	10,917
ブラジル	Brazil	770	12,833	558	9,300	440	7,333
ベトナム	Vietnam	460	7,667	448	7,467	448	7,467
イラン	Iran	75	1,250	120	2,000	123	2,050
北朝鮮	North Korea	102	1,700	90	1,500	90	1,500
トルコ	Turkey	18	300	22	367	19	317
インドネシア	Indonesia	20	333	20	333	20	333
ブルガリア	Bulgaria	9.2	153	5.9	98	9.0	150
シリア	Syria	0.6	10	0.5	8	0.5	8
主要国の計	Total	115,473	1,924,545	125,175	2,086,254	147,490	2,458,164

区 分		2013年		2014年		2015年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	25	409	27	446	23	378
中国	China	125,000	2,083,333	125,000	2,083,333	122,000	2,033,333
インド	India	19,476	324,600	21,390	356,500	20,474	341,233
ウズベキスタン	Uzbekistan	980	16,333	1,100	18,333	1,200	20,000
タイ	Thailand	680	11,333	692	11,533	698	11,633
ブラジル	Brazil	440	7,333	433	7,217	463	7,717
ベトナム	Vietnam	448	7,467	447	7,450	450	7,500
イラン	Iran	123	2,050	110	1,833	120	2,000
北朝鮮	North Korea	90	1,500	86	1,433	94	1,567
トルコ	Turkey	17	283	11	183	11	183
インドネシア	Indonesia	16	267	10	167	8	133
ブルガリア	Bulgaria	9.0	150	8	133	8	133
シリア	Syria	0.7	12	0.5	8	0.3	5
主要国の計	Total	147,305	2,455,071	149,315	2,488,571	145,549	2,425,816

注1 日本は(一財)大日本蚕糸会、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)及びFAOの統計値を使用した。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association(ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

(3)中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)				生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)			
		2011	2012	2013	2014	2011	2012	2013	2014
山 西	Shanxi	6,675	6,001	4,945	4,872	64	55	65	61
河 北	Hebei								
遼 寧	Liaoning					4,184	2,463	2,310	4,504
江 蘇	Jiangsu	65,618	66,537	54,501	52,645	13,003	19,493	20,949	29,738
浙 江	Zhejiang	50,885	46,728	45,256	38,442	5,748	6,688	14,293	15,505
安 徽	Anhui	25,185	21,601	18,286	16,488	5,040	8,139	8,909	9,101
江 西	Jiangxi	9,179	9,216	9,121	9,072		3,021	4,653	6,225
山 東	Shandong	20,000	22,000	21,200	20,800	3,613	5,452	4,949	3,414
河 南	Henan	10,023	10,003	9,608	7,984			1,972	2,160
湖 北	Hubei	17,300	16,850	16,550	16,450	437	572	1,007	1,683
湖 南	Hunan	2,596	2,336	2,595	2,988				
広 東	Guangdong	75,066	45,000	36,523	35,659	1,183	1,548	1,726	2,312
広 西	Guangxi	231,005	256,000	271,000	279,500	8,312	27,834	35,425	40,645
重 慶	Chongqing	17,144	16,716	15,711	15,733	3,811	3,402	3,653	4,730
四 川	Sichuan	74,008	74,600	76,000	77,000	27,742	27,268	29,065	38,096
貴 州	Guizhou	2,410	2,226	2,226	2,161	182	128	234	291
雲 南	Yunnan	40,000	43,000	44,648	46,016	2,108	2,777	2,814	3,433
陝 西	Shaanxi	17,999	11,080	12,014	12,500	4,391	4,642	5,067	5,386
甘 粛	Gansu	373	385	364	348				
寧 夏	Ningxia	575	610	826	578				
新 疆	Xinjiang	100	150	100	100				
内 蒙 古	Inner Mongolia								
合 計	Total	667,240	654,990	643,024	641,006	79,817	113,478	137,090	167,284

資料：中国絲綢年鑑による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移

Domesticated Cocoon Production in China

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	2000年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
北 京	Beijing													
天 津	Tianjin													
河 北	Hebei	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.5	0.5	0.6	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.3
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning										0.0	0.0	0.0	0.0
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai													
江 蘇	Jiangsu	9.0	10.6	12.3	11.2	9.9	7.9	7.9	7.1	6.8	5.9	5.7	5.0	4.0
浙 江	Zhejiang	9.5	8.5	9.6	9.6	8.2	6.8	6.4	6.5	6.1	5.5	4.7	4.0	3.3
安 徽	Anhui	2.5	3.1	3.6	3.9	3.8	2.9	3.3	3.2	3.3	3.2	3.1	3.0	2.9
福 建	Fujian										0.0			
江 西	Jiangxi	0.3	0.9	1.1	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
山 東	Shandong	5.3	6.3	7.0	6.8	6.1	5.2	4.2	3.6	3.3	3.1	2.5	2.2	2.0
河 南	Henan	1.3	1.5	1.6	1.8	2.2	2.2	2.1	1.9	1.9	1.8	1.7	1.8	1.6
湖 北	Hubei	1.2	1.1	1.2	1.2	1.2	0.6	0.7	0.8	0.8	0.8	0.6	0.7	0.6
湖 南	Hunan										0.0	0.1	0.1	0.1
広 東	Guangdong	3.1	6.5	7.5	8.4	8.4	8.6	9.1	9.6	9.7	10.2	10.5	11.0	11.3
広 西	Guangxi	3.0	14.8	19.7	23.3	22.3	22.5	26.5	29.6	31.6	32.3	34.0	36.1	37.8
海 南	Hainan									0.1	0.0	0.1	0.1	0.1
重 慶	Chongqing	3.0	3.1	2.7	2.9	2.4	1.9	2.0	2.0	2.1	1.8	1.8	1.8	1.6
四 川	Sichuan	8.7	9.8	9.8	10.9	10.6	10.7	11.1	11.2	11.4	11.3	11.3	11.2	11.1
貴 州	Guizhou	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1			0.0	0.0	0.0	0.1
雲 南	Yunnan	0.7	1.9	2.4	3.0	2.9	2.7	2.5	2.9	2.6	2.8	3.2	3.1	3.5
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.5	2.3	2.6	3.0	3.3	2.6	2.5	3.5	1.9	1.3	1.2	1.2	0.9
甘 肅	Gansu										0.0	0.0	0.0	0.0
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia													
新 疆	Xinjiang	0.3												
合 計	Total	50.1	71.3	82.0	87.9	83.1	76.1	80.0	83.6	83.1	81.7	81.9	82.4	81.7

資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

Source: "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格
Spot Price of Various Silk Goods

2017年11月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		142.50 ~ 165.90	2,423 ~ 2,820
2	玉繭(double cocoon)		119.50 ~ 134.38	2,032 ~ 2,284
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	120.60 ~ 146.16	2,050 ~ 2,485
4	ビス(bisu)		115.60 ~ 129.12	1,965 ~ 2,195
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	474.24 ~ 480.00	8,062 ~ 8,160
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	478.40 ~ 484.08	8,133 ~ 8,229
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	449.90 ~ 461.90	7,648 ~ 7,852
8	玉糸(doupion silk)	110d	453.00 ~ 461.60	7,701 ~ 7,847
9	土糸(native silk)	110d	447.40 ~ 461.64	7,606 ~ 7,848
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	41.36 ~ 49.02	703 ~ 833
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	31.80 ~ 40.20	541 ~ 683
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	40.68 ~ 45.80	692 ~ 779
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	60.70 ~ 68.90	1,032 ~ 1,171
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	50.60 ~ 55.74	860 ~ 948
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	44.48 ~ 48.80	756 ~ 830

注:1元=17円

2017年12月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		147.25 ~ 169.58	2,503 ~ 2,883
2	玉繭(double cocoon)		124.10 ~ 142.78	2,110 ~ 2,427
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	122.50 ~ 148.25	2,083 ~ 2,520
4	ビス(bisu)		117.00 ~ 131.50	1,989 ~ 2,236
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	486.55 ~ 493.55	8,271 ~ 8,390
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	491.75 ~ 496.98	8,360 ~ 8,449
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	466.33 ~ 473.50	7,928 ~ 8,050
8	玉糸(doupion silk)	110d	459.50 ~ 469.00	7,812 ~ 7,973
9	土糸(native silk)	110d	457.50 ~ 468.00	7,778 ~ 7,956
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	42.35 ~ 50.70	720 ~ 862
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	32.75 ~ 42.00	557 ~ 714
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	41.55 ~ 46.75	706 ~ 795
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	62.33 ~ 71.63	1,060 ~ 1,218
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	51.75 ~ 56.90	880 ~ 967
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	45.55 ~ 50.00	774 ~ 850

注:1元=17円

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興市)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

2018年1月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		151.30 ~ 170.96	2,572 ~ 2,906
2	玉繭(double cocoon)		132.10 ~ 146.62	2,246 ~ 2,493
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	125.40 ~ 147.10	2,132 ~ 2,501
4	ビス(bisu)		121.40 ~ 135.20	2,064 ~ 2,298
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	508.96 ~ 514.88	8,652 ~ 8,753
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	513.20 ~ 518.72	8,724 ~ 8,818
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	484.20 ~ 501.10	8,231 ~ 8,519
8	玉糸(doupion silk)	110d	468.60 ~ 481.20	7,966 ~ 8,180
9	土糸(native silk)	110d	466.60 ~ 480.20	7,932 ~ 8,163
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	45.20 ~ 53.00	768 ~ 901
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	35.60 ~ 43.50	605 ~ 740
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	44.60 ~ 49.40	758 ~ 840
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	65.10 ~ 73.00	1,107 ~ 1,241
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	55.40 ~ 60.40	942 ~ 1,027
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	48.40 ~ 52.00	823 ~ 884

注:1元=17円

2018年2月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		150.43 ~ 169.75	2,557 ~ 2,886
2	玉繭(double cocoon)		133.93 ~ 148.50	2,277 ~ 2,525
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	128.95 ~ 144.75	2,192 ~ 2,461
4	ビス(bisu)		127.95 ~ 139.75	2,175 ~ 2,376
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	513.75 ~ 518.75	8,734 ~ 8,819
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	517.75 ~ 523.75	8,802 ~ 8,904
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	485.75 ~ 502.25	8,258 ~ 8,538
8	玉糸(doupion silk)	110d	475.00 ~ 488.00	8,075 ~ 8,296
9	土糸(native silk)	110d	473.00 ~ 487.00	8,041 ~ 8,279
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	45.60 ~ 53.00	775 ~ 901
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	36.00 ~ 43.50	612 ~ 740
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	45.00 ~ 51.00	765 ~ 867
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	65.50 ~ 73.00	1,114 ~ 1,241
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	59.00 ~ 62.00	1,003 ~ 1,054
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	48.80 ~ 52.00	830 ~ 884

注:1元=17円

(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年指数

Total Wage Bill of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	賃金総額 (億元) Total Wage Bill (100million yuan)				対前年指数 Indices (preceding year=100)			
	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	8,055.8	6,172.6	1,210.6	672.6	119.0	117.4	115.6	142.2
1997年	9,602.4	7,323.9	1,283.9	994.5	103.8	106.2	101.1	124.0
1998年	9,540.2	6,934.6	1,054.9	1,550.7	99.4	94.7	82.2	155.9
1999年	10,155.9	7,289.9	995.8	1,870.1	106.5	105.1	94.4	120.6
2000年	10,954.7	7,744.9	950.7	2,259.1	107.9	106.2	95.5	120.8
2001年	12,205.4	8,515.2	898.5	2,791.7	111.4	109.9	94.5	123.6
2002年	13,638.1	9,138.0	863.9	3,636.2	111.7	107.3	96.1	130.3
2003年	15,329.6	9,911.9	867.1	4,550.6	112.4	108.5	100.4	125.1
2004年	17,615.0	11,038.2	876.2	5,700.6	114.9	111.4	101.0	125.3
2005年	20,627.1	12,291.7	906.4	7,429.0	117.1	111.4	103.4	130.3
2006年	24,262.3	13,920.6	983.8	9,357.9	117.6	113.3	108.5	126.0
2007年	29,471.5	16,689.1	1,108.1	11,674.3	121.5	119.9	112.6	124.8
2008年	35,289.5	19,487.9	1,203.2	14,598.4	119.7	116.8	108.6	125.0
2009年	40,288.2	21,862.7	1,273.3	17,152.1	114.2	112.2	105.8	117.5
2010年	47,269.9	24,886.4	1,433.7	20,949.7	117.3	113.8	112.6	122.1
2011年	59,954.7	28,954.8	1,737.4	29,262.4	126.8	116.3	121.2	139.7
2012年	70,914.2	32,950.0	1,990.4	35,973.8	118.3	113.8	114.6	122.9
2013年	93,064.3	33,359.6	2,195.8	57,508.9	131.2	101.2	110.3	159.9
2014年	102,817.2	36,106.6	2,302.7	64,408.0	110.5	108.2	104.9	112.0
2015年	112,007.8	40,387.9	2,239.4	69,380.5	108.9	111.9	97.3	107.7
2016年	120,074.8	44,462.9	2,268.6	73,343.3	107.2	110.1	101.3	105.7

資料： 中国統計年鑑 (2017)

Source: China Statistical Yearbook 2017

(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年指数

Average Wage of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	年平均賃金 (元) Average Wage (yuan)				対前年指数 Indices(preceding year=100)							
					名目賃金Average Wage				実質賃金Average Real Wage			
	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	5,348	5,553	3,934	7,728	118.9	117.3	121.1	119.9	101.8	100.4	103.7	102.6
1997年	6,444	6,679	4,516	9,092	107.8	107.6	104.7	106.7	104.5	104.4	101.6	103.5
1998年	7,446	7,579	5,314	9,241	115.5	113.5	117.7	101.6	116.2	114.2	118.4	102.3
1999年	8,319	8,443	5,758	10,142	111.7	111.4	108.4	109.8	113.2	112.9	109.8	111.2
2000年	9,333	9,441	6,241	11,238	112.2	111.8	108.4	110.8	111.3	110.9	107.5	109.9
2001年	10,834	11,045	6,851	12,437	116.1	117.0	109.8	110.7	115.3	116.2	109.0	109.9
2002年	12,373	12,701	7,636	13,486	114.2	115.0	111.5	108.4	115.4	116.2	112.6	109.5
2003年	13,969	14,358	8,627	14,843	112.9	113.0	113.0	110.1	111.9	112.0	112.0	109.1
2004年	15,920	16,445	9,723	16,519	114.0	114.5	112.7	111.3	110.3	110.9	109.1	107.7
2005年	18,200	18,978	11,176	18,362	114.3	115.4	114.9	111.2	112.5	113.6	113.1	109.4
2006年	20,856	21,706	12,866	21,004	114.6	114.4	115.1	114.4	112.9	112.7	113.4	112.7
2007年	24,721	26,100	15,444	24,271	118.5	120.2	120.0	115.6	113.4	115.0	114.8	110.6
2008年	28,898	30,287	18,103	28,552	116.9	116.0	117.2	117.6	110.7	109.8	111.0	111.4
2009年	32,244	34,130	20,607	31,350	111.6	112.7	113.8	109.8	112.6	113.7	114.8	110.8
2010年	36,539	38,359	24,010	35,801	113.3	112.4	116.5	114.2	109.8	108.9	112.9	110.7
2011年	41,799	43,483	28,791	41,323	114.4	113.4	119.9	115.4	108.6	107.7	113.9	109.6
2012年	46,769	48,357	33,784	46,360	111.9	111.2	117.3	112.2	109.0	108.3	114.3	109.2
2013年	51,483	52,657	38,905	51,453	110.1	108.9	115.2	111.0	107.3	106.1	112.2	108.2
2014年	56,360	57,296	42,742	56,485	109.5	108.8	109.9	109.8	107.2	106.6	107.6	107.5
2015年	62,029	65,296	46,607	60,906	110.1	114.0	109.0	107.8	108.5	112.3	107.4	106.2
2016年	67,569	72,538	50,527	65,531	108.9	111.1	108.4	107.6	106.7	108.8	106.2	105.4

資料：中国統計年鑑2017

Source: China Statistical Yearbook 2017

(8)中国産業別従業員年平均賃金の推移

Average Wage of Employed Persons in Urb

(単位:元)(yuan)

産業別 Sector	2005年	2010年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
農、林、牧、漁業 Agriculture,Forestry,Fishery	8,207	16,717	22,687	25,820	28,365	31,947	33,612
採掘業Mining	20,449	44,196	56,946	60,138	61,677	59,404	60,544
製造業Manufacturing	15,934	30,916	41,650	46,431	51,369	55,324	59,470
電力、ガス、水道業 Production/Distribution of Electricity,Gas and Water	24,750	47,309	58,202	67,085	73,339	78,886	83,863
建築業Construction	14,112	27,529	36,483	42,072	45,804	48,886	52,082
交通、運輸、倉庫、郵便業 Transport,Starage and Post	20,911	40,466	53,391	57,993	63,416	68,822	73,650
情報通信コンピューターサービス Information Transmission,Computer Service and Software	38,799	64,436	80,510	90,915	100,845	112,042	122,478
卸売、小売業 Wholesale and Retail Trades	15,256	33,635	46,340	50,308	55,838	60,328	65,061
ホテル、飲食業 Hotels and Catering Services	13,876	23,382	31,267	34,044	37,264	40,806	43,382
金融業Financial Intermediation	29,229	70,146	89,743	99,653	108,273	114,777	117,418
不動産業Real Estate	20,253	35,870	46,764	51,048	55,568	60,244	65,497
賃貸、リース業 Leasing and Business Services	21,233	39,566	53,162	62,538	67,131	72,489	76,782
科学研究、技術サービス業 Scientific Research,Technical Services	27,155	56,376	69,254	76,602	82,259	89,410	96,638
水利、環境管理業 Manage of Water Conservancy,Enviroment and Public Services	14,322	25,544	32,343	36,123	39,198	43,528	47,750
家庭サービス業 Services to Households and Other Services	15,747	28,206	35,135	38,429	41,882	44,802	47,577
教育Education	18,259	38,968	47,734	51,950	56,580	66,592	74,498
衛生、社会保障、社会福祉業 Health,Social Securities and Entertainment	20,808	40,232	52,564	57,979	63,267	71,624	80,026
文化、スポーツ、娯楽業 Culture,Sports and Entertainment	22,670	41,428	53,558	59,336	64,375	72,764	79,875
公共機関、社会団体 Public Management and Social Organization	20,234	38,242	46,074	49,259	53,110	62,323	70,959
合 計Total	18,200	36,539	46,769	51,483	56,360	62,029	67,569

(出所)中国統計年鑑2017

Source:China Statistical Yearbook 2017

上記を円(Yen)換算

産業別 Sector	2005年	2010年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
製造業 Manufactur	214,472	401,908	541,450	835,758	886,629	1,074,945	974,119
合 計 Total	244,972	475,007	607,997	926,694	972,774	1,205,223	1,106,780
年別円yen／人民元yuanレート	13.46	12.97	13.00	18.00	17.26	19.43	16.38

(9) 中国省別従業員年平均賃金(2016年)

Average Wage of Employed Persons Urban Units by Region

省(区)別 Region			年平均賃金 (元)(yuan)	円換算 (円)(yen)	前年比(%) 2016/2015	全国平均比(%) Indices(average=100)
北	京	Beijing	119,928	1,964,421	107.7	177.49
天	津	Tianjin	86,305	1,413,676	107.8	127.73
河	北	Hebei	55,334	906,371	108.7	81.89
山	西	Shanxi	53,705	879,688	103.7	79.48
内	蒙	Inner Mongolia	61,067	1,000,277	106.9	90.38
遼	寧	Liaoning	56,015	917,526	107.0	82.90
吉	林	Jilin	56,098	918,885	108.8	83.02
黒	龍	Heilongjiang	52,435	858,885	107.3	77.60
上	海	Shanghai	119,935	1,964,535	109.9	177.50
江	蘇	Jiangsu	71,574	1,172,382	108.1	105.93
浙	江	Zhejiang	73,325	1,201,064	110.0	108.52
安	徽	Anhui	59,102	968,091	107.2	87.47
福	建	Fujian	61,973	1,015,118	107.5	91.72
江	西	Jiangxi	56,136	919,508	110.2	83.08
山	東	Shandong	62,539	1,024,389	109.2	92.56
河	南	Henan	49,505	810,892	109.0	73.27
湖	北	Hubei	59,831	980,032	110.1	88.55
湖	南	Hunan	58,241	953,988	111.2	86.19
広	東	Guangdong	72,326	1,184,700	109.9	107.04
広	西	Guangxi	57,876	948,009	109.2	85.65
海	南	Hainan	61,663	1,010,040	107.1	91.26
重	慶	Chongqing	65,545	1,073,627	108.3	97.00
四	川	Sichuan	63,926	1,047,108	108.5	94.61
貴	州	Guizhou	66,279	1,085,650	111.0	98.09
雲	南	Yunnan	60,450	990,171	115.0	89.46
西	蔵	Tibet	103,232	1,690,940	105.5	152.78
陝	西	Shaanxi	59,637	976,854	108.4	88.26
甘	肅	Gansu	57,575	943,079	108.8	85.21
青	海	Qinghai	66,589	1,090,728	109.0	98.55
寧	夏	Ningxia	65,570	1,074,037	108.6	97.04
新	疆	Xinjiang	63,739	1,044,045	106.0	94.33
全	国	Average	67,569	1,106,780	108.9	100.00

(出所) 中国統計年鑑2017 Source: China Statistical Yearbook 2017

(注) 1元=16.38円 Note: 1yuan=16.38yen

(10)ブラジルの繭・生糸生産数量の推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11	3,037 (68%)
2011/12	2,620 (86%)
2012/13	2,608 (99%)
2013/2014	2,563 (98%)
2014/2015 〔見込み〕 [Estimate]	2,764 (108%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	769,903 (95%)	12,832
2011	557,633 (72%)	9,294
2012	439,504 (79%)	7,325
2013	440,301 (100%)	7,338
2014	432,500 (98%)	7,208
2015 〔見込み〕 [Estimate]	435,500 (101%)	7,258

資料: ブラタク製糸株式会社

注: ()内は対前年比

[]内の見込みは2015年4月現在

Source: Fiação de Seda Brtac S.A

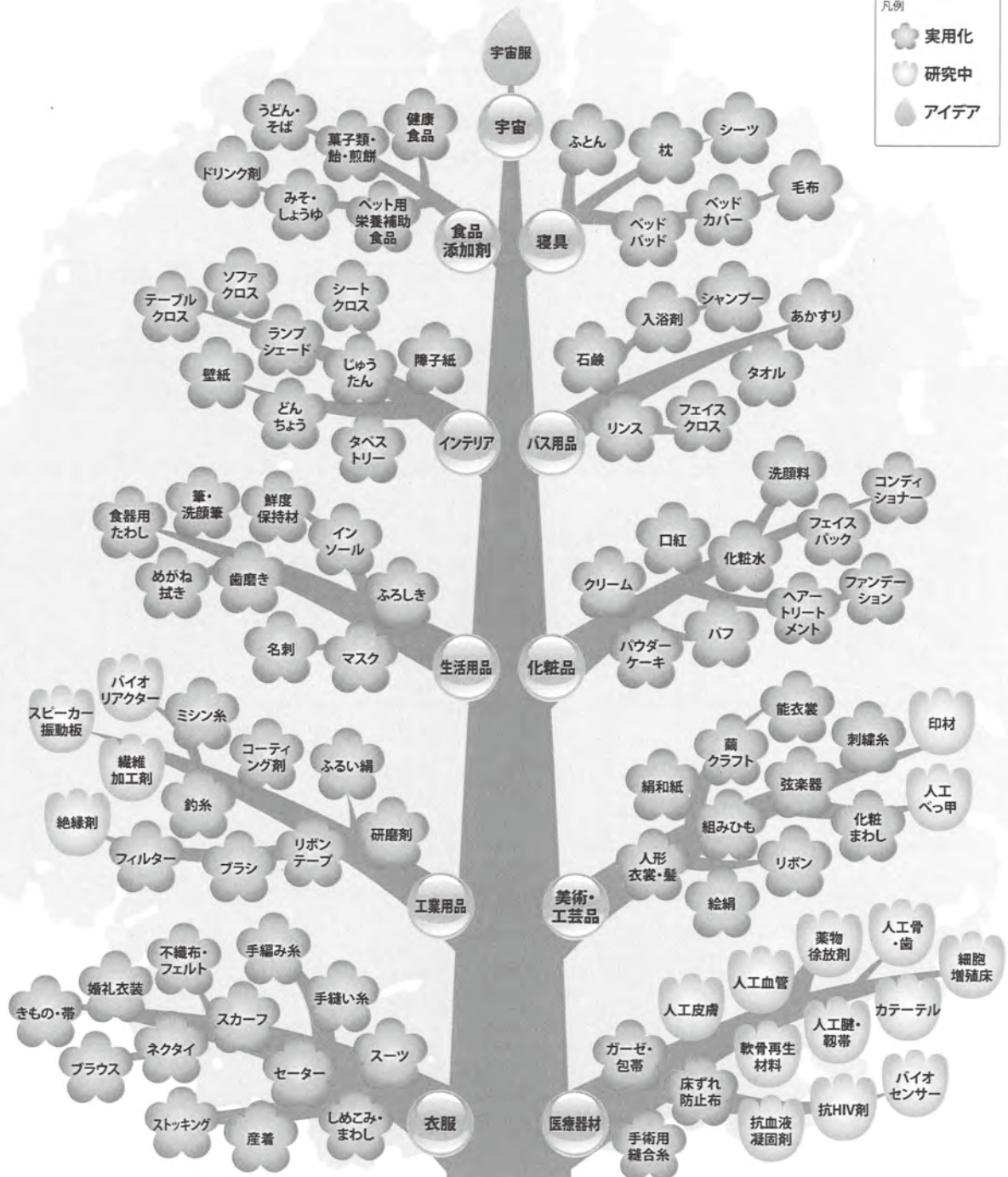
Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of April 2015.

絹利用の系統樹

凡例

- 実用化
- 研究中
- アイデア



絹の利用

絹利用検討会 (2012年)

原図: 小松 計一

※「シルクレポート」の記事と統計データは、下記のホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp>

シルクレポート 2018 年 4 月号 NO.57 平成 30 年 4 月 1 日発行

編集 / 発行

一般財団法人大日本蚕糸会

〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3511

URL:<http://www.silk-teikei.jp>

製本 / 印刷

株式会社正大印刷社

無断転載禁ず